

第5期 とつかハートプラン

(戸塚区地域福祉保健計画)



計画期間: 令和8(2026)年度～令和12(2030)年度

誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現を目指して

TOTSUKA HEARTPLAN PHASE 5



令和8(2026)年4月

とつかハートプラン策定・推進委員会

戸塚区役所

社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会

この計画に出会ってくださった あなたへ

「とつかハートプラン」をご覧ください、ありがとうございます。

「とつかハートプラン」は、戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力を合わせ、安心して心豊かに暮らすことのできる地域「戸塚」を目指すための計画です。

今期の計画は、策定・推進委員の皆さんや、戸塚区に関わるみんなで、アイデアを出し合い、話し合いを重ねて作られました。

「何か活動に参加してみたい」「仲間をつくりたい」「活動を始めたい」
「自分の力を発揮できる場があるかな」「こんな時どうしたらいいのかな」

こんな思いを感じたら、本冊子をぜひ活用してください。みんなが行動していくための、参考となる区内の事例や取組、新しいアイデアがつまっています。

みんなが知り・つながり・組むことで、一人で悩まず、これまでの取組や活動が発展し、更に魅力あふれる戸塚になるように…



とつかハートプランマスコット「こころん」

ご挨拶

とつかハートプラン策定・推進委員会座長 菊池 賢児



このたび、第5期とつかハートプラン（戸塚区地域福祉保健計画）の策定にあたり、委員会を代表してご挨拶申し上げます。

とつかハートプランは、まちぐるみで福祉活動を進め、助け合いの心を大切にしながら、誰もが安心して楽しく暮らし、働き、学ぶことのできるまちを目指しています。

第5期では、これまでの取組を振り返り、課題の棚卸しを行いながら、多くの方の声やアイデアを反映しました。計画冊子は、区民の皆さんにとって「使いやすいヒント集」であり、未来の自分にも役立つ情報源となることを意識して策定しました。この計画は、多種多様な方の参加と、多くの組織の有機的な結びつきによって支えられます。まずは「知ることからはじめよう！」という気持ちで、思いあいの心を持ちながら、自分のスタイルで人や団体とつながってみてください。

まちぐるみで役立つ情報を楽しく使い、自分事として活動することが、未来の戸塚をより豊かにします。皆さんとともに、安心して心豊かに暮らせるまちづくりを進めてまいります。

横浜市戸塚区長 近藤 武



第5期とつかハートプランの策定にあたり、策定・推進委員会の皆様をはじめ、関係機関・団体の皆様には、活発にご議論を重ねていただきましたことを心より感謝申し上げます。

第5期とつかハートプランは、『戸塚スタイルをまちぐるみで！』を合言葉に、地域の皆様とともに策定したものです。お互いを尊重し合う土壌を育み、立場や世代を超えたつながり合いを生かしながら、地域全体で計画を進めていくことを目指しています。

基本理念である「誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現」を目指して、これまで戸塚区で育まれてきたつながりや地域の多岐にわたる活動を更に進めていくためには、区民の皆様一人おひとりの参加とご協力が欠かせません。区役所としても、この計画を今後の地域づくりにしっかりと生かし、実りある未来の戸塚を築けるよう、積極的に取り組んでまいります。引き続き、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会会長 寺尾 正彦

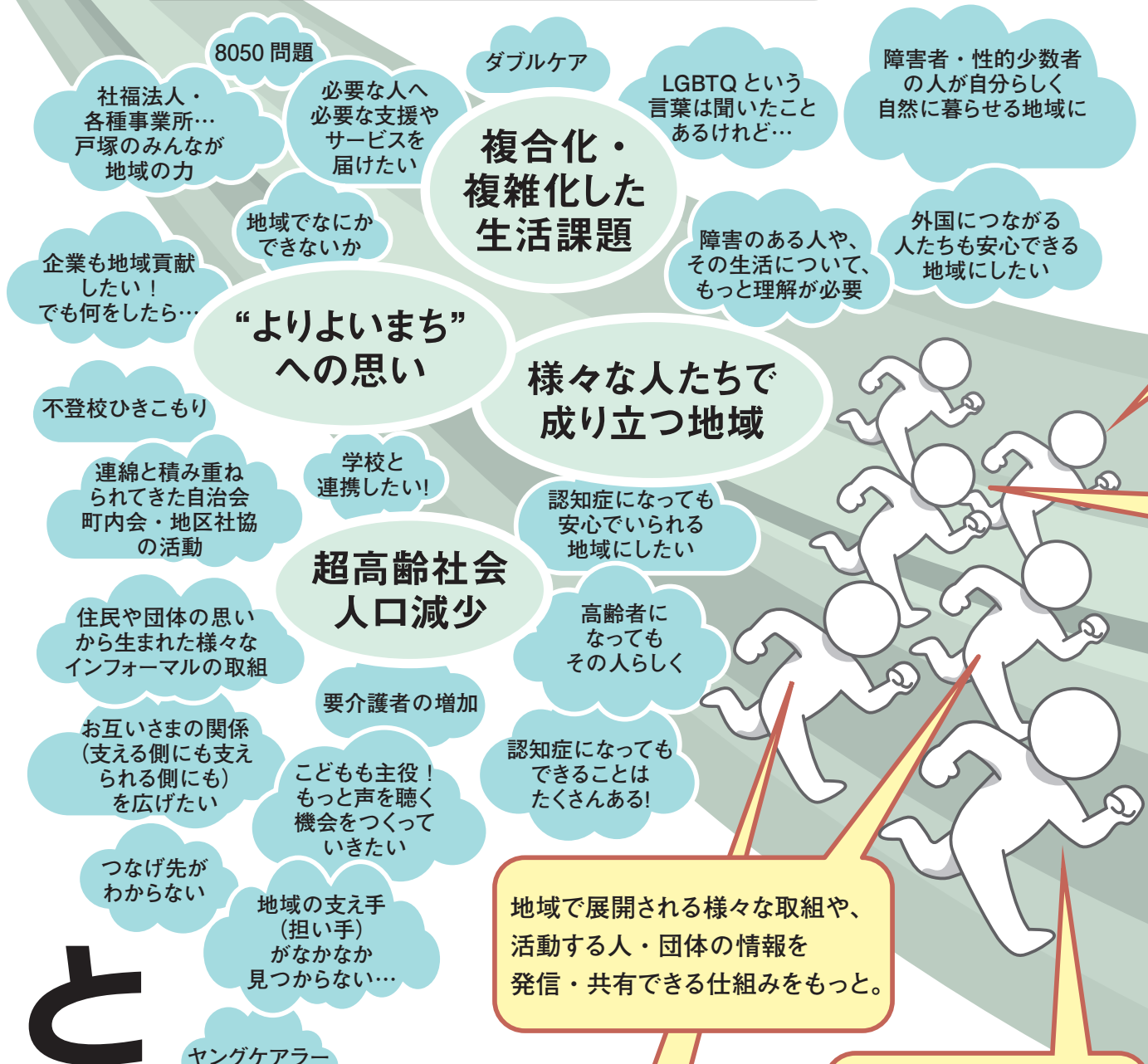


「誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現」を目指して検討を行ってきた「第5期とつかハートプラン」が区民の皆様、関係機関・団体の皆様をはじめとした多くの方々のお力によって完成しました。また、区計画と並行して策定が進められてきた区内18地区の地区別計画も地域の皆様を中心に社会福祉施設、学校なども加わり話し合いを重ねることで、各地区が大切にしたい思いや目標として掲げた「5年後の姿」が、地区別計画としてまとめられました。

第5期計画は令和8年度から令和12年度の5年間の計画ですが、推進には区計画にあるとおり、すべての人・団体・法人が「お互いを知りあい、認めあい、尊重しあい、これまでの枠を飛び越えて力を合わせる」必要があります。

今回策定した第5期計画を一人でも多くの方に知っていただき、関心を持って第1歩を踏み出していただくことで、誰もが支え合い、助けあえる地域社会への歩みが進むことを楽しみにしています。

みんなの声・地域の力・とりまく状況



とっか

のみんなの力を合わせて

戸塚スタイルを

まちなみで！

すべての人・団体・法人が、
お互いを知りあい、
認めあい、尊重しあい
これまでの枠を飛び越えて
力を合わせる時がきた！

連携したい相手が、
どんな望みを持っているかを
わかりあい一歩前へ。

誰もが参加できる場所、
ほっとできる場所、
力を発揮できる機会をもっと。

戸塚スタイル

「3つのアクション」

知

知る



つ

つながる



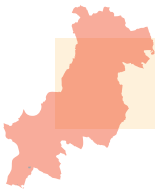
組

組む



3つのアクション×「おもいあい」・「枠にとらわれない」

「おもいあい」と「枠にとらわれない」をキーワードに、
3つのアクションを進めよう



第5期とつかハートプラン(戸塚区地域福祉保健計画)

第5期とつかハートプラン

この計画に出会ってくださった あなたへ	2
ご挨拶	3
戸塚スタイルをまちぐるみで!	4
目次	6
第1章 第5期計画の策定にあたって	
1 とつかハートプラン(戸塚区地域福祉保健計画)とは	8
2 とつかハートプランの構成	8
3 第5期計画を構成する要素	9
4 第5期計画の全体像	10
第2章 区計画 5年後に目指すまちの姿	
ページの見方	12
1 おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている	14
1-1 みんなの意見	14
1-2 取組事例	16
1-3 トピックス～インタビュー 安心して自分らしく暮らせる地域のために	18
2 その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている	20
2-1 みんなの意見	20
2-2 取組事例	22
2-3 トピックス～地域福祉の基盤 自治会・町内会・地域を支える人たち	24
3 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている	26
3-1 みんなの意見	26
3-2 取組事例	28
3-3 トピックス～権利を守るネットワーク	30
4 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている	32
4-1 みんなの意見	32
4-2 取組事例	34
4-3 トピックス～障害のある人とともに暮らす	36
5 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている	38
5-1 みんなの意見	38
5-2 取組事例	40
5-3 トピックス～インタビュー つながり、支え合い、共に力をあわせて	42
6 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている	44
6-1 みんなの意見	44
6-2 取組事例	46
6-3 トピックス～もしものときに備える取組	48

第3章 地区別計画

地区別計画	50
1 戸塚第一地区	52
2 戸塚第二地区	54
3 戸塚第三地区	56
4 踊場地区	58
5 北汲沢地区	60
6 舞岡地区	62
7 川上地区	64
8 柏尾地区	66
9 東戸塚地区	68
10 平戸地区	70
11 平戸平和台地区	72
12 上矢部地区	74
13 名瀬地区	76
14 大正地区	78
15 汲沢地区	80
16 上倉田地区	82
17 下倉田地区	84
18 吉田矢部地区	86

第4章 計画の進め方

1 策定の趣旨（目的）	88
2 第4期計画の振り返り	90
3 推進体制	92
4 区計画と地区別計画の関係	92
5 区役所・区社協・地域ケアプラザの役割	93
6 第5期計画の推進と振り返り	94
7 振り返りのための視点	95

掲載内容 索引	96
---------	----

参考

1 計画の策定経過	98
2 意見募集の概要	99
3 統計データから見た戸塚区	100
4 とつかハートプラン策定・推進委員会	102
5 関係機関	103

第1章 第5期計画の策定にあたって

1 とつかハートプラン（戸塚区地域福祉保健計画）とは

戸塚区で暮らし、学び、働くすべての人が協力しながら進める「戸塚区地域福祉保健計画」の愛称です。とつかハートプラン（以下、「ハートプラン」という。）では、「誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現」を基本理念として、区民・地域団体（自治会・町内会、地区社会福祉協議会等）・関係機関・事業者の皆様と区役所、戸塚区社会福祉協議会、地域ケアプラザ等の協働により、支えあい、助けあえる地域社会の実現を目指します。

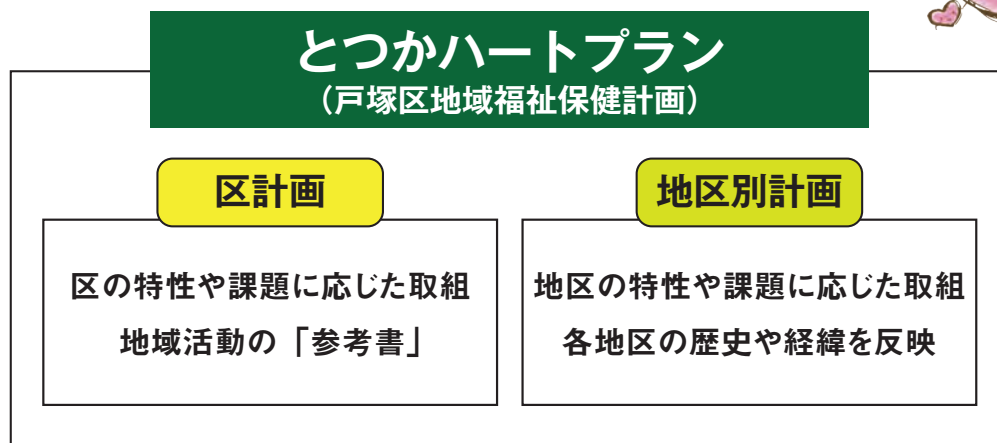
平成18年度より第1期計画が始まり、5年ごとに策定が行われ、令和8年度から第5期とつかハートプランが始まりました。

2 とつかハートプランの構成

ハートプランは前半が「区計画」、後半が「地区別計画」（連合町内会自治会・地区社会福祉協議会単位）で構成されています。

「区計画」は、区全体に共通する課題を共有し取組を実施しながら地区別計画の活動を支えています。「地区別計画」は、区内18地区それぞれの特徴やこれまでの経緯をふまえながら、各地区の課題に対して住民主体で取組を実施します。

双方の計画が連動し地域全体で取り組むことでよりよい戸塚区を目指していきます。



地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、福祉サービスを必要とする人や生活課題を抱える人が、その人らしく生活し社会に参加できるような地域づくりを目指す計画であり、その推進を通して、「地域共生社会」の実現を目指しています。

社会福祉法の規定に基づき市町村が策定する「地域福祉計画」に位置付けられますが、横浜市は独自に「地域福祉保健計画」として、健康に関することや予防的観点を盛り込んでいます。福祉サービスの必要性、生活や健康上の課題の有無に関わらず、誰もが日常的なつながりを基礎としながら安心して心豊かに暮らしていけるまちづくりを目指しているところに特徴があります。

3 第5期計画を構成する要素

【基本理念】

誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現

【基本目標】

〈支えあいと助けあいのあるまち〉 〈みんながふれあう場のあるまち〉
〈安全・安心、人にやさしいまち〉 〈いつまでも元気で健やかに暮らせるまち〉

第5期計画では、基本理念冒頭の「誰もが」を広げ、実現するための取組に力を入れていきます。

「誰もが」の実現なしでは、「安心」や「心豊か」という要素も不十分なものになってしまいます。誰もが地域社会の主演としてその人らしく暮らしていけるよう、年齢の違い、多様な性のあり方、障害の有無、国籍の違いなど、その違いを認めあい、尊重しあえるまちを目指して、取組を進めます。

【第5期計画の取組】 「戸塚スタイル」をまちぐるみで！

～「おもいあい」と「枠にとらわれない」まちづくり～

「おもいあい」

① 地域社会を構成するあらゆる存在を認めあい、尊重しあえる土壌づくりを進めること、② 受け手の立場に立った情報発信、支援・サービスの仕組みづくりを進めること、③ 相手を知り、尊重しあうことで団体・機関・事業者が連携・協力関係の強化を図ること、を表現しています。

「枠にとらわれない」

超高齢化や人口減少、複雑化・複合化する生活課題など、社会情勢や私たちを取り巻く環境が厳しさを増す中で、これまでの枠を取り払い、様々な人、団体、部署、事業者などが手を取りあつて力を合わせる事が求められています。

5年後に目指すまちの姿 (振り返りポイント)

- 1) おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている
- 2) その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている
- 3) 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている
- 4) 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている
- 5) 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている
- 6) 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている

5年間で進める3つのアクション

「知る」「つながる」「組む」

5年間で進める3つのアクションの主体は、戸塚区に関わるすべての人・団体・法人です。

4 第5期計画の全体像

「基本理念」 ～計画の推進を通じて目指す目標像～

誰もが安心して心豊かに暮らす

【基本目標】

支えあいと
助けあいの
あるまち

みんなが
ふれあう場の
あるまち

「第5期計画の取組」

「戸塚ス

「5年後に目指すまちの姿」 (振り返りポイント)

※詳しくはそれぞれに記載したページをご参照ください

1

おたがいの違いを
わかりあい認めあい
尊重しあえるまちに
なっている

※P14-19

2

その人らしい
つながりの中で
いきいきと暮らせる
まちになっている

※P20-25

3

困っている人に
気づき支えつなげる
ことのできるまちに
なっている

※P26-31

「5年間で進める3つのアクション」

知

知る



つ

つながる

3つのアクション × 「おもいあい」・「

こののできる地域社会の実現

安全・安心、
人にやさしい
まち

いつまでも
元気で健やかに
暮らせるまち

「タイル」をまちぐるみで！

4

誰もが安心して
暮らせる仕組みや
場が充実したまちに
なっている

※P32-37

5

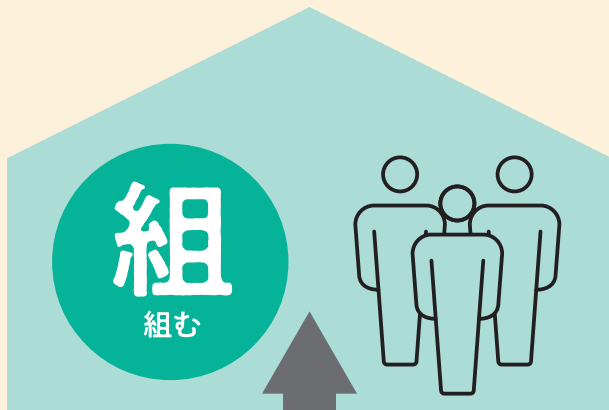
戸塚区に関わる
すべての人・団体・
法人が力をあわせる
まちになっている

※P38-43

6

防災・防犯・健康
危機管理について
みんなで備える
まちになっている

※P44-49



「枠にとらわれない」 = 「戸塚スタイル」

取組事例

第2章 区計画 5年後に目指すまちの姿

1 おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている

1-2 取組事例



福祉教育
戸塚区社会福祉協議会では、各団体と協力し、世代・障害の有無・性別・国籍などを越えて、他者と「共に生きる力」を育むことを目標に、学校や地域の中で福祉の学習を進めています。



障害者週間シンポジウムとついで暮らすー（障害者週間12/3-12/9）
戸塚区社会福祉協議会の障がい福祉分科会では、障害者週間にシンポジウムを開催しています。映像作品「まちものがたり」の上映と当事者のお話です。「まちものがたり」のDVDは区誌で貸し出しています。



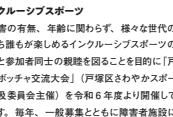
地域ケア会議
地域で暮らす高齢者が介護等が必要になっても安心して住み慣れた地域で暮らし続けるため、地域の支え合いについて話を聴きながら、個人の困りごとの解決から地域づくりにまでつなげていきます。



コミュニティ研究部会によるイベント
戸塚区自立支援協議会の「コミュニティ研究部会」では、障害のある人の意見をもとに、障害の有無や年齢に関わらず、誰もが楽しめるようなレクリエーションや交流会を企画・運営しています。



インクルーブスポーツ
障害の有無、年齢に関わらず、様々な世代の人たち誰もが楽しめるインクルーブスポーツの実現と参加者同士の親睦を図ることを目的に「戸塚区ポッチャ交流大会」（戸塚区わかスポーツ普及委員会主催）を令和6年度より開催しています。毎年、一般障害者とともに障害者施設にお声がけし、5-6チーム（30チーム中）に参加いただいています。また、高齢者施設や老人クラブのチームにも参加していただき世代交流も図っています。



東保野特別支援学校に通う、人工呼吸器や医療的ケアを必要とする子どもたちの保護者が主体となった活動を開始しました。

地域で行われている取組・活動・事業を紹介しています。

市生活学習センターで、障がい、高齢者などおつなぐの会が主催する活動です。活動に関する情報の提供と発信、活動の提供、必要な機材の貸出、交流イベントや講座開催などを通じて、活動が地域に届くように応援しています。「地域で何かを始めたい」「仲間を増やしたい」



「地域活動の情報を知りたい！」等、様々なご相談に応じ、400以上の団体や個人の登録があり、「保健・福祉」「まちづくり」「文化・芸術・スポーツ」「国際協力」「子どもの健全育成」その他多様な分野や内容で活動しています。こうした団体を紹介するイベント「つなぐお結びプロジェクト」を毎年開催し、新たな学びや仲間との出会いの場になっています。

■呼吸器生活上委員会「こどもハッシー！呼吸器生活上PROJECT」

東保野特別支援学校に通う、人工呼吸器や医療的ケアを必要とする子どもたちの保護者が主体となった活動を開始しました。障害のない人と交流する映画鑑賞（ともいきシネマ）やインクルーブ自然体験会、インクルーブ美術館ツアーなどの企画、そしてとつなぐまつりへの参加など、子どもたち自身が主体となり、ありのままの姿で街に出て、リアルな生活を伝えています。「バリアフリーとは気をつけよう、と周囲に呼びかけています。医療的ケアを必要とする子どもたちに、最初はどう接すればよいか戸惑う人も、日常的な関わりを通して、互いを知り、共に生きることを体感していきます。子どもたちがやりたいことを、多様な分野の人と協力して実現し、保護者だけでなく、ボランティアなど、活動に参加する人がアイデア



を出しながら、障害や病気で常に医療とともに生きる人が社会の中で共に生きられるように働きかけを行うことも大切にしています。

※東保野特別支援学校は隣接の小学校の子どもたちと日常的に交流しています。こうした関わりを通して、障害のある人たちが社会の一員であることも子どもたちが自然に受け止め、考えられるようになっていきます。

トピックス

第2章 区計画 5年後に目指すまちの姿

1 おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重し

1-3 トピックス～インタビュー 安心して自分らし

■地域で育む多文化共生「キララの教室」の歩みとこれから

外国にルーツを持つ子どもたちが安心して学び、暮らせる地域を目指して活動する「キララの教室」。2009年の立ち上げから現在まで関わってきた代表の飯塚紀子さんとボランティアとして活動している大塚由紀子さん、林和弘さんにお話を伺いました。

外国にルーツを持つ子どもたちの保護者が地域で暮らすために一人ひとりができること、慣れない土地での生活では不安が大きいなかで「大丈夫？」と声をかけるだけでも安心することがあります。近頃同士で知り合いになり、声をかけ合える。そんな地域コミュニティが望まれます。外国にルーツを持つ子どもたちや保護者に対して、無意識、無自覚な差別的発言もあつて、お互いが理解し合うために外国にルーツを持つ人との接点を広げる必要があります。お互いに関心を寄せあうことによって、共生社会実現の一歩となるのではないのでしょうか。

「学校では足りない支援を地域で」の思いから
小学校の教員である飯塚さんは、約20年前から学級に「外国にルーツを持つ子」が1-2名在籍する状況を経験しています。国際教室も十分ではなく、学校での個別支援には限界があり、放課後に学習と保護者支援を行う場を立ち上げました。ボランティアの大塚さん、林さんは海外での学習支援や教員経験から、外国にルーツを持つ人々の支援に関わるようになり学習支援とともに保護者の困りごとに対応しています。

今後の活動の展望
先日行った「外国につながる子どもへの日本語指導入門講座」では、多くの人が参加し、特に保育園幼稚園等の先生方が関心を寄っていました。このような、支援の場を一所に集中させるのではなく、地域近接の拠点を増やすために新設にとどまらず、既存の国際教室や地区センター、コミュニティハウスなどを借り、小規模でも各地域に広げることが望まれます。ボランティアのすそ野を広げると同時に、より専門的な知識や経験が必要とする相談なども増えていくので、様々な機関へとつなげていくことも視野に、同じ地域で暮らす仲間として寄り添う気持ちが大切です。

外国にルーツを持つ子どもたちや保護者が抱える困難
活動初期と現在では、ルーツとする国籍が変化しています。また、以前は日本語の基礎を身につけた子どもたちの教科の支援が主流でしたが、今は、日本語の読み書きや会話に不自由する子どもが増えていて、「日本語初期指導」の必要性が生じており、日本語指導支援体制が求められるようになっています。

学校では、教員が多忙な現状の中、個人情報保護の観点から、地域のボランティアに支援を求めることが困難になっています。区域規模の大きな戸塚区では、交通費等の負担を考慮すると、点在する国際教室とつながることも難しい状況にあります。不登校や家庭不和なども抱え、さらには経済的困難のため奨学金申請手続きなどの併走支援が求められることもあります。

子どもへの声かけを見守り、一人ひとりができることから誰かを安心させて暮らせる環境につながる

ここでは取組をより深く知っていただくため、実際に活動を行っている人たちからのお話や関わる事業、施策を紹介しています。

世の中でLGBTQについて取り上げられることも増えていますが、当事者が安心して暮らすには、まだまだ困難なことは多く存在です。性的マイノリティの人々が、自分らしく心身に健康に暮らせる社会、多様性が尊重される社会の実現を目指して活動している特定非営利活動法人 SHIP。その理事である星野慎二さんに、活動を通して見えてくる課題や今後の活動の方向性についてお話を伺いました。

当事者の方が抱えている課題にはどんなものがあるのでしょうか？

2015年頃から、LGBTQがメディアで取り上げられることにより急速に認知されるようになり、カミングアウトする芸能人も増えましたが、それはごく一部で、ヘイトスピーチは格段に増えています。情報で得たと思ってカミングアウトしたのち、当事者の了解を得ずに、第三者に暴露される（アウティング）被害などは深刻な問題になっています。トイレや浴場の男女2分の物理的現状では当事者の使いにくさも解決されてはいません。病気で受診や入院する際のハードルは、いこの問題に直結します。

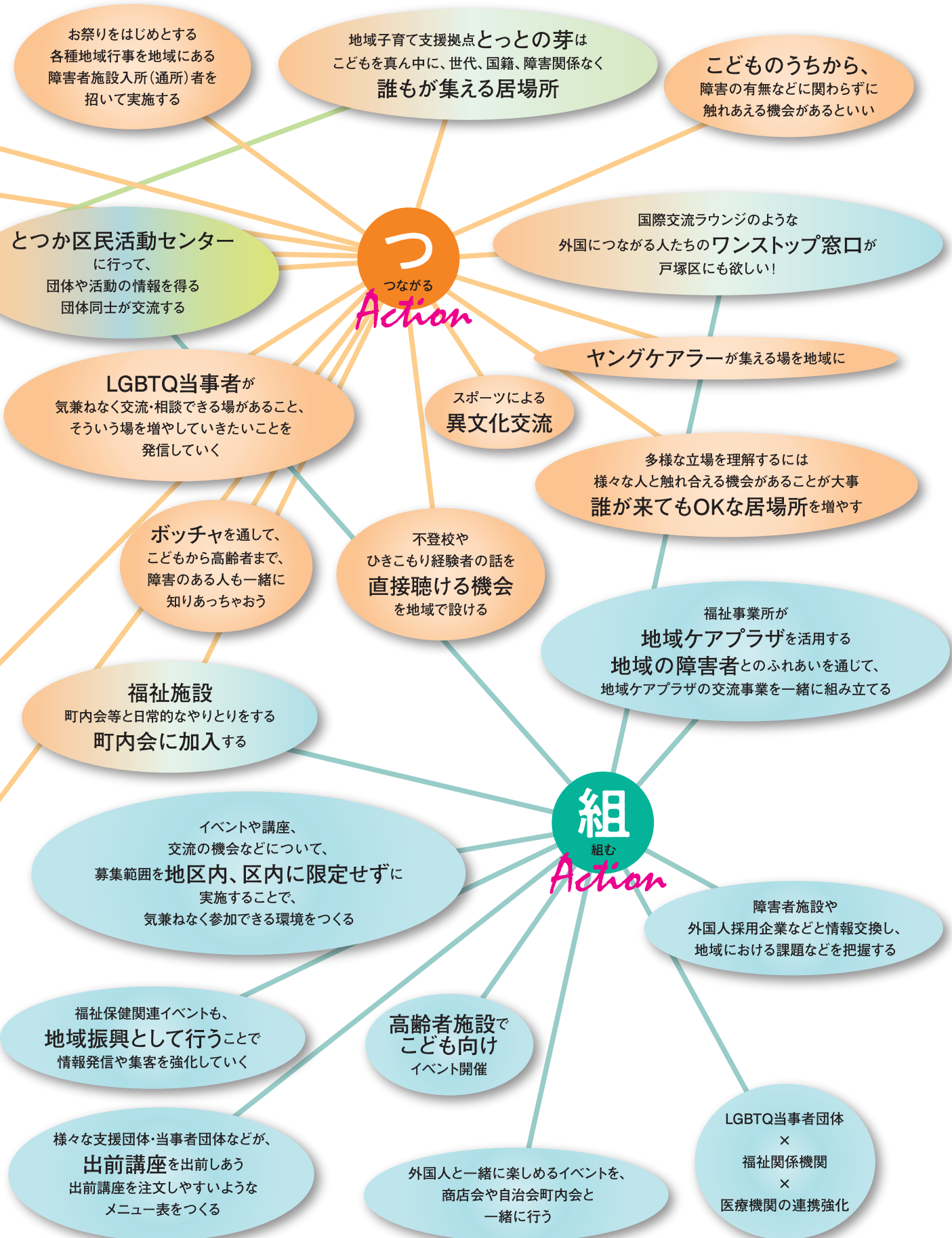
一人ひとりの人格が守られるため、地域・社会が少しずつ変わっていかなくてはならない。カミングアウトしなくても、当事者が自分らしく生きる環境が望ましいという点、ネガティブな情報に燃れることの多い当事者に対して、できるだけ肯定的な情報を伝える、一人ではないと伝えていきたいです。当事者同士のつながりも大事です。時代の変化を知り、一人ひとりがアップデートし、互いが生きやすい社会を目指すために、当事者に対しても社会に対しても発信し、「知る」ことから始め、5年後に少しでも理解が進んでいることを願っています。

私たち一人ひとりから、自分たちの心に植え付けられた価値観を超えて、ジェンダーバイアスからの解放、ジェンダー平等社会の実現を目指し、できることを考え実践！

ぜひ、身近な地域を知ったり、あなた自身の活動をしていく参考にしてみてくださいね。

社会の変化と課題の解決に向けて大切なことは、社会の中に存在するジェンダー・アンコンパチブル（男女の属性に関する無意識の思いの影響が大きく、生きづらさの原因になっている）私たちが、幼少のころから親や周囲から「男らしさ」を植え付けられます。しかし、社会も少しずつ変化もってきていて、今は小学校の保健科に「生まれたときの体の性と自分か違っていてもいい」というような内容も入っています。同性のこともあれば、同性の場合もあって、「好き」の形もさまざまですと記載されるようになっています。学校をはじめ、SHIPの講演活動も増えています。まずは、「知る」「気づく」こと、自分の価値観を相手押し付けたいことが大切です。

～多様な存在を受け入れ、尊重し、共に暮らせる地域社会とします～



1 おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている

1-2 取組事例



福祉教育

戸塚区社会福祉協議会では、各団体と協力し、世代・障害の有無・性別・国籍などを越えて、他者と「共に生きる力」を育むことを目標に、学校や地域の中で福祉の学習を進めています。



障害者週間シンポジウム～とつかで暮らす～（障害者週間12/3～12/9）

戸塚区社会福祉協議会の障がい福祉分科会では、障害者週間にシンポジウムを開催しています。映像作品「まちものがたり」の上映と当事者のお話です。「まちものがたり」のDVDは区社協で貸し出しています。



地域ケア会議

地域で暮らす高齢者が介護等が必要になっても安心して住み慣れた地域で暮らし続けるため、地域の支え合いについて皆で話し合いながら、個人の困りごとの解決から地域づくりにまでつなげていきます。



コミュニティ研究部会によるイベント

戸塚区自立支援協議会の「コミュニティ研究部会」では、障害のある人の意見をもとに、障害の有無や年齢に関わらず、誰もが楽しめるようなレクリエーションや交流会を企画・運営しています。



横浜市戸塚スポーツセンターにて開催

インクルーシブスポーツ

障害の有無、年齢に関わらず、様々な世代の人たち誰もが楽しめるインクルーシブスポーツの実現と参加者同士の親睦を図ることを目的に「戸塚区ポッチャ交流大会」（戸塚区さわやかスポーツ普及委員会主催）を令和6年度より開催しています。毎年、一般募集とともに障害者施設にお声がけし、5～6チーム（30チーム中）に参加いただいています。また、高齢者施設や老人クラブのチームにも参加していただき多世代交流も図っています。

■とつか区民活動センター

市民活動・ボランティア活動・生涯学習活動を応援し、皆さんにおつなぎする施設です。活動に関する相談・情報の提供と発信、活動の場の提供、必要な機材の貸出、交流イベントや講座開催などを通して、活動が地域に根付くように応援しています。『地域で何かを始めたい』『仲間を増やしたい』



実際にセンターで活動している様子



活動団体向けの地域活動に役立つInstagram講座の様子

『地域活動の情報を知りたい』等、様々なご相談に応じています。400以上の団体や個人の登録があり、「保健・福祉」「まちづくり」「文化・芸術・スポーツ」「国際協力」「子どもの健全育成」その他多様な分野や内容で活動しています。こうした団体を紹介するイベント「とつかお結びプロジェクト」を毎年開催し、新たな学びや仲間との出会いの場になっています。

■呼吸器生活向上委員会 「こどもハッシン!ー呼吸器生活向上PROJECTー」

東俣野特別支援学校に通う、人工呼吸器や医療的ケアを必要とする子どもたちの保護者が主体となって活動を開始しました。障害のない人と交流する映画鑑賞（ともいきシネマ）やインクルーシブ自然体験会、インクルーシブ美術館ツアーなどの企画、そしてとつか夏まつりへの参加など、子どもたち自身が主体となり、ありのままの姿で街に出て、リアルな生活を伝えています。“バリアフリーとは気づきの積み重ね”の考えを大切に、外出時の困りごと、まるごと見てもらうことで、“一緒に考えていきましょう、と周囲に呼びかけています。医療的ケアを必要とする子どもたちに、最初はどう接すればよいか戸惑う人たちも、日常的な関わりを通じて、互いを知り、共に生きることを体感していきます。子どもたちがやりたいことを、多様な分野の人と協力して実現し、保護者だけでなく、ボランティアなど、活動に参加する人がアイデア



を出し合いながら、障害や病気で常に医療とともに生きる人が社会の中で共に生きられるように働きかけを行うことも大切にしています。

※東俣野特別支援学校は隣接の小学校の子どもたちと日常的に交流しています。こうした関わりを通じて、障害のある人たちが社会の一員であることを子どもたちはごく自然に受け止め、考えられるようになっていきます。

1 おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている

1-3 トピックス～インタビュー 安心して自分らしく暮らせる地域のために

■地域で育む多文化共生 「キララの教室」の歩みとこれから

外国にルーツを持つ子どもたちが安心して学び、暮らせる地域を目指して活動する「キララの教室」。2009年の立ち上げから現在まで関わってきた代表の飯塚紀子さんとボランティアとして活動していらっしゃる大塚由紀子さん、林和さんにお話を伺いました。



日本語指導入門講座の様子

「学校では足りない支援を地域で」の思いから

小学校の教員である飯塚さんは、約20年前から学級に「外国にルーツを持つ子」が1-2名在籍する状況を経験しています。国際教室も十分ではなく、学校での個別支援には限界があり、「放課後に学習と保護者支援を行う場」を立ち上げました。ボランティアの大塚さん、林さんは海外での学習支援や教員経験から、外国にルーツを持つ人々の支援に関わるようになり学習支援とともに保護者の困りごとに寄り添っています。

外国にルーツを持つ子どもたちや保護者が抱える困難

活動初期と現在では、ルーツとする国籍が変化しています。また、以前は日本語の基礎を身につけた子どもたちへの教科の支援が主流でしたが、今は、日本語の読み書きや会話に不自由する子どもが増えていて、「日本語初期指導」の必要性が生じており、日本語指導支援体制が求められるようになりました。

学校では、教員が多忙な現状の中、個人情報の保護の観点から、地域のボランティアに支援を求めることが困難になっています。区域規模の大きな戸塚区では、交通費等の負担を考慮すると、点在する国際教室とつながることも難しい状況にあります。不登校や家庭不和なども抱え、さらには経済的困窮のため奨学金申請手続きなどの伴走支援が求められることもありました。

外国にルーツを持つ子どもたちや保護者が地域で暮らすために一人ひとりができること

慣れない土地での子育ては不安が大きいなかで「大丈夫？」と声をかけるだけでも安心することがあります。近隣同士で知り合いになり、声をかけ合える、そんな地域コミュニティが望まれます。外国にルーツを持つ子どもたちや保護者に対して、無意識、無自覚な差別的発言もあるといいます。お互いが理解し合うために外国にルーツを持つ人との接点を広げる必要があります。お互いに関心を寄せあうことによって、共生社会実現の一步となるのではないのでしょうか。

今後の活動の展望

先日行った「外国につながる子どもへの日本語指導入門講座」では、多くの人に参加し、特に保育園幼稚園等の先生が関心を寄せていました。このような、支援の場を



教室の様子

所に集中させるのではなく、地域近接の拠点を増やすために新設にとどまらず、既存の国際教室や地区センター、コミュニティハウスなどを借り、小規模でも各地域に広げることが望まれます。ボランティアのすそ野を広げると同時に、より専門的な知識や経験を必要とする相談なども増えていますので、様々な機関へとつなげていくことも視野に、同じ地域で暮らす仲間として寄り添う気持ちが大切です。

子どもへの声かけや見守り、
一人ひとりができることから
誰もが安心して暮らせる
環境につながるね



■特定非営利活動法人 SHIP 「人とのつながりから自分らしく生きられる社会づくり」

世の中で LGBTQ について取り上げられることも増えていますが、当事者が安心して暮らすには、まだまだ困難なことは多い現在です。性的マイノリティの人々が、自分らしく心身共に健康に暮らせる社会、多様性が尊重される社会の実現を目指して活動している特定非営利活動法人 SHIP。その理事である星野慎二さんに、活動を通して見えてくる課題や今後、性的マイノリティの人々が安心して暮らすために必要なことを考えるきっかけとして、お話を伺いました。

当事者の人が抱えている課題にはどんなものがあるのでしょうか？

2015 年頃から、LGBTQ がメディアで取り上げられることによって急速に認知されるようになり、カミングアウトする芸能人も増えてきましたが、それはごく一部で、ヘイトスピーチは格段に増えています。信頼できると思ってカミングアウトしたのち、当事者の了解を得ずに、第三者に暴露される（アウトティング）被害などは深刻な問題になっています。トイレや浴場の男女 2 分の物理的現状では当事者の使いにくさも解決されてはいません。病気で受診や入院する際のハードルは、いのちの問題に直結します。

社会の変化と課題の解決に向けて大切なことは？

社会の中に存在するジェンダーアンコンシャス・バイアス（男女の属性に関する無意識の思い込み）の影響が大きく、生きづらさの原因になっています。私たちは、幼少のころから親や周囲から「男らしさ・女らしさ」を植え付けられます。しかし、社会は少しずつ変化もしてきていて、今は小学校の保健の教科書に「生まれたときの体の性と自分が思っている性がちがうこともあります。好きになったりする相手が異性のこともあれば、同性の場合もあって、『好き』の形もさまざまです」と記載されるようになりました。学校をはじめ、SHIP の講演活動も増えていきます。まずは、『知る』『気づく』こと、自分の価値観を相手に押し付けないことが大切です。

一人ひとりの人権が守られるため、地域・社会が少しずつ変わっていくために・・・

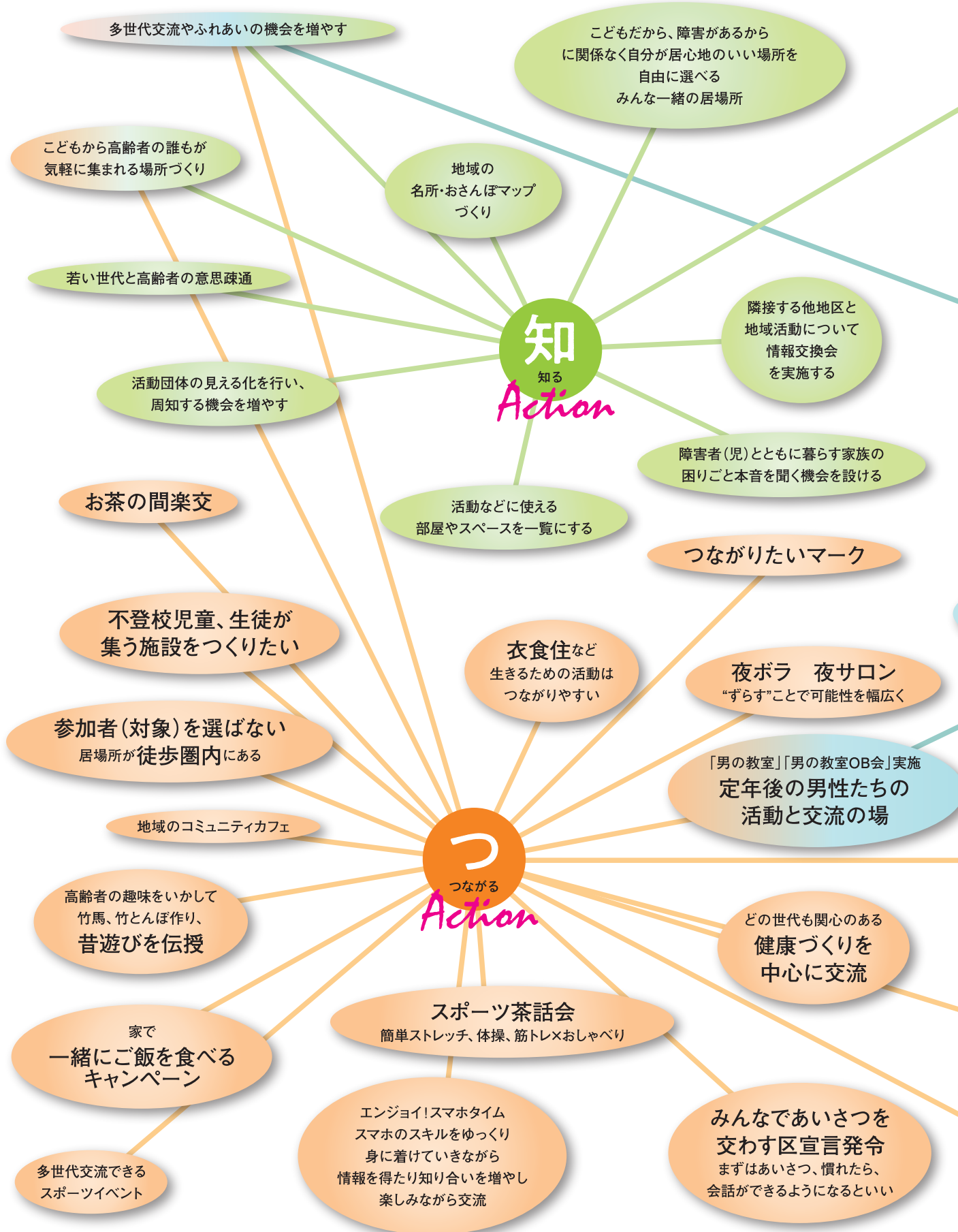
カミングアウトしなくても、当事者が自分らしく生きる環境が整うといいですね。ネガティブな情報に触れることの多い当事者に対しても、できるだけ肯定的な情報を伝え、一人ではないと伝えていきたいです。当事者同士のつながりも大事です。時代の変化を知り、一人ひとりがアップデートし、互いが生きやすい社会を目指すために、当事者に対しても社会に対しても発信し、『知る』ことから始め、5 年後に少しでも理解が進んでいることを願っています。

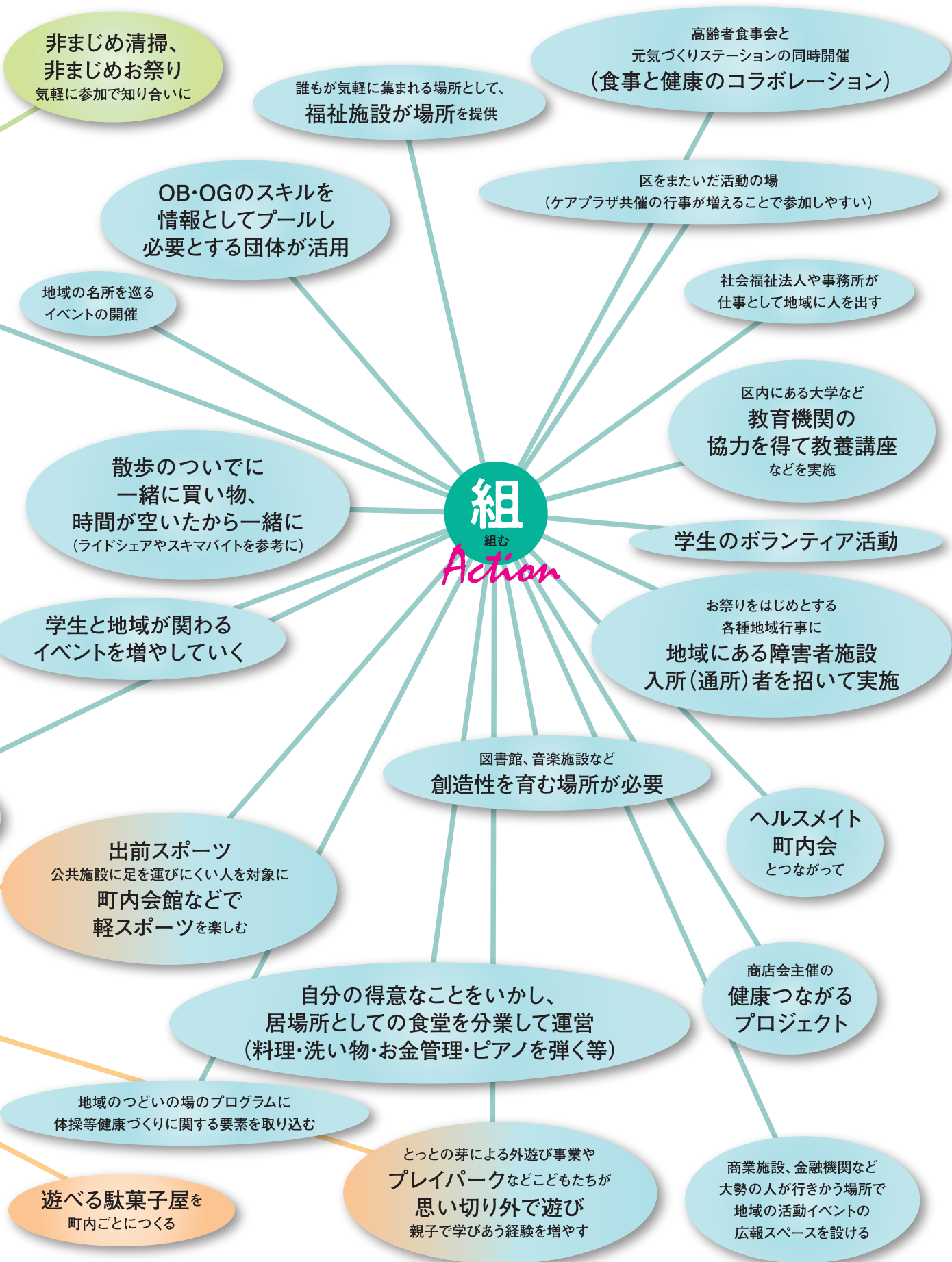
私たち一人ひとりが、
自分たちの中に植え付けられた
価値観を超えて、
ジェンダーバイアスからの解放、
ジェンダー平等社会の実現を
目指し、できることを考え
実践していくことが大切だね



2 その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている

2-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、策定・推進委員及び様々な当事者からの意見を掲載しています。





2 その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている

2-2 取組事例



健康測定会

保健活動推進員が中心となって、健康づくりを意識してもらうきっかけづくりとして、握力や足指力、血管年齢の測定など、各地域で健康測定会を開催しています。生き生きと暮らすための健康づくりのサポートの役割を果たしています。



ボランティアのいろは

初めてボランティアする人に向けた講座。とつか区民活動センター・とつかボランティアセンターのいずれかで毎月実施しています。



夜サロン

毎月1回、東明会会館で開催されるカクテルを楽しむ集いで、誰でも気軽に立ち寄れる地域の交流の場となっています。



お茶の間楽交

安心しておしゃべり、気軽に相談、得意なことや持ち味を生かす、新しい出会いにワクワク、みんなの力でつくるみんなの居場所です。



aqua フェスタ

川の美化活動に取り組むこどもたちへのご褒美に、と始めて早25年。年1回地域の皆様の協力で大きなイベントになっています。



PPK(ピンピンコロリ) 大作戦

戸塚旭町通商店会では、身体・栄養・メンタルの三分野に関して日々の生活を笑顔で健康に過ごすための情報を提供する無料セミナーを開催しています。



交流広場とつか

「交流広場とつか」はみんなが気軽に立ち寄り、出会い、ホッとする、また来たいと思える地域の居場所です。手作りの日替わりランチや軽食などを用意しています。

■とつか公園あそび隊 ～ 地域とともに進める公園遊び～

戸塚区地域子育て支援拠点とつとの芽が戸塚区と協働で実施している「とつか公園あそび隊」は、地区別子育て連絡会でつながったネットワークを生かし、地域で子育て支援活動をしている人たちや、公園愛護会の協力を得ながら、様々な公園に出向き外遊びの機会を提供しています。乳幼児期から五感を刺激する外遊びの楽しさを味わうことや、主任児童委員など身近な地域で見守ってくれる人との顔の見える関係づくりを大事に行っています。

〈主任児童委員より〉

主任児童委員も子育て支援活動をしている皆さんと「とつか公園あそび隊」に参画しています。子育て世帯が「孤」にならない、一人で悩まない友達作り、育児の困りごとの相談ができる場を提供し地域のこどもたちを見守っています。



■踊場公園こどもログハウス

乳幼児から中学生まで、予約なし、無料で自由に遊べる屋内公園施設。すべり台やネットはしごなどの活発スペースや、絵本やブロックなど静かなスペース、地下迷路など楽しみ方は多彩。定期的に様々なイベントも用意されていて、遊びを通して想像力や協調性などをはぐくむ場にもなります。「ニャンぱくマン」がオリジナルイメージキャラクター。別名「ニャンぱく砦」の愛称でも親しまれています。近隣の中学高校生がボランティアで関わっています。こどもたちの意見も聴きながら、より楽しめる場を目指しています。



ニャンぱくマン

■介護予防・元気づくりステーション

身近な場所で、仲間と一緒に介護予防・健康づくりに取り組む自主活動グループです。フレイル予防の取組（体操や認知症予防、お口の健康など）を中心にグループごとに様々な活動を行っています。仲間同士で交流し、楽しみながら過ごすこと自体が健康につながります。こうした自主的な介護予防の活動が地域の中で広がっていくことを目指して、区役所や地域包括支援センターが支援を行っています。



■ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ

地域ケアプラザ等が集めた情報を「見える化」したデータベースシステムです。地域活動（サロン、趣味活動の場、生活支援等）を検索することができます。地域活動を探したい人や、地域の担い手として活躍したいと考えている人など、幅広い人が活用できるようになっています。

2 その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている

2-3 トピックス～地域福祉の基盤 自治会・町内会・地域を支える人たち

地域福祉の基盤としての地縁組織～地域のつながりをはぐくむ「身近な支え合いの場」

自治会町内会は、近くに住んでいる人々の交流を深め、そこで起こる様々な課題を解決するために組織された、自主的・民主的な任意団体です。

環境整備事業、レクリエーション事業、福利厚生事業など、会員の日常生活に密着した各種事業を地域ごとに工夫をこらして実施しています。

自治会町内会の組織体系

横浜市町内会連合会
市内 18 区の区連合町内会長 18 名で構成

戸塚区連合町内会自治会連絡会（通称：区連会）
区内の地区連合町内会長により構成
各地区連合町内会相互の情報交換や、区連会自らが自主的な活動を行う一方、区役所など行政との情報交換などを行う

地区連合町内会
各地区の自治会町内会により構成
戸塚区には 18 地区連合町内会あり

自治会町内会
戸塚区には 219 自治会町内会あり
(令和 7 年 4 月 1 日現在)

住民主体の福祉のまちづくりを目指す基盤としての各自治会町内会は、～地区連合町内会～戸塚区連合町内会自治会連絡会～横浜市町内会連合会とつながっています。行政からの情報をまちの人に届けたり、地域の声を行政に伝える役割を担っています。地域の困りごとをいち早く察知し、まちの人同士で話し合い、解決に向けた活動を行う場でもあります。

合わせて、地域の様々な福祉課題に取り組む地区社会福祉協議会も連携して活動しています。



自治会町内会はどのような活動を行っているのでしょうか

ごみ集積所の管理や公園・町内・川の清掃、ゴミの減量やリサイクルに貢献する活動などに取り組みます。



清掃レンジャー

高齢者や子どもなどの、見守り活動を通じて、地域の安心・安全と孤立防止に取り組んでいます。



見守りレンジャー

災害時には、安否確認や避難所運営など、地域の支え合いが活かされます。



防災レンジャー

自治会町内会レンジャー



お祭りレンジャー



お祭りや運動会などを通して、地域の親睦を図る活動を季節ごとに行います。

防犯レンジャー



防犯パトロールや、登下校の見守り活動など、地域の安全を守る活動を行います。


自治会町内会を構成する主な支え手、活動組織にはどのようなものがあるの？

地域からの推薦により、国や市から委嘱を受けて活動する人、任意団体に所属して、より良い地域づくりのために活躍する様々な人たちが町の活動を支えています。各自治会町内会によって、組織の構成や位置づけが決められています。

地域から推薦を受けて活動する委員等

民生委員・児童委員 主任児童委員 身近な相談相手として、赤ちゃんから高齢者まで地域の福祉の相談を、必要な支援につなぐ	スポーツ推進委員 地域に根差したスポーツレクリエーションの企画・実施・普及活動を行う	保健活動推進員 行政と連携して、地域での健康づくりを推進する
環境事業推進委員 ゴミの分別排出や3R行動の普及啓発、街の美化・脱炭素行動を推進する	青少年指導員 青少年の健全な育成のためのイベント実施など、地域での活動を行う	消費生活推進員 「消費者トラブルに遭わない安全な地域づくり」を目指して活動を行う
交通安全協会 交通安全の啓発を通じて、地域の安全づくりに貢献する	交通安全母の会 地域の人たちに交通安全についての啓発活動を行い、家庭内での交通安全教育を推進する	防犯指導員 警察が行う防犯活動に協力して、犯罪防止についての啓発活動を通じて、地域の防犯意識を高める活動を行う

地域で活躍する様々な活動団体等

公園愛護会 街の緑を守るため、土木事務所と連携し、公園の維持管理に取り組む	食生活等改善推進員 愛称：ヘルスマイト 食育の推進・健康づくりの担い手として幅広い世代を対象として活動する	
消防団 大規模災害時に救助・消火活動を行う消防機関の一つ。団員は本業を持ちながら地域の防災に貢献する	保護司 犯罪を犯した人や非行のある少年の立ち直りを支援し、地域での犯罪予防の啓発活動を行う	
こども会	老人クラブ	キャラバン・メイト 認知症への正しい理解を広め、認知症の人やその家族を支援する活動を行う

その他、自治会町内会を通して推進される国勢調査員や明るい選挙推進協議会推進員など、様々な人によって地域の活動が支えられています。



「自治会町内会に入ってよかった!」の声…

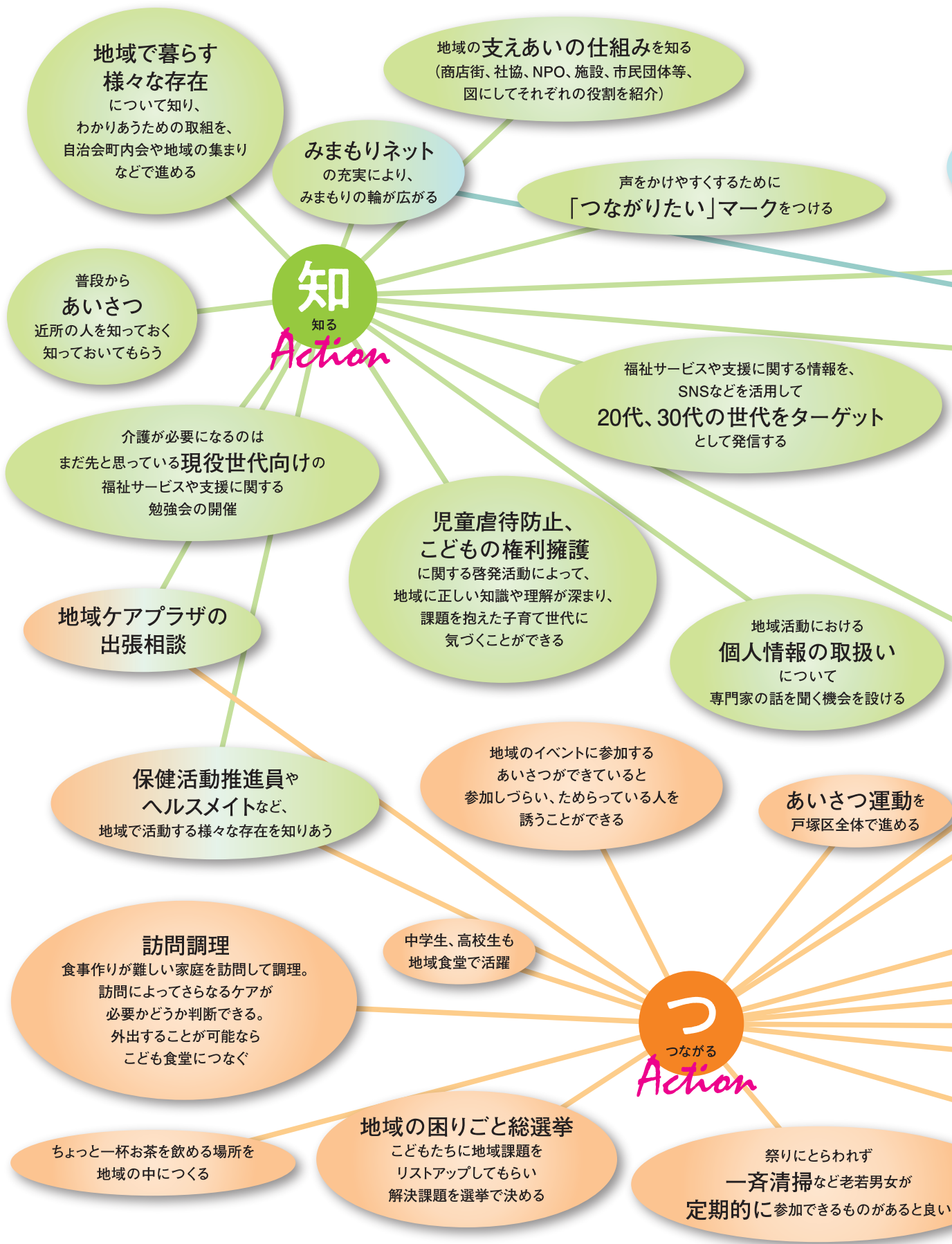
- ・引っ越したばかり、町内会行事に参加して近所に知り合いができて安心 (30代男性)
 - ・休日に無理のない範囲で行事に協力、同じ地域同じ年代同士の交流が楽しい (40代男性)
 - ・震災の時、無事を確かめに来てくれて不安で心細い中救われた (60代女性)
- ～ 横浜市町内会連合会パンフレットより～

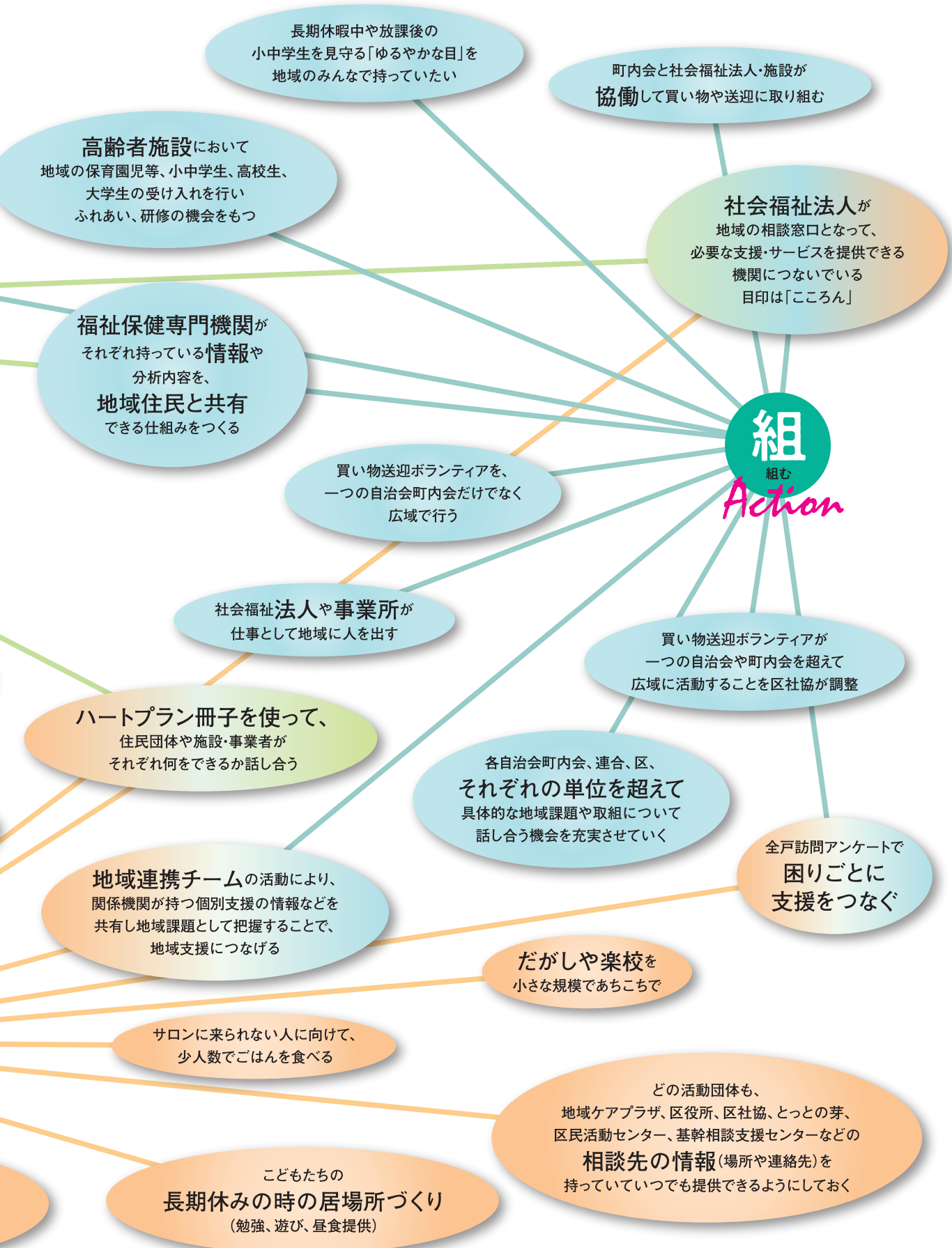
いろいろな人たちが活動し、地域を支えているよ。
自治会町内会はみんなが知り合い、つながり合う、安心の地域づくりの基盤だね。



3 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている

3-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、策定・推進委員及び様々な当事者からの意見を掲載しています。





3 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている

3-2 取組事例



認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者「認知症サポーター」を養成する講座です。区内でも地域や学校・事業所など多くの場所で展開されており、認知症の人やその家族が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。

チームオレンジ

チームオレンジとは、認知症の人や家族の希望や願い、困りごとなどの声をもとに、その実現や解決に向けた取組を、認知症の人や家族と地域住民・団体・企業・関係機関等が連携して進める「本人支援」の活動です。認知症の人が安心して自分らしく暮らせる地域づくりを目指しています。



つながるフェスタ

社会福祉法人が協力して地域課題解決を目指す「社会福祉法人と地域つながる連絡会」が中心となり、区内福祉施設を地域の人に知ってもらい活用いただくために「つながるフェスタ」を実施しています。

NPO法人 いこいの家夢みん

地域の誰もが安心して暮らせる地域を目指して、介護予防、助け



合い活動、多世代交流サロンを地域の皆様と共に運営しています。3年目になる「夢カフェ」では、カフェ＆ランチ、キッズコーナー、こども食堂、地域向けイベント等も開催しています。



戸塚区地域ネットワーク見守り事業「みまもりネット」

民間の協力事業者や地域にお住まいの皆様などが、仕事や日常の生活の中で、「郵便受けや玄関先に配達物が残ったまま」や「具合が悪そうだけど、大丈夫かな」など同じ地域で暮らす高齢者等の「ちょっと気がかり」なことに気づいたときに、地域ケアプラザや区役所へご連絡いただく仕組みです。地域ケアプラザと区役所が連携して、高齢者等が地域で孤立せずに安心して暮らし続けられるよう、地域全体での「ゆるやかな見守り」を進めています。(みまもりネット事業登録者数 364 事業者 令和7年8月末時点)



■民生委員・児童委員、主任児童委員

厚生労働大臣から委嘱され、横浜市長が担当区域を定める、無報酬の非常勤特別職の地方公務員です。(任期3年)

【役割】

①民生委員・児童委員は、担当する地域内で、住民から様々な生活上の困りごとや心配ごとに関する相談に応じ、サポートするとともに、必要な支援を受けられるように地域ケアプラザなどの専門機関につなぐ役割を担っています。戸塚区内で約300人が活動しています。

②主任児童委員は、こどもや子育ての支援を主に担当する民生委員・児童委員です。地区担当の民生委員・児童委員、学校やこどもの福祉に関する機関と連携して、様々な児童問題に取り組んでいます。戸塚区内で約30人が活動しています。



ひとり暮らし高齢者等への見守り活動

■生活困窮者自立支援制度

生活困窮者自立支援制度は、様々な事情で生活にお困りの人に支援を行う制度です。生活支援課を相談窓口として、お仕事探しのお手伝い、家計の見直しに関するアドバイス、社会的孤立状態にある人やご家族からの相談、中高生対象の学習支援等、お困りの状況に応じた支援を行っています。また、区内の福祉・教育機関と連携し、制度を身近に感じてもらえるような啓発や、支援のネットワーク作りのための区レベルセーフティネット会議を開催しています。



■NPO法人フードバンク浜っ子南

身の周りに3食十分に食べられない人がいることを想像できますか？地域には、困っていることを見せられず声を上げられない人がいます。フードバンク浜っ子南は「ひとりじゃないよ」を合言葉に、余剰の食品の寄付を募り、ひとり親とそのこどもに市内5会場で食品提供をしています。大切な食料を無駄にせずシェアすることで、食と人につながる安心をお届けします。私たちが目指すのは「食をわかちあい たすけあい ささえあえる社会」です。



■こどもの居場所

戸塚区内では、こども食堂（地域食堂）や学習支援などの団体が多数活動しています。実施しているのはボランティア団体・NPO法人等様々な団体ですが、「こどもたちのために」という想いで活動されています。戸塚区社会福祉協議会のホームページ内には「学齢期の子どもの居場所一覧」として各団体の情報を掲載しています。お近くの活動への参加をお待ちしております。



学齢期の子どもの居場所一覧



学習支援の様子

3 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている

3-3 トピックス～権利を守るネットワーク

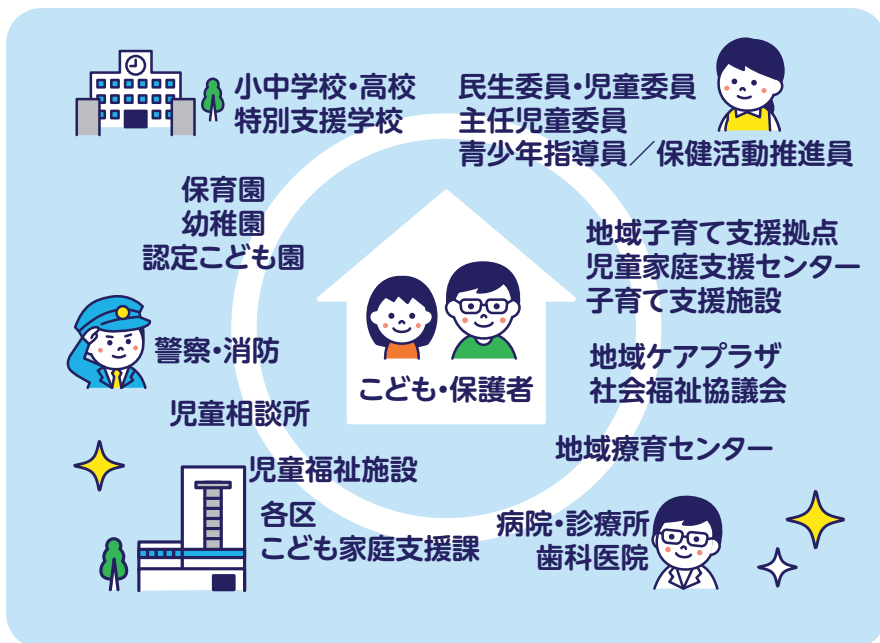
■子育てサポート連絡会（要保護児童対策地域協議会 実務者会議）

子どもが安心して育つことができる環境を整えるためには、地域全体の力が必要です。

戸塚区では、地域連携による児童虐待防止を考える「子育てサポート連絡会」を開催しています。

この連絡会では、学校、保育園・幼稚園・認定こども園、医療機関、警察など関係団体・機関の関係者が集まり、情報交換や協議を通じて、子育てをする人が孤立せず、安心できるように機関同士の円滑な連携を図っています。

さらに、区全体での取組に加え、より身近な小地域（エリア）でも「地区別子育てサポート連絡会」を開催し、支援者同士が顔の見える関係を構築し、連携の強化を進めています。



「子どもの権利を守る！STOP!子ども虐待のパンフレット」の図を加工

■子どもの意見表明権

子どもには、自分の気持ちや考えを安心して話すことができる「意見表明権」があります。これは、子どもが自分らしく生きるためにとっても大切な権利です。でも、児童虐待など子どもが安心して過ごせていない状況があると、子どもは怖くて声を出せなくなってしまうことがあります。だからこそ、大人は子どもの声に耳を傾け、どんな小さなサインも見逃さないことが大切です。

戸塚区では、小学校低学年向け及び小学校中学年以上向けに子どもが自分自身を守ることができるツールとして児童虐待防止に関するリーフレットを作成し、11月に区内の市立小中学校の子どもたちに配布しています。

子どもが「話してもいいのだ」と思える環境をつくることで、虐待の早期発見や防止にもつながります。子どもの声を守ることは、子どもの命と心を守ることに繋がります。



小学校中学年以上向けリーフレット



小学校低学年向けリーフレット

■生活の困りごとを抱えている人への支援

誰もが生活の中での不安や困りごとを抱える可能性があります。

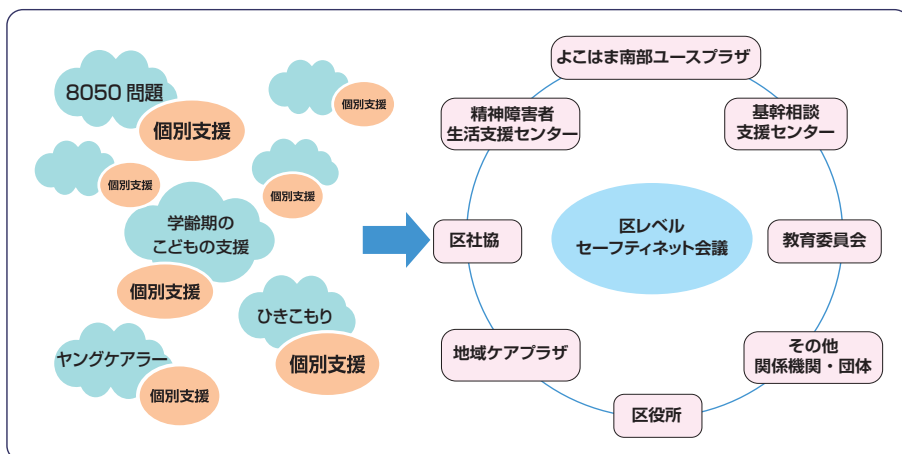
仕事のこと、住まいのこと、家計のこと…生活の困りごとは誰もが抱えうる問題です。しかし、少子高齢化や人口減少による福祉の担い手不足、区民の価値観やライフスタイルの多様化により、従来の支援の枠組みでは生活の困りごとへの対応が難しい場合が増加しています。

「ひきこもり」や「8050 問題」も対応が難しい社会課題の一つで、ご家族からは「外出してほしい」「親亡き後はどうしよう」等の声が聞かれる一方、ひきこもっている本人からすると、その家族の不安や期待が高いハードルであることもあります。

様々な課題を一緒に考えられる地域を目指して

「ひきこもり」「8050 問題」に至るきっかけは人により様々で、どなたにも有効な方策はありませんが、本人との関わり方や適切な対応の仕方を周囲が工夫することで、状況が少しずつ変化していくことも多くあります。ご家族だけで抱え込まず、まずは支援機関への相談が解決の一步となるかもしれません。

また、区役所生活支援課では、区内の支援機関が顔を合わせ、個々の支援を通じて把握した共通課題や解決策の共有を行う「区レベルセーフティネット会議」を開催しています。支援機関同士のネットワークづくりや、複合的・複雑な生活課題をみんなで考えることで、区民も支援者も誰一人孤立させない地域づくりを進めています。



■よこはま南部ユースプラザ

ひきこもり等の困難を抱える若者やその家族のための総合相談を行っています。若者（おおむね 15 歳～39 歳）が具体的に一歩踏み出せるようにカードゲームやクラフトなどの多様な講座や居場所の利用、社会体験を開催。自分に合った社会参加の仕方を一緒に考えていきます。戸塚区役所への出張相談も行っています（月 1 回）



よこはま南部
ユースプラザウェブサイト



施設内の様子



スポーツデー



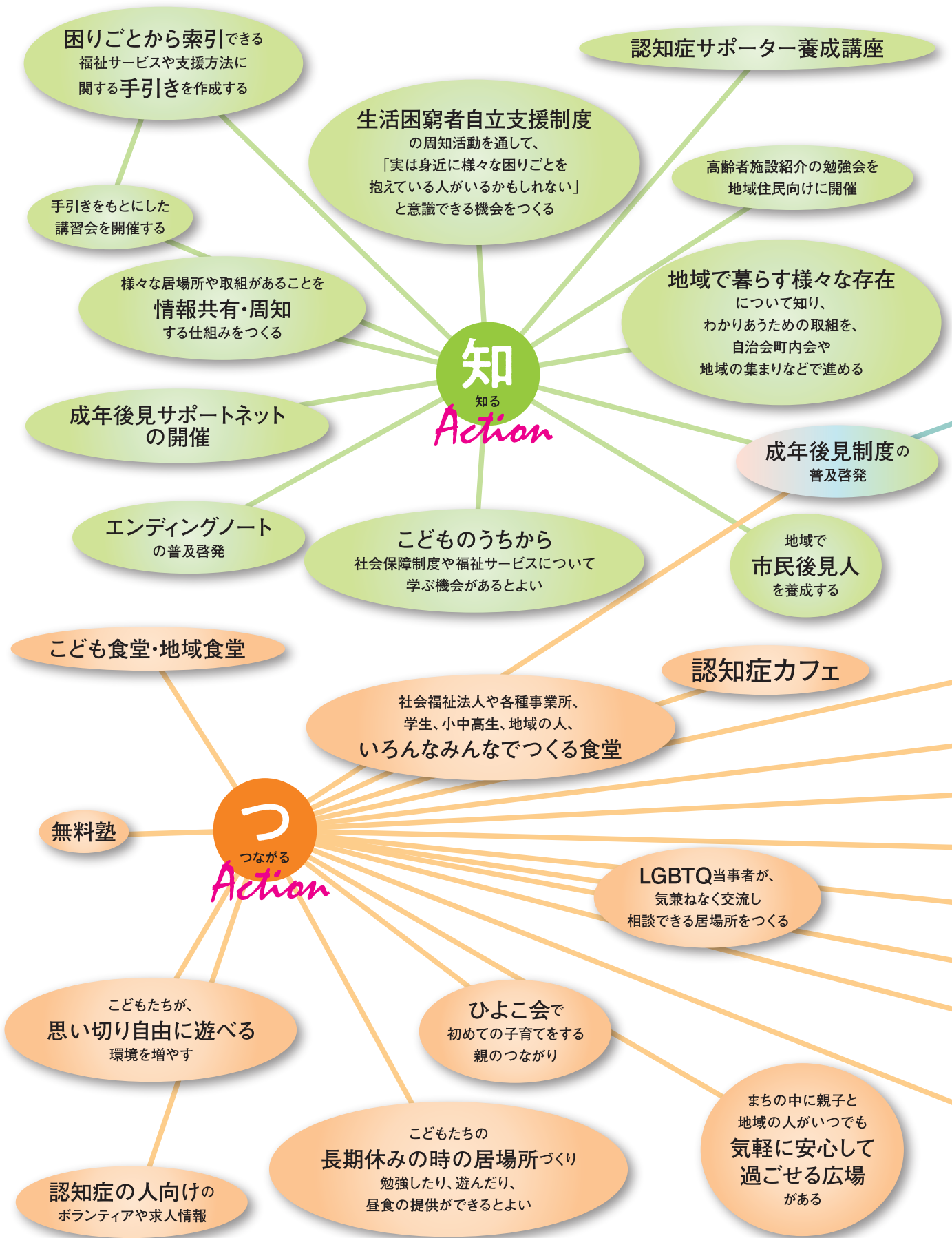
ちよこっとボランティア(地域清掃)



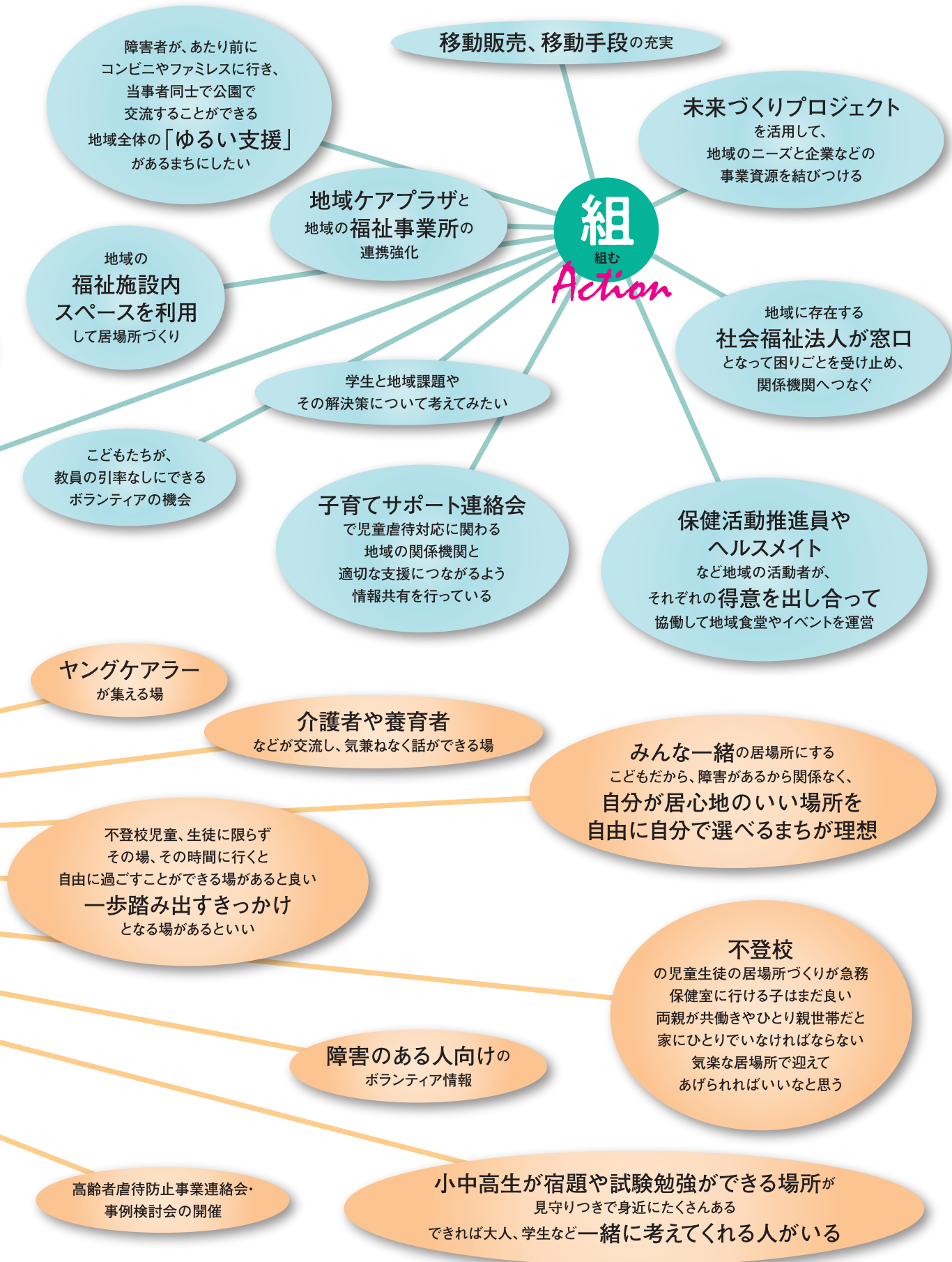
クラフト講座

4 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている

4-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、策定・推進委員及び様々な当事者からの意見を掲載しています。



～支援やサービス、情報の充実、多様な人が安心して暮らせる仕組みを強化します～



4 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている

4-2 取組事例



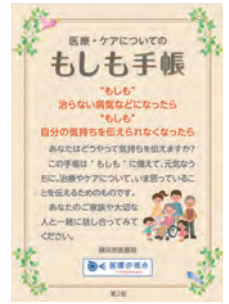
エンディングノート

これまでの人生の振り返りと、最期まで自分らしく生きるための一助となるよう、戸塚区ではエンディングノートを作成しています。高齢の人のみならず、「定年を迎えた」「これから定年を迎える」「老後について今から準備をしておきたい」など、様々な人に手に取っていただきたいライフデザインノートです。



ACP（人生会議）・もしも手帳

もしものときに、どのような医療やケアを望むのかを前もって考え、家族や信頼する人、医療・介護従事者たちと繰り返し考えていくことを「人生会議」（アドバンス・ケア・プランニング：略称 ACP）といいます。区役所等で配布している「もしも手帳」も話合いのきっかけにお使いいただけます。



そらいろテラス

“こころのチャージスポット”として学校が苦手な子どもたちが通える居場所を開催。保護者のつどいもあり親子ともにほっとできる場所になっています。



社会を明るくする運動

犯罪や非行のない明るい社会を築くため、戸塚保護司会・戸塚区更生保護女性会・18 地区社会福祉協議会が中心となり、街頭キャンペーンや地区ミニ集会を実施しています。



ガイドボランティアによる通学支援

ガイドボランティア(戸塚区移動情報センター)

戸塚区移動情報センターは、障害のある人やご家族からのご相談を受け、外出の目的や行先などニーズに沿った情報提供を行っています。また、障害のある人の外出（通所・通院や余暇活動など）に付き添うガイドボランティアの登録や活動の調整を行っています。障害のある人とボランティアをつなぎ、地域で顔の見える関係づくりを支援します。

■成年後見制度

認知症や障害などの理由で自分ひとりでは大切なことを決めたり、判断したりすることが難しい状況にある人の財産や権利を守るための制度です。

「法定後見制度」：家庭裁判所が選出した後見人等により財産の管理や必要なサービス等の契約を行うことによりご本人が安心して生活できるよう支援する制度

「任意後見制度」：将来判断能力が低下してしまった時の備えとして判断能力が十分なうちに本人が選んだ任意後見人との契約により支援を約束しておく制度

本人の意思を尊重し身体や生活状況に配慮しながら、本人に代わり財産管理や契約などの法律行為を行います。支援が必要な人が地域で安心して暮らせるよう支援します。

■戸塚区福祉保健活動拠点「フレンズ戸塚」

福祉保健活動拠点は、地域のボランティア団体等が福祉保健活動を行うための場です。研修や打合せを行うための会議室のほか、視覚障害のある人へ書籍等を読んで情報を伝えるための朗読サービスを行う部屋、録音・編集を行うための部屋、点字プリンターが設置されている部屋があります。また、福祉保健団体の活動の相談にも応じています。お気軽にご相談ください。



■戸塚区地域子育て支援拠点とっこの芽・とっこの芽サテライト

～共に育ち 共につながる 笑顔で過ごすひろば～

とっこの芽は、気軽に立ち寄れる『第二のわが家』をコンセプトに、0歳～未就学児とその保護者、プレママ・プレパパ、子育て家庭をサポートしたい人が対象の誰もがつどえる居場所で、NPO法人子育てネットワークゆめが戸塚区の委託を受けて協働で運営しています。ひろばには、初めて子育てをする人やきょうだい児をつれて来てくれる人、外国籍の人、障害のある人など様々な親子が遊びに来てくれています。スタッフが常駐しているので、初めての人にはお声掛けをして過ごしやすいように心がけています。地域のボランティアや学生がこどもの遊び相手になり大活躍です。子育てに不安感や悩みがある人も、スタッフがお話を聴いたり、専門相談に繋いだり気軽に相談ができます。また他の親子の様子を見てまねて、お互いに学びあえるひろばづくりを心掛けています。



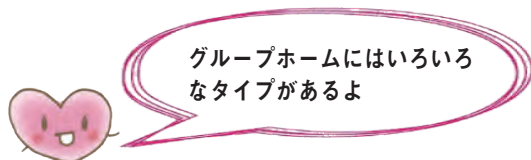
4 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている

4-3 トピックス～障害のある人とともに暮らす

■グループホームでの暮らしの紹介～どんな生活をしているの?～

障害者グループホームでは障害のある人が、地域の中で支援者の協力を得て共同生活を送っています。家庭的な雰囲気、それぞれがプライベートな空間や時間を大切にできる住まいです。

令和7年1月1日現在、戸塚区には67か所のグループホームがあります。



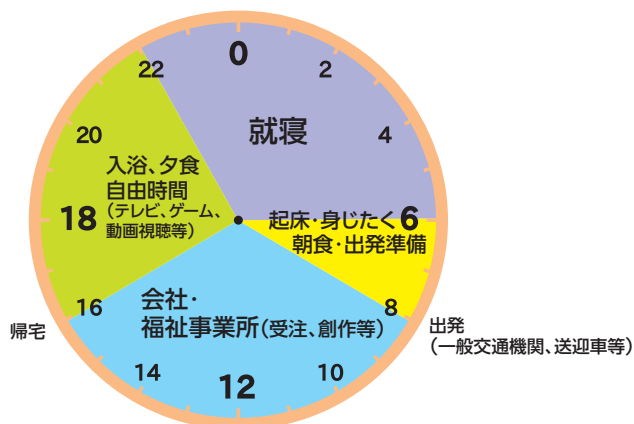
グループホームのタイプ例

- 大きな家の中に4から6人の居室があるタイプ
 - マンションのワンフロアやアパート1棟全部のタイプ
- 障害やご本人の生活スタイル、希望に合わせたグループホームがあります



障害のある人に必要な支援は様々です。身体障害、知的障害、精神障害、それぞれ専門的なグループホームがあります。特に戸塚区には重度身体障害者が暮らすグループホームがたくさんあります。

一般的なグループホーム生活の一日



常時医療的な支援が必要であったり、何らかの理由で毎日、日中の活動場所に行くことのできない人たちが暮らす日中サービス支援型グループホームもあります。

♥ 知的障害があるAさん

私は送迎車で日中活動事業所に通所します。ときどきガイドヘルパーやガイドボランティアと一緒に帰ります。そのときにコンビニで買物をするのが楽しみです。



♠ 精神障害があるBさん

私は一般企業で働いています。働き方は、職場の人や相談員に相談しながら無理のないようにしています。休日は友人とカラオケに行くのが楽しみです。



朝靄が残るなか出勤



共に住む仲間と食事



防災訓練に参加

地域とのかかわり

グループホームで暮らす人たちも積極的に地域の事業行事に参加しています。また、グループホーム事業者には、地域の関係者を含む外部の目を入れた「地域連携推進会議」の設置及び開催が義務付けられ、より地域との結びつきを強めることが求められるようになりました。

グループホームの詳細や
問合せはこちらから



戸塚区グループホーム連絡会ウェブサイト

■中途障害者地域活動センター とつかわかば

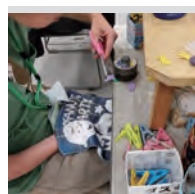
中途障害者地域活動センターは、若くして脳出血や脳梗塞、くも膜下出血、脳外傷等によって、障害のある人たちが軽作業・学習活動・地域交流などを通じて、地域社会で自立して生活することを目指して活動する場所です。地域行事にも積極的に参加し地域との交流も大切にしています。

利用を希望される際は戸塚区役所高齢・障害支援課にご相談ください。

《活動内容》

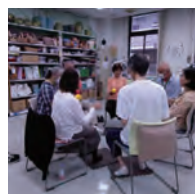
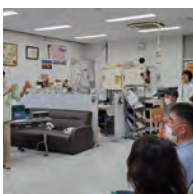
■活動センター 定期的な外出・社会参加希望の人のためのプログラム（月～金）

クラフトや編み物などハンドメイド作品づくり、ボッチャや卓球、音楽療法や体操教室等を実施しています。



動かせる方の手を中心に道具や作業環境を工夫して作品を作っています

ハンドメイド作品は地域のイベントなどで販売しています



活動の様子はウェブサイトやInstagramでも紹介しています



ウェブサイト



Instagram

音楽療法での楽器演奏、勉強会や卓球などのスポーツ活動を通し、心身機能の維持・増進を図っています

■リハビリ教室 発症から間もない人のためのプログラム（原則 月4回）

横浜市戸塚スポーツセンターや支援団体とも協力し、仲間とふれあいながら、スポーツや音楽療法、話し合い・外出訓練などを通じ、日常生活の活動範囲の拡大と自立を目指します。

■高次脳機能障害者専門相談（要予約 月1回）

高次脳機能障害のご本人やその家族、支援されている人に専門の支援コーディネーター等が相談に応じます。

■戸塚区地域自立支援協議会

地域自立支援協議会とは、障害のある人が安心して暮らすために、人と人をつなぎ、地域の課題を地域で共有し、解決に向け地域で協働する場です。障害福祉に関わる人に限らず、保健・福祉・医療・



余暇を楽しむ企画



福祉事業所の説明会を開催

教育・就労などの機関や当事者、地域住民など様々な人が集まって協議し、地域づくりに取り組みます。

戸塚区は比較的小さな法人が多く、市内一広いエリアに事業所が点在しているのが特徴です。一つの事業所で出来ることは限られていても、それぞれの横のつながりや顔の見える関係を大切に、戸塚区地域自立支援協議会は皆で協力し合い、知恵を出し合いながら活動しています。

障害のある人も安心して暮らし続けられるように、ご本人やご家族が地域で生活する中で感じている様々な思いを大切に、皆が一体となって地域の課題解決に取り組んでいます。

戸塚区地域自立支援協議会ウェブサイト

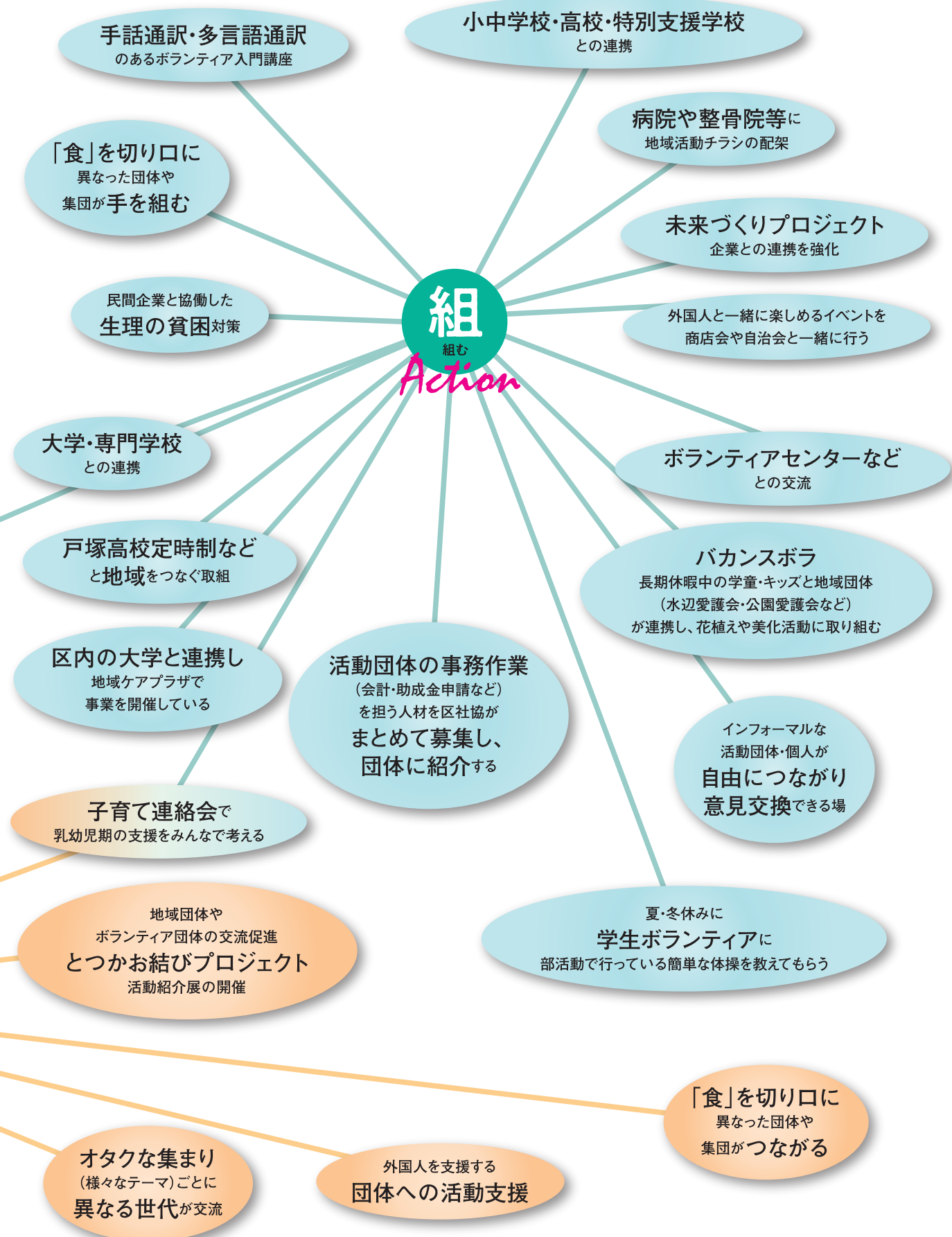


5 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている

5-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、策定・推進委員及び様々な当事者からの意見を掲載しています。



～様々な人や団体・法人が、主体的に地域活動やまちづくりに関わる機会を拡大します～



5 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている

5-2 取組事例



戸塚ものづくり自慢展

地元の「ものづくり」が大集合するイベント。区役所と戸塚泉栄工業会、消費生活推進員の会が共同で開催。楽しみながら戸塚自慢のものづくり技術を知ることができます。身近な企業・団体の技術や取組を知ることによって今後のつながりが生まれるきっかけになります。



とつかお結びプロジェクト

地域活動へ参加する第一歩を応援し、交流やつながりを広げるプロジェクトです。「とつかの地域活動とあなたを結ぶ活動紹介展」では、市民活動団体や個人の取組をパネル等で紹介しています。直接話を聞き体験ができる「ミニフェスタ」や「報告会&意見交換会」と交流の場を開催。これを機に地域で活躍する人が増えています。とつか区民活動センターと戸塚区が共催で開催しています。



地域で一緒に子育てを考える

『戸塚区子育て連絡会』

～こどもの育ちにとって大切なこと～

戸塚区では、地域の子育て支援の充実と推進を目指し、主に乳幼児期の子育て支援を行う関係団体・機関が集まって「子育て連絡会」を開催しています。



この連絡会は、区内を10地区に分けて行う「地区別」と、10地区が一堂に会する「全体会」の2つの形で実施されています。

地区別では、各地区の団体・機関が取り組む子育て支援の情報を共有し、イベントの共同開催に向けた話合いや、地域の子育て支援の目指す姿について意見交換を行っています。妊娠期から親子が地域とつながる仕組みづくりについて、工夫や取組を共有する場にもなっています。

全体会では、各地区の取組や、地域のひろば・サロンに訪れた親子へのインタビュー結果などを共有し、地域の子育て支援や連携の大切さを確認しています。

子育て連絡会では、これからも親子が地域の場所や人を知り、つながりを育むことができるような取組を進めていきます。



戸塚高校定時制×地域活動

「竹灯籠の夕べ」への出店、「こまちカフェ」にて親子ワークショップの企画運営、地域と協力し「ドローンファイト大会」を開催するなど学生が地域と協力し活躍する機会が生まれています。

■こども家庭センターとこども・子育て支援について

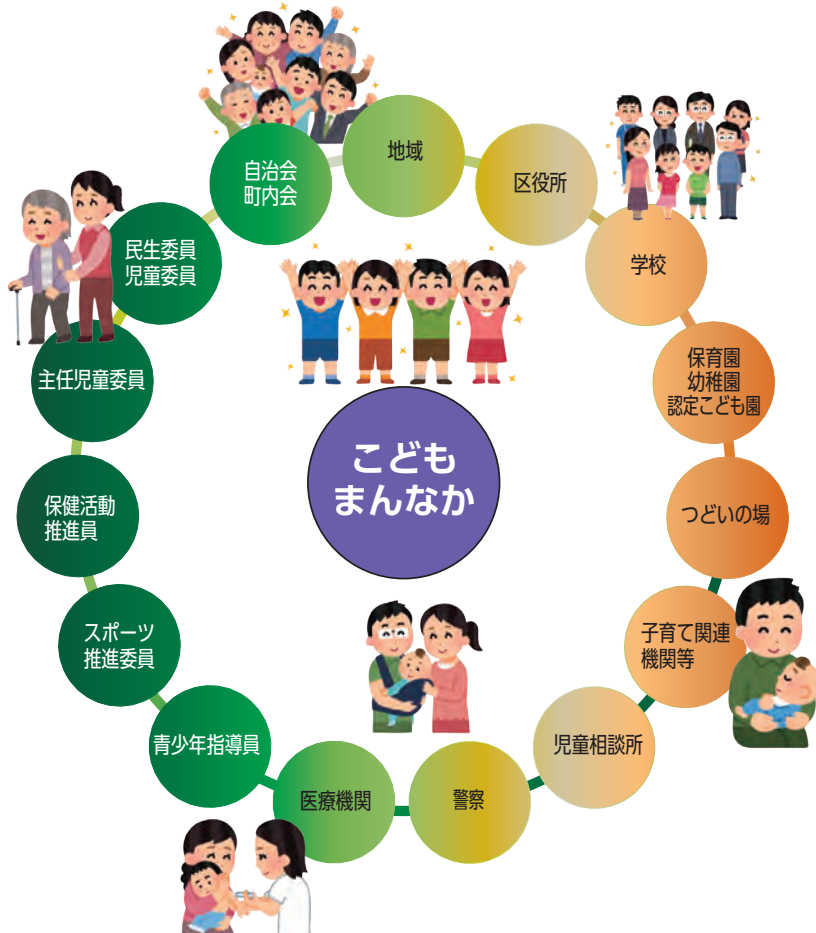
改正児童福祉法の施行に伴い、横浜市では「こども家庭センター」機能を各区のこども家庭支援課に順次設置しています。戸塚区においては、令和7年度に同機能が設置され、すべての妊産婦、子育て世帯、こどもに対する包括的な相談支援の強化を図るとともに、「誰もが自分らしく健やかに暮らせるまちづくり」の実現を目指し、「切れ目なく力強い子育て支援」の推進に取り組んでいます。

また、こどもや子育て当事者のニーズに即した支援計画（サポートプラン）の策定を始め、地域の子育て支援団体との連携を通じて、子育てに関する情報提供や居場所づくりなど、地域全体でこどもの健やかな成長を支え、見守る体制の構築を進めています。

横浜市のこども・子育て支援施策の総合計画である「こども、みんなが主役!よこはまわくわくプラン」(※)の推進に加え、戸塚区では「地域における子育て支援の充実」及び「社会全体でこども・若者を大切にする地域づくりの推進」に重点的に取り組んでいます。

こども自身の思いや意見を尊重しながら、「とつかハートプラン」の各施策を通じて、地域の様々な場面でこどもや子育て家庭を支援し、「こどもまんなか社会」の実現を目指しています。関係機関との連携により、切れ目のない支援体制を構築し、こどもに関わるすべての人・地域・団体が協力し合いながら、子育てを支えるまちづくりを推進していきます。

戸塚区の目指すこどもネットワーク



(※)
「こども、みんなが主役!よこはまわくわくプラン」2025~2029(第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画/横浜市こども計画)

この計画は、横浜市の目指すべき姿『全てのこどものウェルビーイング(今も将来も幸せに生きる・未来に夢を持つ)を社会全体で支え、未来を創るこども一人ひとりが、自分の良さや可能性を発揮し、豊かで幸せな生き方を切り拓く力、共に温かい社会をつくり出していく力を育むことができる「よこはま」の実現に向けて、こどもや子育て家庭への支援を行う横浜市のこども・子育て支援施策の総合計画です。

5 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている

5-3 トピックス～インタビュー つながり、支え合い、共に力を合わせて

■誰もが安心して過ごせる つながり・支え合い・共に生きる地域の居場所

～3つの居場所の実践から～

とつかハートプランの目指す「誰もが安心して暮らす」につながる、区内で活動する3つの居場所を紹介します。様々な人や団体が手を取り合いながら思いを実現している、それぞれの団体の活動についてお話を伺いました。

ぐるーぷ・ちえのわ

あそび、まなび、つながり、みんなが主役で育ち合う！

お話：理事長 奥山雅子さん他スタッフと来所の親子さんたち

「障害のある人もない人も一緒に遊べる場を」と、1棟の空家から立ち上げた広場。現在では5棟になり、親子から高齢者、様々な年代の人が集い、緩やかにつながり続ける場を創出しています。何をやってもOK、禁止がなく、のびのびと過ごせる環境の中で、不登校のお子さんが「自分がやりたい」を見つけているという話が心に響きます。身近に自然と接することのできる環境を生かし、ちゅんちゅん農園では大人も子どもも土に触れ、野菜を収穫することもできます。誰もが自分らしく過ごし、つながりあい、成長しあう、そんなスタイルを長く続けていくことにより、若い世代にもつないでいくことができます。広場に来ていた小学生のイキイキと過ごす姿、久しぶりに訪れ自然体で過ごす高校生の姿にその言葉の実践を感じました。



ふれあい広場よつば

「みんなが緩やかにつながるくつろぎの場、情報基地」

お話：広場担当 中村豊子さん、田代孝枝さん、小林陽子さん

介護事業所の傍ら、地域とのつながりを作りたいという思いから、地域の居場所としてのサロンを開始しました。訪れた人がそれぞれの得意を生かした書道や折り紙などボランティア講師による講座が広がっていききました。みんなの思いや得意が伝わり、講師も参加者もイキイキと、「楽しい」が広がっています。参加者同士がつながり、「共にやりたい」が生まれ、「お抹茶サロン」が誕生しました。地域の中のモノの循環を目指したバザーも好評です。コロナを経て消失した活動もありますが、時代の流れを見極めながら活動を変化させ、考え合っています。そして「できることをできるようにお互いに協力し合っている」と、気負うことなく語ってくれました。みんなにとって「来やすい」あたたかい場であることが感じられました。



こまちカフェ(戸塚駅西口)・こよりどうカフェ(戸塚駅東口)

子育てをまちでプラスに、居場所からつながり広がる豊かなまちのしくみへ

お話：認定NPO法人こまちぶらす理事長 森祐美子さん

ご自身の子育て経験で感じた空虚感の中、素敵なおまのひととのつながりを得て、エンパワーされ、居場所を立ち上げました。居場所からつながりが生まれ、子育て中から高齢者、企業商店の人まで、枠にとらわれないつながりを創出しています。何かやりたい人が集まってくる、その受け皿を作る役割も担っています。不要となった紙でバッグづくりを、介護事業所と連携。カフェの一角では、ハンドメイド作家さんたちの作品を販売する箱ショップを開店中。「こどもとおとなの学校」は、こどもたちの「やりたい」を実現するプログラムです。「ウエルカムベビープロジェクト」では、地域のボランティアの制作した「背守り」とともに温かいメッセージも届けられ、戸塚か

ら他の地域にも広がっています。居場所から始まった幅広いつながりは、まちのなかの仕組みに発展しました。専門的な支援はできないが、逆にいろんな人が「自分の強みを見せてくれる」と。いろんな人の力を借りて「なんとかなる」と思えるまちにできたらという願いが込められていました。



背守り



様々な企業から寄せられた出産祝い



居場所の背景はそれぞれだけど、スタッフも参加者もみんなが主役になっているね。自分らしく、世代を超え、みんながつながり、学び育ち合える居場所は枠を超えて新たな仕組みや価値観を作り出しているよ。

■専門を越え、人と地域をつなぐー司法書士と仲間たちが育む“協働の仕組み”

地域に貢献したい企業と、地域課題の解決に取り組む団体やNPOをつなぐ、多職種・多業種のネットワークづくりを進めてきたのが、司法書士の清水敏博さんです。

士業として培った専門知識と地域活動を組み合わせ、「知り合う」「つながる」「分かち合う」の輪を広げています。

活動の原点はどこにあるのでしょうか。

司法書士として相談を受ける中で、税務・福祉・労務などが複雑に絡み合い、一人では解決できない場面に直面しました。そこで25年前、弁護士・税理士など11の士業によるネットワークを立ち上げ、暮らしや住まいの問題を支援できる体制を整えました。

この経験を通じて「一人ではなく、立場や専門を越えて連携することの大切さ」を実感し、それが後の“地域と人・企業をつなぐ活動”につながりました。

その考え方が「地域と企業・団体の橋わたし」に発展していったのですね。

地域での相談を重ねるうち、企業から「地域に貢献したいが関わり方がわからない」という声を多く聞くようになりました。

その思いと地域のニーズをつなぐ場として、2016年に異業種交流会「こらぼ会」を立ち上げました。企業、NPO、福祉施設、学校、寺院など、多様な人たちが顔を合わせ、知識や経験、ネットワークなどの資源を分かち合い、協働のきっかけを生み出しています。

参加企業の中に「専門を越えてつながることで、地元の実力になりたい」という思いが広がり、防犯や清掃など暮らしの課題を解決する団体も生まれました。

近年は地元企業の社会貢献を“仕組み化”する取組も進められていますね。

地域のNPOやこども食堂、福祉施設が抱える“困りごと”を発信し、企業が物品や人材で応援する仕組みとして「未来へのおくりもの」プロジェクトを立

ち上げました。

企業の思いと地域のニーズが結びつくことで、双方が元気になり、地域全体が少しずつ変わっていくのを実感しています。

印象に残っている取組はありますか？

人手が足りないNPOの活動に若手経営者が休日を使って参加したり、企業がこども食堂に食材を提供したりと、様々な“共創”が生まれています。また、高齢者施設のレクリエーションに高校生が参加するなど、世代を越えた交流も広がっています。

人と人が支え合う姿を体感できることは、地域の力になると感じています。

活動を続けるうえで大切にしていることは？

「知り合う」「つながる」「分かち合う」を大切にしています。地域活動は義務ではなく、「楽しいから参加する」「仲間に会いたいから続ける」という土壌づくりが重要です。継続には“仕組み”が必要で、後継者を育て、情報発信で活動を“見える化”することも欠かせません。

地域貢献活動に積極的に取り組むNPOや、これから始めたい人たちの思いが地域のあちこちで実を結び、地域の元気につながっていけばと思います。

今後の展望をお聞かせください。

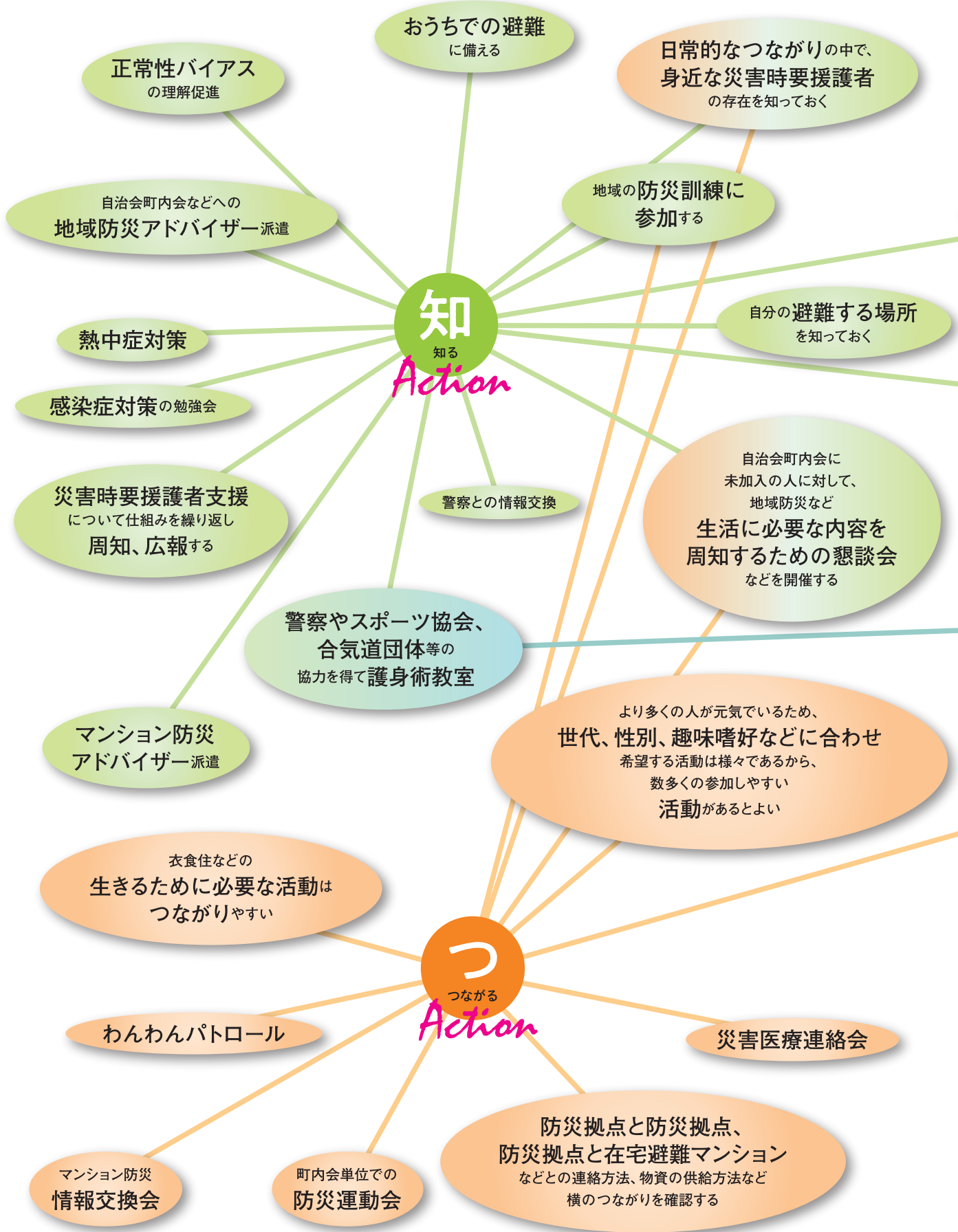
地域の課題は、一つの専門分野だけで解決できません。だからこそ、立場や業種を越えて「組む」ことが大切です。

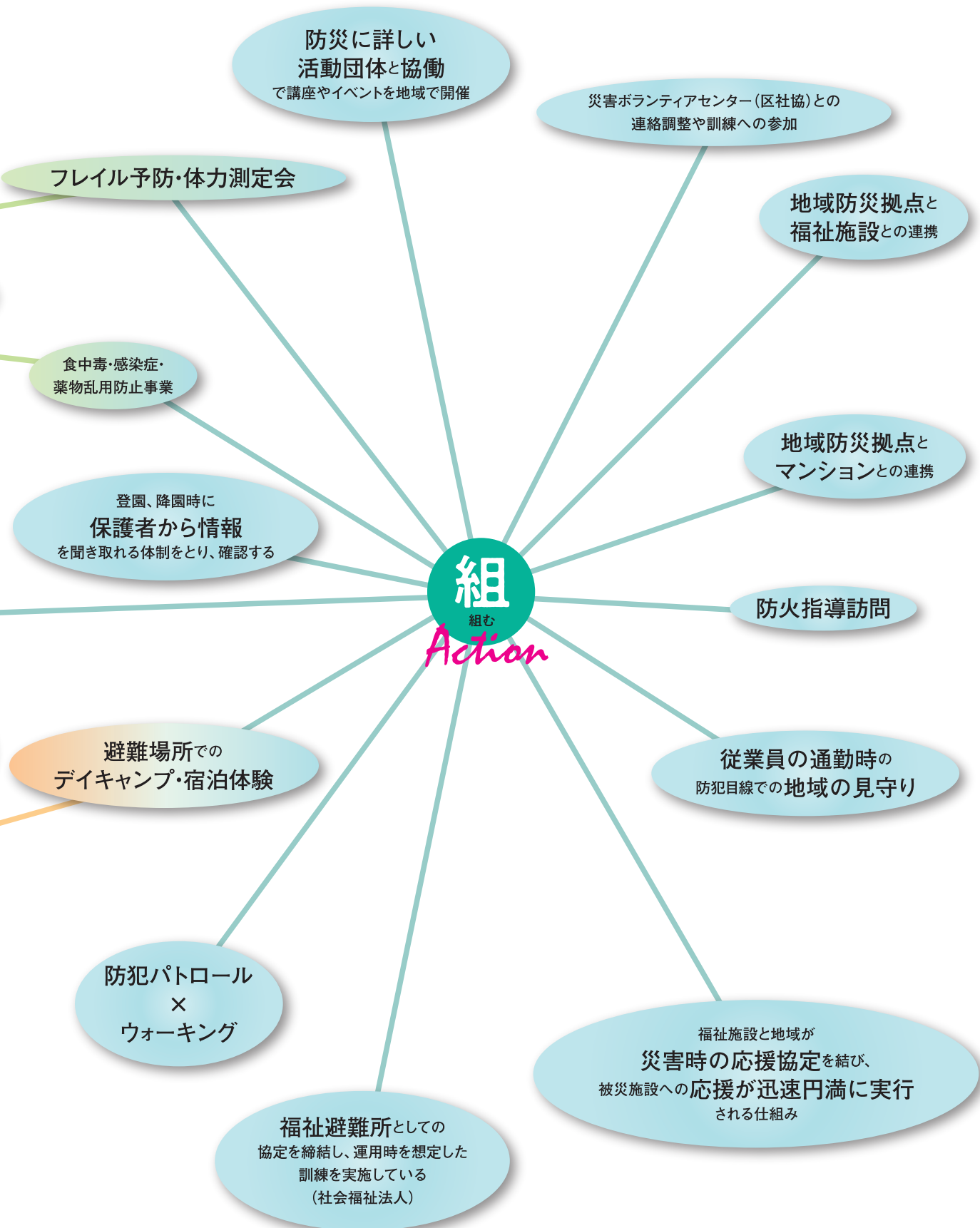
これからも、司法書士としての経験を生かし、人と人、企業と地域をつなぐ“橋”の役割を果たしていきたいと思っています。



6 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている

6-1 みんなの意見 区内の団体、関係機関、策定・推進委員及び様々な当事者からの意見を掲載しています。





6 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている

6-2 取組事例



「横浜市避難ナビ」



「マイ・タイムライン」

風水害に備えてマイ・タイムラインを作成しましょう

近年、台風や豪雨による被害は甚大化しています。風水害への事前の備えとして、一人ひとりの状況に合わせた避難行動の計画（マイ・タイムライン）を立てておくことが大切です。

ハザードマップを活用して、お住まいの地域の浸水リスク等を確認し、災害時に避難するタイミングや避難行動を検討して、マイ・タイムラインを作成しましょう。

マイ・タイムラインは、横浜市ホームページに掲載している作成シートや、横浜市の提供するアプリ「横浜市避難ナビ」で作成できます。



マイ・タイムライン作成シートより抜粋

自宅が安全ならお家で避難がキホンです！

大きな地震が発生したとき、まず、避難所に避難するのも一つの方法ですが、避難所では集団生活となるためプライバシーの確保が難しい可能性があります。自宅に住める状態（＝安全を確保できる状態）であれば、可能な限り住み慣れたご自宅で過ごすことによって、ストレスの少ない避難生活を送れます。

地震で家具が倒れたり、食器が散乱したりしないように家の中の安全対策ができていないかの確認や、食料や飲み水、生活用品といった避難生活に必要な備蓄を行っておきましょう。

詳しくは、戸塚区役所で作成している「お家で避難」リーフレットをご覧ください。



「お家で避難」リーフレット



「お家で避難」リーフレット

マンション防災活動への支援

マンション（集合住宅）は戸建てと異なり、共用部・共有設備があり、一人ひとりが備えるだけでは防げない集合住宅特有の防災上の課題があり、同じ建物に住む住民同士で協力して備える必要があります。

戸塚区では、マンション住民が在宅避難生活を継続できるよう、防災組織の立ち上げ方や地域防災拠点との連携などを盛り込んだ「管理組合・自治会向けマンション防災活動支援ガイドブック」を作成し、配布しています。

また、マンション住民が抱える防災上の課題に対して、個別具体的なアドバイスを行う「マンション防災アドバイザー」の派遣も実施しています。

なお、防災アドバイザーは、自治会町内会や地域防災拠点運営委員会向けの「地域防災アドバイザー」の派遣も行っています。防災マニュアルの作成や、訓練の企画・実施、訓練の振り返り等、あらゆる機会に活用いただけます。



戸塚区ランニング・わんわんパトロール

ランニングや犬の散歩を通じて地域の安全を見守る防犯ボランティア活動。普段の趣味が地域の安全につながります。登録いただくとお揃いの活動物品を提供します。今日からボランティア活動を始めてみませんか？



防災イベント

各地域では防災イベントを開催しており、こどもから高齢者まで楽しく防災について学び体験することができます。気軽に参加でき、より多くの人に防災について知ってもらうことができます。



災害時要援護者支援事業

災害時、自分や家族だけでは避難が難しく、支援が必要な人「災害時要援護者」がいます。災害時には「自助」「公助」だけでなく近隣と助け合う「共助」が必要です。要援護者の把握方法の一つとして、災害時要援護者名簿も活用されています。



福祉施設と地域の連携

障害のある人が入居しているグループホームでは、地域の防災訓練に参加し、災害時対応を身につけるとともに地域の人の顔の見える関係を作っています。



地域×企業 防災デイ

企業の協力により、災害時車中泊の体験・ソーラーパネル展示・防災食の試食・最新防災グッズ紹介など防災について体験・学べるイベントを開催しています。

6 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている

6-3 トピックス～もしものときに備える取組

■災害時に備えて備蓄をしましょう

災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。家族構成を考えて、必要な備蓄をしておきましょう。

下記の例を参考に必要な物をチェックしましょう。

食品等

- 水(1人1日3ℓ)
- 栄養補助食品
- 主食(レトルトご飯等)
- お菓子
- レトルト食品
- 缶詰



衛生用品

- トイレパック(1人1日5回分)
- トイレトペーパー
- ウェットティッシュ・ティッシュペーパー
- 歯磨き用品
- 女性用生理用品

トイレは我慢できません！
忘れずに備えましょう。



生活用品

- 乾電池
- 救急医薬品
- 懐中電灯・ランタン
- 常備薬
- モバイルバッテリー
- 手回し充電式等のラジオ
- ラップ
- 紙皿・紙コップ
- ポリ袋



あると便利！

電気・ガスが
止まっても
食品を
温められます。

- カセットコンロ
- ガスボンベ



乳幼児用品

- おむつ
- おしりふき
- 液体ミルク
- 離乳食
- 使い捨て哺乳瓶



要介護者用品

- 介護食
- 大人用おむつ
- 補助具などの予備



ペット用品

- ペットフード
- 水
- 首輪、リード
- トイレ用品



「お家で避難」リーフレットより抜粋

～ローリングストックをしよう～

「ローリングストック」とは、家族構成や生活スタイルに合わせて、食料や日用品を少し多く買い揃え、揃えたものを順番に使いながら新たに買い足していく「循環型備蓄」という考え方です。日頃の生活に取り入れてみましょう。

■地域防災拠点とは？

自宅が倒壊するなどして、住めなくなってしまった人が避難生活を送る場所で、震度5強以上の地震が発生したときに開設されます。

食料・飲料水や生活用品、防災資機材などが備蓄されています。また、救援物資もこの地域防災拠点に配送されることになっているため、拠点以外で避難生活を送る人も、ここで物資や情報を受け取ることができます。

戸塚区内では35か所の小中学校が指定されています。どこの小中学校が指定されているかは、戸塚区役所が配布している「戸塚区防災・区民マップ」で確認ができます。マップはウェブサイトでもご覧いただけます。



「防災・区民マップ」

■医療機関情報交換会

医療機関情報交換会は、区内9か所の医療機関の感染症管理担当者と戸塚福祉保健センターが、感染症拡大防止のための連携強化を目的として毎年度2回行っている会議です。医療機関情報交換会では、区内の感染症発生時の対応や手続きに関する説明、グループワーク、医療機関の感染管理担当者から感染対策に関する事例発表などを実施しています。こうした会を毎年度行うことで、顔の見える関係が築かれ、感染症発生時の対応を互いに確認・共有でき、実際の発生時に迅速かつ円滑に対応することができます。また、グループワークを通じて、医療機関同士が感染症発生状況や対応方法などについて互いの実情や工夫点などを知ることができ、戸塚福祉保健センターも現場の課題や医療機関の声を把握できます。感染拡大防止には、区内医療機関と戸塚福祉保健センターが連携し迅速に対応することが重要であり、医療機関情報交換会はそのための大切な基盤となっています。



■戸塚区災害医療連絡会議

戸塚区防災計画（震災対策編）に基づき、戸塚区の災害医療体制について平常時から意見交換、情報共有を図るとともに、災害時に関係機関が連携し、迅速かつ有効的な災害医療体制を構築することを目的として、戸塚区災害医療連絡会議を年に2回開催しています。

会議の参加団体は、区内の災害拠点病院及び災害時救急病院、戸塚区医師会、戸塚区歯科医師会、戸塚区薬剤師会、横浜市訪問看護ステーション連絡協議会、戸塚警察署、戸塚消防署、そのほか関係団体等で構成されています。

また、このほかにも各種訓練を実施しています。災害時に被災を免れ診療、開局可能な医療機関を示すのぼり旗を掲出する「災害時医療のぼり旗掲出訓練」を毎年10月に5日間に渡って実施しています。なお、症状の緊急度、重症度によって受診できる医療機関が異なります。いざという時、混乱しないよう災害時に受診できる医療機関を知っておくことが大切です。

災害時医療のぼり旗掲出訓練

期間 令和7年10月20日(月)～24日(金)

地域の協力医療機関である病院、診療所、歯科医院、薬局が、「診療中」「開局中」の「のぼり旗」を掲出します。

※大規模震災発生時に、被災を免れ診療、開局可能な医療機関「診療中」は、その旨を「診療中」「開局中」と記載されたのぼり旗を掲出し、診療、開局することとしています。

緊急度・症状の重症に応じて、医療機関等を選択しましょう。

重症 生命の危険がある、生命の危険が切迫している	重症	●災害拠点病院 診療可能な場合は「診療中」の赤い旗を掲示 【赤色のぼり旗が目標】
中等症 生命の危険はないが入院が必要	中等症	●災害時救急病院 診療可能な場合は「診療中」の黄色い旗を掲示 【黄色のぼり旗が目標】
軽症 生命の危険がなく、入院を要さない	軽症	●地域の診療所、歯科医院、薬局 診療可能な医療機関は「診療中」の黄色い旗を、薬局は「開局中」の黄色い旗を掲示。 【黄色のぼり旗が目標】
みんなの「旗」を掲げてみてね！	●医療救護隊(※)が巡回する地域防災拠点等	●医療救護隊とは 震災発生時の被災者を支援するために、医師、看護師、薬剤師が、区内の指定された事業所に集まったり、指定された指定避難所や避難所を兼ねた指定避難所及び主に軽症者に対する応急医療を行います。

応急手当て対応可能な程度の負傷 市民の自動・共助による応急手当て

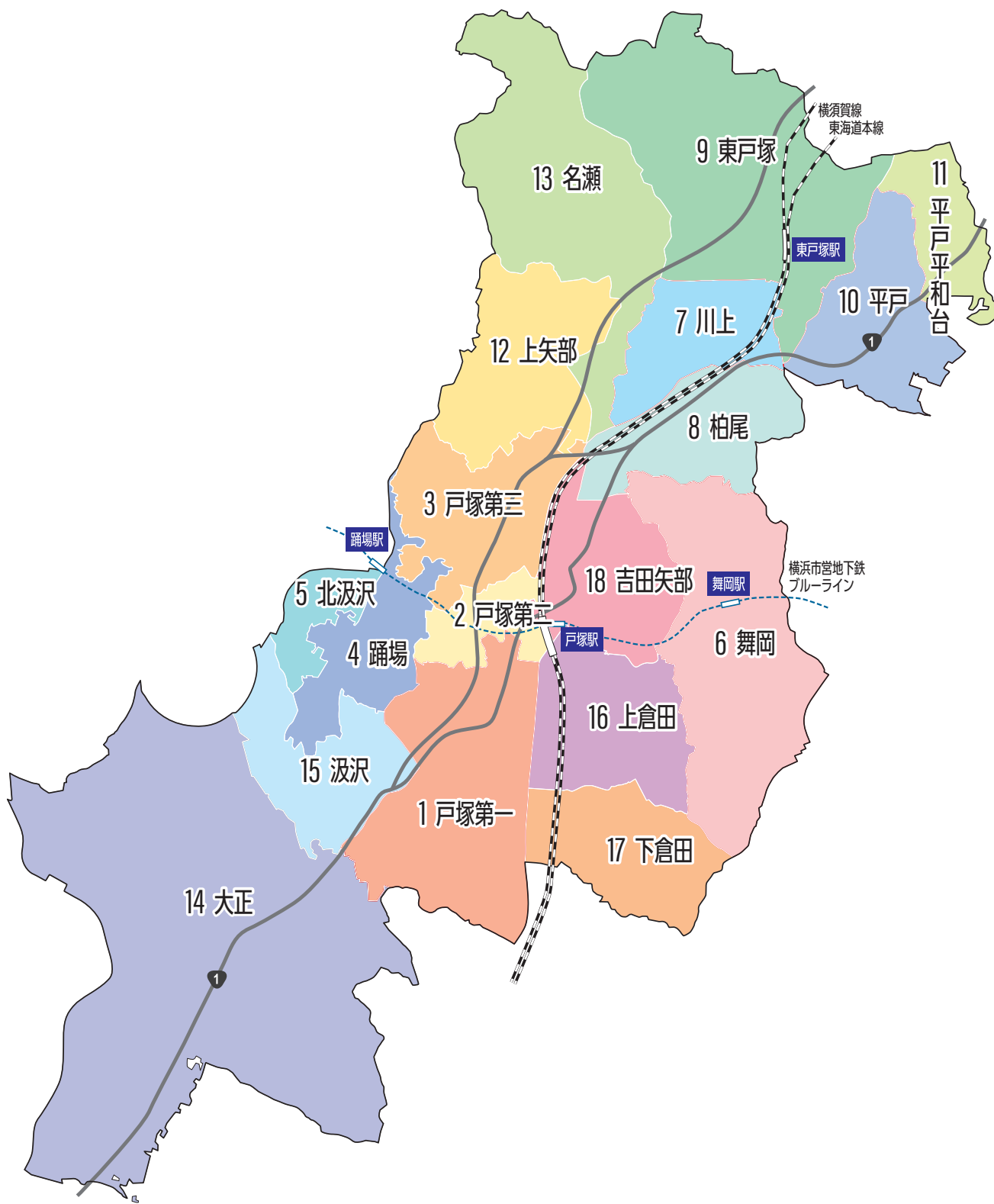
日頃からの備えも大切です！

- ① 近所の医療機関等を調べておきましょう。
- ② 処方薬等の正確な情報を携帯しましょう。
- ③ 処方薬等は1週間程度の予備を手元に。

問合せ 戸塚区福祉保健課 運営企画係 TEL:866-8418 / FAX:865-3963



第3章 地区別計画





-
- | | | |
|---|------|-----------------|
| 1 | 戸塚第一 | 笑顔であいさつ ふれあいのまち |
|---|------|-----------------|
-
- | | | |
|---|------|-----------|
| 2 | 戸塚第二 | 強い絆のまちづくり |
|---|------|-----------|
-
- | | | |
|---|------|---------------|
| 3 | 戸塚第三 | 心つながる ふれあいのまち |
|---|------|---------------|
-
- | | | |
|---|----|------------------------------------|
| 4 | 踊場 | 安心して暮らせるまち・踊場一話し合いと情報共有から始まるまちづくりー |
|---|----|------------------------------------|
-
- | | | |
|---|-----|----------------------|
| 5 | 北汲沢 | みんなの手 人にやさしい きたぐみのまち |
|---|-----|----------------------|
-
- | | | |
|---|----|--------------|
| 6 | 舞岡 | 日頃の声かけ・地域の安心 |
|---|----|--------------|
-
- | | | |
|---|----|----------------------|
| 7 | 川上 | 安心・安全で、支え合う、明るく楽しいまち |
|---|----|----------------------|
-
- | | | |
|---|----|--------------------------------|
| 8 | 柏尾 | ①かたいきずなど、②しんらいで、③おたがい仲良く地域の「わ」 |
|---|----|--------------------------------|
-
- | | | |
|---|-----|---------------------------|
| 9 | 東戸塚 | 東戸塚に住んで良かった わたしのまち・私たちのまち |
|---|-----|---------------------------|
-
- | | | |
|----|----|---------------|
| 10 | 平戸 | 心の かよいあうまち 平戸 |
|----|----|---------------|
-
- | | | |
|----|-------|-----------------|
| 11 | 平戸平和台 | 『つながり・見守り・思いやり』 |
|----|-------|-----------------|
-
- | | | |
|----|-----|-----------------------------|
| 12 | 上矢部 | ①かおのみえる ②みんなに ③やさしい ④ベストなまち |
|----|-----|-----------------------------|
-
- | | | |
|----|----|------------------|
| 13 | 名瀬 | 安心・安全、ふれあいのまち♥名瀬 |
|----|----|------------------|
-
- | | | |
|----|----|------------------------------|
| 14 | 大正 | 興味・関心をはぐくむ つながりをはぐくむ 取組をはぐくむ |
|----|----|------------------------------|
-
- | | | |
|----|----|----------------|
| 15 | 汲沢 | 人と人とのつながりを深めよう |
|----|----|----------------|
-
- | | | |
|----|-----|-------------------|
| 16 | 上倉田 | 上倉田で暮らす誰もが心豊かな毎日を |
|----|-----|-------------------|
-
- | | | |
|----|-----|-------------------|
| 17 | 下倉田 | あらゆる世代が参加できる下倉田へ! |
|----|-----|-------------------|
-
- | | | |
|----|------|--------------------|
| 18 | 吉田矢部 | 笑顔と挨拶で紡ぐ安心のまち 吉田矢部 |
|----|------|--------------------|
-

1 戸塚第一地区

スローガン 笑顔であいさつ ふれあいのまち

振り返り 第4期計画で取り組んできたこと

主な活動と取組

目標1 見守り・支えあいのあるまちづくり

- ・民生児童委員による高齢者見守り活動、「お元気ですか」配布
- ・支え合い助け合い団体への助成金
- ・各種ボランティア向け講習会の開催



■ おなじみになった、戸塚第一寄席

目標2 みんなが参加、交流できる機会の充実

- ・戸塚第一寄席の開催、多世代交流会、団体交流会
- ・健民ウォーク、視察研修会の実施
- ・子育て支援拠点、給食、喫茶等のサロンによる活動
- ・社会福祉施設等の南秋祭、しもごうまつり等の催し



■ 多世代交流会にウナシーも参加



■ 令和7年には2つ目の子育て支援の新拠点開設



■ 南秋祭



■ しもごうまつり



■ 多世代参加の健民ウォーク



■ 団体交流会で情報交換

目標3 安心、安全のまちづくり

- ・各自治会町内会による防災訓練実施、防災備品や食糧の整備
- ・防犯、防災対策
- ・連合町内会の防災講習会
- ・新任自治会町内会役員研修会



■ 新任自治会町内会役員研修会



■ 各自治会町内会では防災訓練も

目標4 必要な情報が届く仕組みづくり

- ・社協だよりの年4回発行の全戸配布
- ・地区社協のホームページの充実
- ・各自治会町内会でのホームページ運用充実
- ・自治会等による班回覧や掲示板の活用



■ ホームページで情報発信

ハートプラン推進委員会

社会福祉協議会と連合町内会から、各種団体の代表が集まり、地区ハートプランの策定や推進の活動をしています。



第5期の目標



目標 みんなが参加・交流できる場づくり

- 茶話会、食事会、子育てサロンなどの充実
- 行事の活発化
- 世代や障害の有無を超えた交流・ふれあいの場づくり

地域交流
イベント



目標 見守り・支えあいのあるまちづくり

- 見守り活動の充実
- 挨拶や顔の見える関係づくりなどの住民間の交流促進
- 各種講習会の推進



目標 安全・安心のまちづくり

- 災害時要援護者への支援の検討・充実
- 防災備品や食糧の整備
- 防犯、防災対策



目標 必要な情報が届く仕組みづくり

- 自治会町内会の情報共有
- 自治会町内会や団体の活動をPR
- ITシステムの整備（インターネットを活用した情報発信）

あなたもハートプランの推進者。

まずは「笑顔であいさつ」から始めてみましょう。

そして、みんなで「ふれあいのまち」を目指しましょう。



2 戸塚第二地区

強い絆のまちづくり

振り返り 第4期計画で戸塚第二地区が取り組んできたこと

主な活動と取組

1. ふれ合える地域活動を着実に推進しました。

- (1) 令和3～4年はコロナへの対応で総会を书面評決にしたり、屋外活動を主体に推進するなど工夫を凝らした。
- (2) 令和5年以降は、従来の活動に戻った。
- (3) 子育て活動では子ども食堂をはじめとする新たな活動を模索中。



■ レクリエーション大会



■ ふれあいバス旅行



■ ふれあいサロン



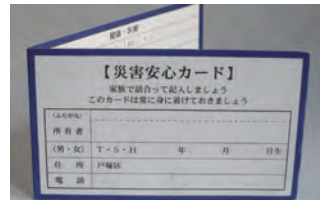
■ にこにこキッズ

2. 支え合う防災活動を推進しました。

- (1) 災害安心カードを配布し、携帯を要請した。
- (2) コロナ禍では、戸塚小学校の地域防災拠点訓練は、構成委員のみの活動で、コロナ患者の受け入れマニュアルを作成した。



■ 地域防災拠点訓練



■ 災害安心カード

3. 地域情勢の変化に対応した新たな活動を進めました。

- (1) コロナ終息後の令和5年以降の活動は、ほぼ通常に戻せた。
- (2) マンション住民の加入の促進活動を推進、自治会役員にマンション住民を巻き込んだ。
- (3) 第5期ハートプラン活動案策定に向けて、第4期ハートプラン振り返りアンケートを実施した。



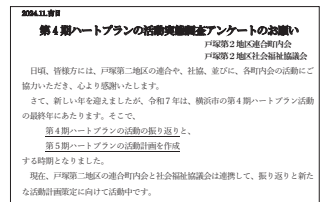
■ 世界の音楽鑑賞会



■ モルック大会



■ お祭り



■ ハートプランアンケート

4. 絆を強める情報を確実に提供しました。

- (1) 社協だより (40～63号) や自治会だより (147～210号) は確実に提供できた。
- (2) 掲示板、回覧を確実に実施した。
- (3) 矢沢町内会はホームページを立ち上げた。



■ 矢沢町内会ホームページ



■ 矢沢町内会掲示板



■ 旭町自治会掲示板



■ 社協だより



基本理念

誰もが、安心して心豊かに暮らすことのできる

地域社会の実現を目指します。

目標1 多世代交流で絆を醸成しよう

【具体的な取組】

- (1) 高齢者が安心して暮らせる地域を目指す
- (2) ふれ合える地域活動を着実に推進します
- (3) 顔の見える地域にしよう



■ 子ども食堂

目標2 地域で子どもを育てよう

【具体的な取組】

- (1) 子育て支援の推進
- (2) にこにこキッズ、子ども食堂の推進
- (3) 戸塚の町をふるさとに



■ 子供会ミニレク

目標3 防犯・防災活動を推進し、安心して暮らせる街にしよう

【具体的な取組】

- (1) 地域防災拠点訓練の活性化
- (2) 災害対応力の強化：地域別防災対策強化
- (3) 防犯活動の強化
- (4) 交通問題の改善に向けた活動



■ ふれあい太極拳

目標4 情報を確実に提供し、情報共有を進めよう

【具体的な取組】

- (1) 掲示板、回覧を確実に実施
- (2) 社協だより、自治会だより等の発行
- (3) 新たな情報提供手段の展開



■ 共同募金活動



■ とつ2ウォーキング

3 戸塚第三地区

心つながる ふれあいのまち

スローガンに込めた思い

「お互いを尊重しおもいやりのある心と心のつながりを持って、
支え合い助け合いのできるようなふれあいのあふれるまちにしていきたい」

振り返り

第4期計画で戸塚第三地区が取り組んできたこと

第4期で掲げた基本目標「地域の連携を強めよう」「支え合いと助け合いを継続しよう」「広報活動を充実しよう」に沿って戸塚第三地区、各自治会町内会が活動を行ってきました。第4期はコロナウイルスの流行で思うように活動が出来ない時期がありましたが、その間も工夫して活動を継続し、コロナ後はこれまでの活動を基盤として、部会間の連携や活動の範囲の拡大、支え合いと助け合いの広がり意識して取り組んできました。



「地域の連携強化」～交流・仲間づくり～

地域で活動する団体との連携や、コロナ期にも健民体育祭に替わる地域イベント開催により地域のつながりを保つなど連携の確保、強化に努めました。



■ 地域団体と連携したスポーツフェスティバル



■ コロナ期の地域ウォーク

「広報活動の充実」～多様な情報発信～

広報紙「あさがお」の充実による情報提供やSNSを用いたイベント参加申込など広く情報発信してきました。



■ 広報誌「あさがお」

■ 部会・町内会ホームページ

「支えあいと助け合いの継続」～子育て・高齢者支援・防犯・防災活動～

高齢者向け食事会の各所開催、多世代交流サロンの開催など支え合いの輪を広げました。また、町内会単位での防犯活動や、地域防災拠点訓練などの防災活動を実施し、助け合いによる安全・安心の街づくりをしてきました。



■ 木曜会 複数箇所開催に



■ 多世代交流サロン



■ 防犯パトロール



■ 防災拠点訓練

第5期の目標・取組



4つの基本方針のもとに展開していきます

● お年寄りや障がい者や子育て世代に寄り添うハートフルな支え合い助け合いの場づくり

- ・ 民生委員・児童委員による高齢者見守りや食事会・交流会の継続
- ・ 地域内の高齢者施設や障がい者施設との協調模索
- ・ 赤ちゃん教室や子ども会支援の継続
- ・ 子育て世代のニーズの変化に応じた支援の在り方模索
など



こころんカフェ

● 広い世代が参加しやすく魅力あるふれあいの場づくり

- ・ イベントの一部内容変更や情報発信の工夫による参加促進
- ・ NPO 法人との連携等による個人自由参加型地域イベントの実施
など



ボッチャ大会

● 災害に強い、犯罪のおこりにくい安全・安心な街に向けた絆づくり

- ・ 地域防災拠点と各自治会町内会防災組織との連携推進
- ・ 各自治会町内会単位の防犯活動の継続
- ・ 各自治会町内会が協調を取った防犯施策の実施
など



防災訓練

● お年寄りが外に出て活発に交流できる環境づくり

- ・ お年寄りの健康維持につながる地域ケアプラザ等と協働した
講習会の開催
- ・ お年寄り向け健康増進イベントの実施、老人会活動の支援
など



医事座談会

4 踊場地区

安心して暮らせるまち・踊場 —話し合いと情報共有から始まるまちづくり—

振り返り

踊場地区の取組



第4期における主な活動と取組



■ 連合体育祭



■ 文化まつり



■ クリーンデイ



■ さかみちプロジェクト



■ 認知症講座



■ ちょこっとボランティア



■ ふれあい午後のカフェ



■ 健民ウォーキング



■ 流しそうめん大会



安心して笑顔で暮らせるまちづくりを推進します

(1) 「きずな づくり」

◎地域ぐるみで安心して暮らせるまちづくりを実現するため、仲間づくりの場の強化充実を図ります。



(2) 「元気 づくり」

◎みんなが明るく暮らすことができるよう、子どもたちから大人までのすべての世代の元気づくりと健康づくりの実践に取り組みます。



(3) 「安心 づくり」

◎社会の変化に対応するため、防災・防犯対策の充実を図ると共に、高齢化社会を見据え認知症などの知識の学びを推進します。



5 北汲沢地区

みんなの手 人にやさしい きたぐみのまち

振り返り

第4期計画で北汲沢地区が取り組んできたこと

北汲沢地区は、コロナ禍で活動全般が自粛されることもありましたが、安心・安全なまちづくりや高齢者支援、健康づくり、多世代交流などの活動を進めてきました。

主な活動と取組

① 安心・安全できれいなまちづくり活動

- 1 連合町内会、地区社協連携の統一防災訓練の実施
- 2 年末年始特別警戒実施中の防犯防災活動実施
全地区120本の防犯防災「のぼり旗」の設置
全町会一斉5日間の防犯・防災パトロール実施
- 3 汲沢小学校・中学校の地域防災拠点防災訓練への参加
- 4 さわやか運動による町内の一斉清掃作業の実施



② 地域の高齢者に役立つ支援活動

- 1 福祉有償運送事業に基づく送迎活動は利用者39名～74名に対して担い手4名～7名で対応し、年間1500回の医療・福祉施設への送迎や買い物等の送迎支援を実施
- 2 樹木の剪定、草取りなどによる年間20回の日常支援活動の実施
- 3 一人暮らしの高齢者への見守りを含め月2回の手作り弁当の食事サービスを実施



③ 各種イベントやスポーツを通じたこどもから高齢者までの交流活動

- 1 クローバースポーツクラブによる健康・仲間づくり
・地域の3連合（踊場・汲沢・北汲沢）と汲沢小学校でまちづくり、仲間づくり、健康づくりを目指して活動。毎月2回、11教室で楽しい汗と会話で健康づくり
- 2 健民祭のウォーキングや各町会の納涼祭・餅つき大会・運動会等による地域内のこどもから高齢者までの多世代交流の実施
- 3 乳幼児親子支援活動の実施
- 4 各部会による健康講座、こどもの集い、ドッチビー大会、こども水泳教室、ホテル観賞会、夏休み野外キャンプ、芋ほり大会などによるこどもたちの交流・自然とのふれあい等の活動を進めてきました



④ 地域の小・中学校・高等学校との交流活動

- 1 小学校、中学校、高等学校運営協議会への参加
- 2 小学校の防災授業への参加
- 3 中学校では毎年の防災拠点訓練への参加体験、1年生対象の車いす体験授業の実施、健民祭への吹奏楽部・Vメイト（中学生ボランティア）の参加
- 4 高等学校生徒の地域納涼祭への参加



第5期の目標



- 1 住民が安心・安全に暮らせる住みよいまちづくり活動を統一して推進します。
- 2 高齢者・障がい者・子育て家庭に役立つ支援活動を行います。
- 3 スポーツ・イベントを通じ世代間交流をはかり、健康づくり・仲間づくりを目指します。
- 4 こどもたちへの健全育成に向け地域と学校との交流活動を図ります。
- 5 近隣地区連合との連携交流を深め協働活動を強化します。

目標1 安全なまちづくり

環境

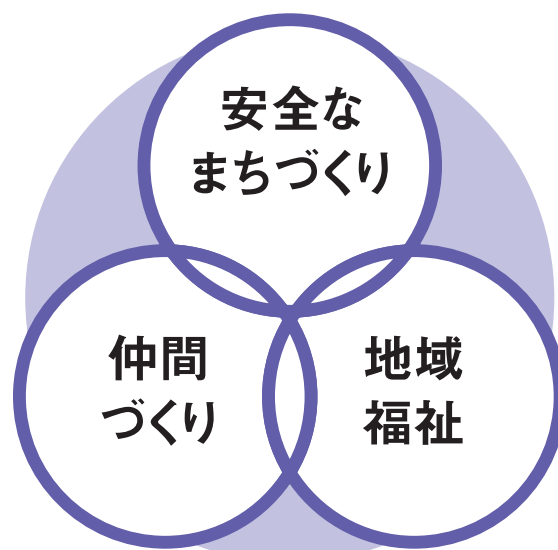
ごみのないクリーンなまちづくり

防犯

犯罪のない安心安全なまちづくり

防災

防災訓練などを通じて防災意識向上のまちづくり



誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる
地域社会の実現をめざして！

目標2 仲間づくり

健康

クローバースポーツクラブや老人会活動・サークル活動を通じて健康づくりや仲間づくりを推進する

世代間交流

地域と学校との連携として地域交流授業・防災訓練への参加・車椅子研修、地域のイベントを通じた老若男女の交流

イベント

健民祭（ウォーキング他）、こどもの集い（ドッチビー大会）、こども水泳教室、親子ドッチビー大会、ホテル観賞会、夏休み野外キャンプ、芋ほり、各町会の夏祭り、運動会、餅つき、講演会、防災訓練

他地区との連携

他地区連合との交流、ハートプラン、クローバースポーツクラブ、年末防犯活動を通じた連携、地区センターまつり、合同会議を通じた連携

目標3 地域福祉

外出時の送迎サービス

障がい者など手助けを必要とする方への自宅から目的地への送迎

家事支援サービス

高齢者宅の樹木の剪定、草取り、包丁砥、簡単な補修、粗大ごみ出し、手続き

見守り活動

ひとり暮らし高齢者宅を月1回訪問し、安否の確認

給配食活動

ひとり暮らし高齢者に見守りも含め、月2回手づくり弁当をお届け、年1回の食事会を実施

子育て支援活動

乳幼児家庭を対象に、毎月1回子育て相談会・お遊びを提供、年に数回イベント開催

6 舞岡地区



第4期計画で舞岡地区が取り組んだこと

出会いや交流の機会として、小学校・中学校の生徒や地域の方々に活躍していただき、地域ケアプラザ・地区センター・福祉施設など多くの機関と連携して事業を実施しました。

★ 鯉のぼりフェスタ ★



子ども達の健全な成長を願い、500を超える鯉が川を泳ぎます。沢山の出店で春の1日を楽しくす致します。

★ 連合会秋季大運動会・少年少女スポーツ大会 ★



連合運動会、少年少女スポーツ大会（ドッチビー）を開催し、健康増進・地域交流活動を進めてきました。

★ かすみ草の会 ★



75才以上のお一人暮らしの方たちのための食事会です。催物や講座の後、ボランティアさんの手作りの昼食を一緒にいただきます。

★ 舞岡音楽まつり ★ (社会を明るくする運動)



音楽をとおして地域社会の連帯を築けるよう、大人も子どもも一緒になって毎年開催しています。

★ 花さかクラブ ★



“舞岡を花でいっぱい”をスローガンに笑顔で明るい街づくりを180名の会員と共にバックアップします。

★ 舞クラス ★



地区内小中学校個別支援学級の保護者を繋ぐ会です。誰もが安心して暮らせる地区を目指して、施設見学や講演会・交流会などの活動をしています。

★ みんなの健康づくり広場 ★



「老若男女“みんなで目指そう健康づくり”」をテーマに、握力や血管年齢測定とコグニサイズ講座を開催しました。

★ 福祉安心講座 ★



幼児から高齢者を対象に、近隣施設などの協力のもと、年2～3回の情報共有と発信をしています。

★ 防災訓練 ★



3ヶ所（舞岡中・舞岡小・南舞岡小）の地域防災拠点があり全ての拠点で有事に備えた訓練を毎年しています。

第5期の目標・取組

「住んでよかった！みんなが思えるふれあいのまち」を目指して…

取組①

誰もが地域の住民として尊重しあい支えあえる関係を築きます

- ・相互の理解を深め信頼関係を築けるよう、出会いや交流の機会を充実させます。
- ・自治会町内会相互のつながりや横の連携を強化し、情報共有を図るとともに、良い取組みが広がることを目指します。
- ・誰もが協力できるような、組織や仕組みづくりに取組みます。

取組②

住民が安心して生活できるよう緊急時の体制づくりを強化します

- ・地域特性にあった防災訓練を実施し、誰もが参加しやすい環境を整備します。また、福祉施設や医療機関との連携を目指します。
- ・福祉施設と締結している「消防応援協力覚書」を見直し、より良い体制づくりに向けて、一步先へ発展させていきます。
- ・「救急安心カード」の普及や機能拡充に引き続き取組みます。

取組③

地域の機関・施設団体と連携して、より身近な地域での活動を推進します

- ・現在行っている地域活動や事業を継続しながら、その時々に応じた活動へと発展・拡充させていきます。
- ・地域と施設や学校等の顔の見える関係づくりを更に深め、地域全体でのネットワークを拡大していきます。



7 川上地区

第5期スローガン

安心・安全で、支え合う、明るく楽しいまち

振り返り 第4期「みんなでそなえ、育み、支え合うまち」で川上地区が取り組んできたこと

【目標1】

みんなでそなえる
防犯・防災のまち



- ・地区懇談会
- ・防犯パトロール
- ・学童見守り
- ・防犯講習会
- ・防災訓練や防災啓発活動
- ・地域防災拠点との連携強化

振り込め詐欺の防止
在宅避難について



■ 防災訓練

【目標2】

みんなで育む
子育てのまち



- ・子育てサークル「ぶらんこ」
- ・小学1年生を対象とした「むかしあそびの会」
- ・登下校時の学童の見守り



■ ぶらんこ



■ むかしあそびの会

【目標3】

みんなの支え合い
が続くまち



- ・高齢者親睦会「若葉会」
- ・ふれあいサロン「ひまわり」
- ・男の料理教室
- ・社会を明るくする運動
- ・レクリエーション大会
- ・川上チャレンジ
- ・ウォーキング大会
- ・さわやかスポーツペタンク



■ 男の料理教室

【目標4】

エコ活動等により
持続可能なまち



- ・ジャパンSDGsアワード受賞の下川町との交流
- ・下川町との交流事業として小学生の相互訪問
- ・さらに発展したエコ活動の実施



■ 夏祭りにて



■ ひまわり

第5期の目標



JR東戸塚駅の近隣である川上地区（秋葉町・前田町）は利便性の良さから子育て世代も増加する一方で地元で長年居住されている方々も多く、高齢化も進んでいます。連合町内会と地区社会福祉協議会では、子育て支援や高齢者支援をはじめ、エコ活動や世代を超えた交流イベント開催、防災・防犯組織活動、地区団体との連携など幅広い活動を展開しながら安心・安全で支え合う、明るく楽しいまちづくりを進めます。また、様々な行事や事業を通じて新しい担い手や参加者が増えるよう努めます。

目標1 安心・安全なまちづくり

【具体的な取組】

防犯パトロールや学童見守り活動とともに防犯講習会や防犯のぼり旗、回覧・掲示で防犯啓発活動を実施します。また各町内会・自治会の防災組織が防災訓練や防災啓発活動を実施します。さらに地域防災拠点組織との連携強化を進めます。



■ 地域防災訓練

目標2 みんなで支え合うまちづくり

【具体的な取組】

子育てサークル「ぶらんこ」による未就園児の子育て支援や学援隊による登下校時の学童見守り活動などを実施します。また一人暮らしの高齢者親睦会「若葉会」、ふれあいサロン「ひまわり」、「男の料理教室」、「社会を明るくする運動川上地区の集い」などを実施し、支え合うまちづくりを継続し発展させます。



■ 「ぶらんこ」風船あそび

目標3 世代の垣根を超えて繋がるまちづくり

【具体的な取組】

地域ボランティアによる小学1年生を対象とした「むかしあそびの会」や「レクリエーション大会」、「ウォーキング大会」、「川上チャレンジ」、「さわやかスポーツ・ペタンク」などを実施して地域の皆様の世代を超えた親睦と健康づくりの活動を行います。



■ レクリエーション大会

目標4 地域で育むエコのまちづくり

【具体的な取組】

SDGsの取組で第1回ジャパンSDGsアワードの内閣大臣賞を受賞している北海道下川町と友好交流協定を結んでいる川上地区連合町内会は下川町との交流事業を通じて独自のエコ活動を実施してきました。今期も取組を継続するとともに「SDGs」の17の目標とも連動した活動に取り組みます。



■ 下川町での「冬の体験キャンプ」報告会

8 柏尾地区

かたいきずなど、しんらいで、おたがい仲良く地域の「わ」

振り返り

第4期計画で柏尾地区が取り組んできたこと

- 子どもから高齢者まで多くの住民が参加できる活動や、住民相互の交流の輪を広げてきました。
- 連合の青年部を立ち上げ、次世代の担い手の育成に取り組んできました。

主な活動と取組

【地域ぐるみの子育て支援】

- 「ハートぽっぽ」に参加する幼児の年齢に合わせた工作やうた遊びなど、親子で楽しめて季節感のある催しを行いました。小学4年生の子ども達と交流する機会があり、工夫した楽しい出し物を幼児たちに披露してくれました。



■ ハートぽっぽ 小学生との交流



■ ハートぽっぽ ジャガイモ掘り

【地域のふれあいと健康づくり】

- 「かしおのこども食堂」は毎月1回舞岡柏尾地域ケアプラザにて開催しています。毎回100人以上の申し込みがあり、幼児から高齢者まで家族やお友だち同士で参加、ボランティアも増え交流の輪が広がっています。
- インディアカや元旦マラソン等のイベント、グラウンドゴルフやペタンク、また様々なサロンを通して、多世代交流と健康づくりを推進しました。



■ 柏尾さわやかウォーク



■ かしおのこども食堂



■ 秋季レクリエーション大会

【安心・安全で人にやさしいまち】

- 各自治会・町内会の防災リーダーは、毎月会議を行いその年のテーマを決めて防災訓練の準備をしています。夜間訓練や小学校との合同訓練など多彩な訓練を行いました。
- 学援隊の皆さんは、毎日小学生の登下校の見守りをしています。
- 各自治会・町内会では、防犯パトロールを行っています。



■ 小学校との合同防災訓練



■ 学援隊の登校見守り

第5期の目標



誰もが安心して暮らせる安全な地域づくりを進めるとともに、子どもから高齢者まで多世代がふれあい、支え合えるまちを目指します。また、地域同士のつながりも大切にし、やさしさと笑顔があふれる住みよい環境をつくりま

目標1 安心・安全で人にやさしいまちを目指します

【具体的な取組】

- 防犯パトロールを引き続き行うとともに、連
合全体で強化月間^{のほり}を設け、幟や掲示物やあ
いさつ運動など、防犯の強化を図ります。
- 災害時に備えて、地域住民が支え合えるよ
うに、各自治会・町内会の防災リーダー育
成と連携強化を引き続き進めます。
- 防災訓練の必要性とその意義を伝え、様々
な訓練を通して地域住民の防災への意識を
高めていきます。その一つとして、数年に一
度、小学校との合同訓練を行い、子どもの
頃から防災への意識付けを行っていきま



■ 防犯パトロール

目標2 多世代がつながる機会を広めます

【具体的な取組】

- 地域で親しまれている恒例のイベントは継
続しつつ、内容や運営方法を見直し、年代
や立場を問わず誰もが参加しやすく楽しめ
るよう、工夫していきます。
- スポーツ面の充実はもとより、文化面でも
地域の魅力発信の場として「連合文化祭」
の開催を目指します。多世代が気軽にふ
れあい、地域のつながりを深められるよう、
計画から実施まで住民の協力を得ながら実
現していきます。



■ もちつき大会

9 東戸塚地区

第4期振り返り

1 あいさつからはじまる明るいまちをつくろう

- 川上北小学校 6年2組の総合学習では「東戸塚応援団！東戸塚の魅力伝えます！」というテーマで活動。習い事の種類・保育園・公園・お店の数などに着目し、子育てや生活がしやすい町であることに気が付きました。お店への取材や地域行事への参加、アンケート調査などの活動を通して、街の人の温かさに触れることもできました。
- 品濃小学校・東品濃小学校では、あいさつ運動をすすめました。
- 地域の方々が集まって大交流会を開催。“東戸塚”について意見交換をしました。



ふれあいや出会いのきっかけができたね



2 みんなで支えあい、助け合うまちにしよう

- 高齢者食事会・地域食堂等、『食』を通じた交流の輪が広がりました。民生委員・児童委員による見守り・訪問活動を行いました。
- 自治会やマンション・各種団体等で「認知症サポーター養成講座」が行われました。
- 品濃小学校で4年生104名、PTAと地域11名を対象に「認知症サポーター養成講座」を実施。事前に教員向け講座(29名)も行いました。



相談先や解決策を知ることができたね



みんなの力でこころんが
いっぱいになったよ

3 みんなで取り組む安全・安心なまちにしよう

- 自治会町内会等で防災訓練が行われ、発災時だけでなく日頃の備えも学びました。
- 小学校PTAを中心に、スクールゾーン安全対策協議会で通学路の安全確保をすすめました。
- 町内会や地域団体等が地域清掃に取り組み、「きれいなまち東戸塚」に貢献しました。
- ウォークラリーでは地域の歴史や地域状況を確認しました。幼児から高齢者・障がい者、134名が一緒に歩き交流しました。



まちを知って災害時のことも考えられたね



4 地域の活動を知り、活動に参加して仲間づくりを広めよう

- 運動会・地域のお祭り凧揚げ大会等のイベントが継続され、住民が楽しみ、知り合い、つながる機会が広がりました。
- 東戸塚ボランティア連絡会の企画に、多くのボランティア団体が参加し交流しました。
- ハートプランのマスコット「こころん」を多くの人に知ってもらうため「こころんづくり隊」が立ち上がり、作成に励みました。隊員同士の交流も広がりました。



みんなもこころん付けているね顔見知りが増えたよ



第5期計画

東戸塚に住んで **良かった**

わたしのまち・私たちのまち

こころの決意！



これからもみんなで続けていこう

1

あいさつから
はじまる
明るいまちを
つくろう

2

みんな
支えあい、
助け合う
まちにしよう

3

みんな
取り組む安全
安心なまち
にしよう

4

地域の活動
を知り、活動
に参加して
仲間づくり
を広めよう



Furusato 東戸塚



- 1 「困ったとき」「いざというとき」に役だつ情報・知識を伝えられる人や団体を増やします。
- 2 安心してあいさつ・おしゃべり・相談できる関係を広げる機会をつくれます。
- 3 個人や個々の団体だけではやりきれない企画や行事をお互いに協力できる働きかけをします。

協力してね



デザイン：就労継続支援 B 型事業所スマイルプリント

10 平戸地区

心の かよいあうまち 平戸

振り返り 第4期計画で平戸地区が取り組んできたこと

平戸地区第4期ハートプランでは、各公園に春・秋に花苗を配布して街を明るく華やかにすることができました。4つの分科会を組織して行事の企画・運営を行い、多くの人がつながっていることを実感できました。また、各自治会の小集団で行っているボランティア活動の支援にも取り組みました。

4つの分科会の活動と取組

■ 人と人とのつながりづくり

『ふれあいの集い』や『すみれ会』を開催して、たくさんの人とつながりあうことができました。



■ すみれ会 (落語)



■ ふれあいの集い (ペットボトルでけん玉づくり)



■ 子どものもちつき

■ 健康づくり

「平戸ウォーク」を毎年開催して、参加者に喜ばれました。「ポッチャ大会」では、小学生から高齢者まで多くの方が参加され楽しむことができました。



■ 平戸ウォーク (英連邦戦没者墓地)



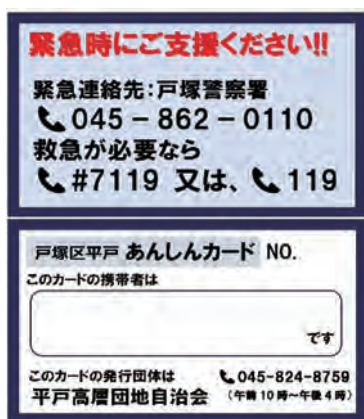
■ 平戸ウォーク (品濃白旗神社)



■ ポッチャ大会

■ 安全・安心

防犯パトロールや学童の登下校時の見守りに加え、「あんしんカード」を作成して、高齢者の多い平戸高層団地自治会に配布し、活用しました。



■ 情報発信・共有

LINEでつながり集まる会議を削減しました。X (旧ツイッター) による、情報掲示板を設け、皆さんに早く情報を届けることができました。



■ Xの投稿

第5期の目標



平戸地区は、歴史のある旧東海道と緑豊かな果樹園があり、JR横須賀線東戸塚駅から徒歩圏内ということで、とても住み良い街です。この街に住む人々が安全で安心して暮らすことのできる街、健康で笑顔あふれる街にすることを目標に活動してまいります。第5期の取組については、第4期で採用した分科会方式を継承して活動いたしますが、今期も急速に増加する高齢者や若い人・転入者並びに障がいのある方にも優しく寄り添って活動してまいります。

【活動目標】

1 支え合いと助け合いのある街

- ・認知症との付き合い方（勉強会開催など）
- ・介護施設・障がい者との交流



2 みんながふれあう場のある街

- ・「ふれあいの集い」などによる様々な方との交流
- ・若い人や転入者が参加しやすい場の提供



3 いつまでも元気で健やかに暮らせる街

- ・「平戸ウォーク」の継続開催
- ・スポーツ・健康イベントの開催/支援
- ・各自治会や団体への活動支援



4 安全・安心で人にやさしい街

- ・防犯パトロールや防犯カメラ設置などの推進
- ・自然災害における要援護者対策
- ・地域防災拠点運営委員会との連携



11 平戸平和台地区

近くの人が近くの人を助ける『近助の絆』を確かなものに

振り返り

第4期計画で平戸平和台地区が取り組んできたこと

親しみやすく、学んで楽しめるイベントをたくさん実施しました!

主な活動と取組

防災減災フェスティバル

「楽しく学ぼう防災の知識
家庭でできる減災対策」
スタンプラリーを実施し、
豚汁がふるまわれました。



スポーツフェスティバル

子どもから大人まで楽しめる
ゲームにチャレンジしました。
(輪投げ、紙飛行機、スリッパ
飛ばし、ペタンク、ポッチャなど)



平戸地域ケアサポート祭

地域の中学生がお祭りを盛り上
げ、障がいのある方が活躍で
きる場を提供しました。
また、SDGsについても取り
組んでいます。



成果

災害に対する意識が深まり、障害のある方にも関心を持っていただけました。
それにより、手伝ってくださる方々が大幅に増えて楽しくイベントを開催する
ことができました。



スローガン『つながり・見守り・思いやり』

見守り連絡会を継続して行います

各活動団体の色々な立場やスキルを活かし、「やさしいゆるやかな見守り」について協議しています。



子ども向けイベントを行います

映画観賞会

花火大会 etc



■ こども映画鑑賞会の様子



地区社協ホームページ
見守り連絡会について詳しい内容は
こちら



■ 花火大会の様子

「地域活動に参加したい」と思ってもらえる取り組みを行います

町内会のユニフォームをおしゃれに！

町内サークル活動の実施

散歩、麻雀、グラウンドゴルフ etc



安全・安心・明るく・楽しい平戸平和台地区を目指します！

協力：平戸平和台地区社会福祉協議会
デジタル支援の会

12 上矢部地区

か おのみえる みんなに や さしい ベ ストなまち



第4期計画で上矢部地区が取り組んできたこと 主な活動の取組

みんなで楽しく(活動の充実)

みんな de 上矢部 地域防災拠点訓練



遊びを通して 多世代交流
地震・風水害への備え

AQUA フェスタ



水辺を生かした
交流イベント

大運動会



16町内対抗健康
づくりイベント

お茶の間



高齢者食事会
集いの場

共同で活動(活動の活性化)

ケアプラザ、地区センター



「ふれあいフェスティバル」
「レインボーフェスタ」

湘南医療大学



大学と連携した
医療公開講座

水辺愛護会



地域と小学校
一体で川の美化活動

かみやべ GO



「とつか公園あそび隊」
「いいじいカフェ」
子育て支援コラボ

新たな取組 (活動の基盤づくり)

- ・ 防災拠点拡充
(補充的避難所)
上矢部高校武道場を活用
- ・ 連合町内会組織改革
家庭防災員と
女性部を一本化
- ・ 活動拠点整備
上矢部会館改修
防災倉庫新設
- ・ 地域への情報発信
「連町だより」
紙面刷新など

《目標》 顔の見える関係づくり 支えあいの仕組みづくり ハートプランを知ってもらう

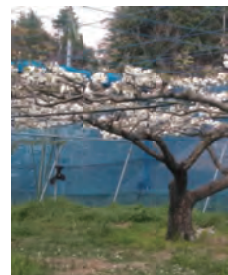
第5期 目標・取組

矢のように
活動を前へ！

「上矢部シンボルマーク」
地名の由来である“矢の羽”



戸塚区の「梨」



市民の森の「どんぐり」

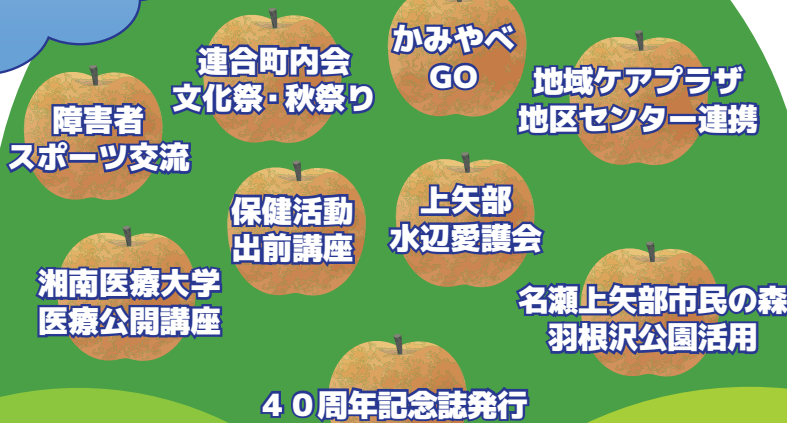


顔の見える関係から顔のわかる関係へ！
支えあいは自助・共助に加え、近助の関係づくりへ！
緑に囲まれ、川に親しめるまちづくりへ！

《目標》

- ・ 顔の見える関係づくり
- ・ 支えあいの仕組みづくり

共同で活動 【活動の活性化】



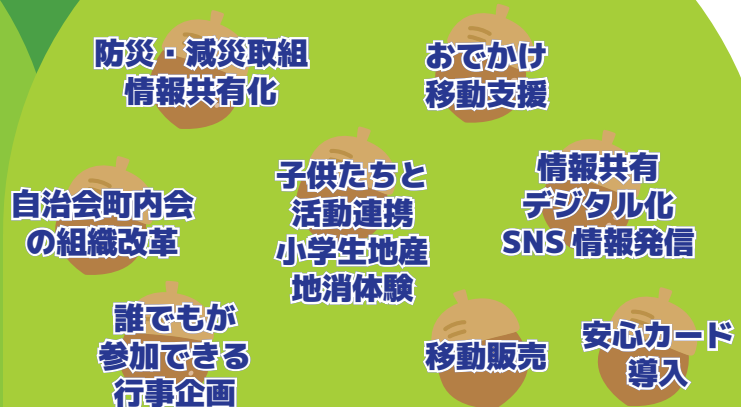
阿久和川の「さくら」



みんなで楽しく 【活動の充実】



新たな取組 【活動の基盤づくり】



【区計画】

- ・ 3つのアクション
〈知る〉〈つながる〉〈組む〉

名瀬川

阿久和川

【世の中】

- ・ 地域共生社会
- ・ こどもまんなか社会
- ・ SDGs

13 名瀬地区

安心・安全、助け合いのまち♥名瀬

振り返り

第4期計画で名瀬地区が取り組んできたこと

- 新たなボランティア、担い手づくり
- 水と緑の資源を生かした地域づくり
- 地域交流・多世代交流ができる場づくり

名瀬地区では子どもから高齢者まで参加できる活動のあるまちを目指して、様々な取組を行ってきました。第4期では、地区内外の企業等の協力を得て、こども食堂、フードパントリー等を実施しました。今後も引き続き、取組を進めてまいります。

主な活動と取組

桜カフェ ひとやすみ ●●



■ 妙法寺の素敵な環境の中で楽しむ、仲間づくりの場

名瀬のまちを歩こう ●●



■ 里山を歩き、ゴールでは豚汁と焼きそばで多世代交流

移動スーパー(買い物支援) ●●



■ 地域の企業の協力を得て、買い物をサポート

ラジオ体操 ●●



■ 名瀬町第一公園、名瀬下第一公園(スポーツ公園)、名瀬下第三公園で実施

モーモークラブ ●



■ 名瀬第二町内会館での楽しい親子教室

かいぞう広場 ●●



■ 赤ちゃんから高齢者の方まで、昔遊びで多世代交流

フードパントリー ●



■ 年2回、地域の方の温かさと一緒に届けるイベントとして定着

なせホットと食堂♥ ●



■ 子どもから高齢者まで、おいしい食事で笑顔いっぱいの居場所づくり



なせホットと食堂♥
ホームページ



安心・安全、ふれあいのまち♥名瀬

■ つむぎの会

● 目標1 新たなボランティア、担い手づくり

【具体的な取組】

かいぞう広場（名瀬第一町内会館）
つむぎの会（配食ボランティア）



● 目標2 水と緑の資源を生かした地域づくり

【具体的な取組】

桜カフェひとやすみ（妙法寺）
名瀬のまちを歩こう
子育て連絡会
ラジオ体操で健康づくり

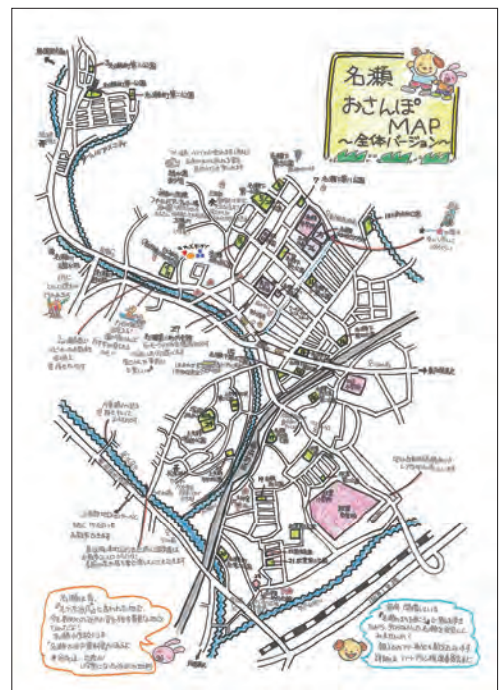


■ ラジオ体操で健康づくり（名瀬下第一公園での様子）

● 目標3 地域交流・多世代交流ができる場づくり

【具体的な取組】

かいぞう広場、買い物支援
モーモークラブ、桜カフェひとやすみ
名瀬のまちを歩こう
なせホッと食堂♥
子育て連絡会、ラジオ体操で健康づくり



■ 名瀬おさんぽMAP

● 目標4 助け合える地域づくり

【具体的な取組】

フードパントリー
なせホッと食堂♥
買い物支援



名瀬おさんぽMAPは名瀬地区子育て連絡会において作成しました。是非、地域の皆様にも活用して頂けると嬉しいです。

14 大正地区

みんなで安全・安心なまちづくり

困ったら気軽に相談する場所があり、相談できる人がいるまちにするため、目標を4つ掲げ笑顔で挨拶し、見守り、助け・支え合えるやさしいまちづくりを目指し、取り組みました。

振り返り 第4期計画で大正地区が取り組んできたこと

第4期の期間中は、コロナ禍による活動休止を乗り越えながら、活動団体と地域ケアプラザなどが連携してさまざまな取組を進めました。またイベントを通じて、地域交流の活性化を図りました。



大正ゲームフェスティバル



大正フェスタ



大正福祉まつり

目標1 みんなで安全・安心なまちをつくらう



社会を明るくする運動作品
地域住民と学校、関係機関・企業との連携と協力体制づくりを進めました。



大正食品配布会

グループワーク



ハートプランの推進について、多くの住民の意見を反映させるためにアンケートや話し合いを重ねました。

アンケートの実施



防災訓練に加えて、日頃から災害時要援護者の把握や住宅火災予防訪問、わんわんパトロールを進めました。



防災訓練



わんわんパトロール

目標2 子どもからお年寄りまで交流できる環境を整えよう



たいしょう食堂



ふれあい会食会



スマホカフェ

世代間交流とさまざまな仲間づくりを進めました。

「おさんぽマップ」や「おでかけマップ」を作成し、「大福まっぷ」を更新して、住民の地域交流と健康づくりを進めました。



お散歩会




おさんぽマップ・おでかけマップ・大福まっぷ

目標3 住民一人ひとり、みんなの力で防災・減災・防犯に取り組もう

目標4 こころもからだも健康なまちづくりを進めよう


第5期の目標

- 1 みんなで安全・安心なまちをつくろう 
- 2 子どもからお年寄りまで交流できる環境を整えよう
- 3 住民一人ひとり、みんなの力で防災・減災・防犯に取り組もう
- 4 こころもからだも健康なまちづくりを進めよう

興味・関心をはぐくむ

町内会・自治会、活動団体や地区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、地区センター等が連携し、地域活動に関する興味・関心を高められるような事業をさらに充実させます。

つながりをはぐくむ

世代間のつながりが希薄になっているため、あいさつや交流・情報交換等を通じて、日頃から顔の見える関係性をつくり、困ったときにお互い助け合えるようなつながりを進めていきます。 

取組をはぐくむ

(関係性を深める)
今ある地域での取組をさらに発展させていくために、社会福祉法人や企業等と連携し、多様な声に耳を傾け、世代や立場を超えて話し合い、学び、支え合える地域を目指します。

具体的な取組

- ・ ホームページの更新
- ・ 広報紙の発行
- ・ 大正食品配布会
- ・ たいしょう食堂
- ・ わんわんパトロール
- ・ フリーマーケット
- ・ 各地域のお祭り
- ・ 大正ゲームフェスティバル
- ・ 大正フェスタ
- ・ 大正福祉まつり
- ・ ふれあい会食会
- ・ 防災訓練
- ・ おさんぽマップ
- ・ おでかけマップ
- ・ 大福まっぷ[®](大正地区地域福祉マップ)
- ・ カフェマップ
- ・ お買い物宅配サービス情報
- ・ 元気づくりステーション
- ・ 体操教室
- ・ スマホカフェ
- ・ 見守り活動 など

引き続き

アンケート調査



各イベントで実施し、住民の意見を反映させます

ハートプランを推進するために

取組の再評価をします

話し合いの場



各団体とともに活動を振り返ります

15 汲沢地区

人と人とのつながりを深めよう

時代とともに薄れつつある人と人とのつながりを取り戻し、地域のコミュニティの活性化や人々の結びつきを強くしていく活動を進めます。

振り返り

第4期計画で汲沢地区が取り組んできたこと

【敬老の集い】

コロナ禍で開催できなかった「敬老の集い」は4年振りに再開しました。会場は空調設備が整った「子供の虹情報研修センター」で好評でした。



■ アトラクション(津軽三味線)



■ アトラクション(汲沢中学校合唱)



■ 75才以上の招待者の皆さん

【工作教室】

家や学校では作らない水鉄ぼうや割り箸鉄ぼうを製作する「夏休み工作教室」と高齢者にも人気のクリスマスリース作りの「冬休み工作教室」



■ 割り箸鉄ぼうづくり



■ クリスマスリースづくり



■ クリスマスリースづくり

【さつま芋掘り】

普段できない土とのふれあいが楽しい、若い世代から高齢者むけの「さつま芋掘り」



16 上倉田地区

第5期の目標

互いに **か** んしゃし互いの言葉に **み** みを傾け



1 毎日が気持ち良く暮らせ、 誰もがたのしく年を重ねられるまち

■ ともに尊重し、支えあいながら暮らせるまちづくり

- 高齢者、若者、子ども、障害のある人もない人も地域全体で見守り、誰もが地域社会の一員として、ともに尊重し支えあいながら暮らせる「街づくり」を推進します。

■ 清潔できれいなまちづくり

- ゴミ問題は地域で暮らす皆さんの関心も高く、自治会・町内会の重要課題の一つです。清潔できれいな街づくりに向け、連合会と地域が一体となり取り組んでいきます。また、燃やすごみに含まれるプラスチックごみの削減を目指す「ヨコハマプラ 5.3 ごみ計画」の推進と定着化に向け、広報活動を実施していきます。



2 防災と防犯に

■ 防犯パトロール・防犯設備

- 「安全で安心して暮らせるま警察等と連携・協働しながら防犯設備の設置は、行政の助

■ 防災や減災に取り組む

- 地元消防団や行政の防災担当会や講演会を通じて、安全です。

■ 高齢者の防犯対策

- 特殊詐欺被害防止のための情被害にあわないための施策を



振り返り

第4期計画で上倉田地区が取り組んできたこと

主な活動と取組

1. 安全・安心なまち

特殊詐欺被害防止対策の講習会を重点的に実施しました。



2. 地域活動の盛んなまち

「連合まつり」「キャンドルナイト」「歩け歩け大会」「上倉田おやつキャラバン」「ポッチャでサロン」「健康講座」「子育てサロン」など、多世代が参加できる地域活動が盛んに行われました。



3. 減災・防災に取り組むまち

「自治会町内会の防災訓練」「各小学校の地域防災拠点運営委員会への参画と避難訓練への参加」、家庭防災員主催の「防災講習会」「AED 取り扱い訓練」を実施し、地域全体で減災・防災に取り組みました。



さまざまな課題を皆さんとともに乗り越え、毎日を明るく・楽しく・元気よく暮らしていけるまち上倉田を作っていきます。

支えあって **くら** し互いに **た** すけ合うまち

取り組むまち

の設置

「まち」を目指し、**防犯パトロール**を行政・進めていきます。
成制度を有効活用し進めていきます。

部署との連携を深化させ、**防災講習**安心して暮らせる街づくりを進めま

報提供や講習会を開催し、高齢者が進めていきます。



3 子どもたちがすこやかに育つまち

■ 子どもたちが地域で活躍できる環境づくり

- 上倉田で生まれ育った子どもたちから「かみくらた」が自分のふるさとだと言ってもらえるように、子どもたちが安心して楽しく過ごせ、**地域で活躍できる環境**をつくりま

■ 子どもたちがすこやかに育つ環境づくり

- 子どもたちがすこやかに育つよう、**子育て支援事業、子育てサロン**や**子どもたちの居場所**などの**充実**を図ります。

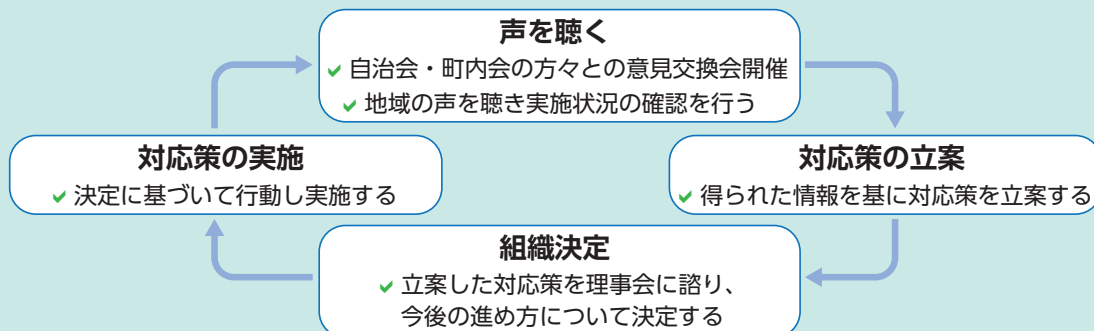


今後のハートプランの進め方

新たな取り組みとして、5年後の上倉田、さらにはその先の「上倉田のありたい姿」を、定期的に意見交換する場として「地域を明るくする運動」を設けました。

個々の課題を地域全体の課題と捉え、地区連合会とともに自治会・町内会を中心として、必要に応じ各種団体や行政・社協・ケアプラザも交えて意見を積み重ね、上倉田全体で課題解決に向けた対応策を考え実行していきます。

《 ハートプランブラッシュアップのイメージ 》



17 下倉田地区



第4期計画で下倉田地区が取り組んできたこと

目標1

必要な情報を届けることで、参加を促す仕組みをつくります



明治学院大学との連携



大わらじの掛け替えに集まる人々



下倉田地区連合会ホームページ

効果

- ・ホームページを通じて、たくさんの情報を提供することができ、検索数も増加し、プラットフォームが確立しました。
- ・その他、外部の広報も活用しました。

目標2

さまざまなつながりを生かして、新たな仲間づくりをすすめます



スポーツレクリエーション大会 (世代間交流)



ハートぽっぽ (子育て)



しながら体操



キッズサロン (世代間交流)



楽今日サロン (高齢者)

効果

- ・ホームページを見て参加することも・子育て世帯や若い人の参加が増え、あらゆる世代のつながりができました。
- ・参加者が増えることで、健康への意識が高まりました。

目標3

町ぐるみで防犯・防災活動に取り組みます



永勝寺 防火訓練 (県重要文化財)



豊田中学校 地域防災拠点防災訓練



連合まつり



防災ライセンス講習会



倉田小学校 地域防災拠点防災訓練

効果

- ・防犯・防災の周知啓発を行うことで関心が高まり、防災ライセンスリーダー証取得者が増えました。
- ・小学生が地域防災拠点防災訓練に参加したことで、大人も含めて参加者が増え、地域防災力が向上しました。

第5期の目標

日頃のつながりや次の世代も意識した関わりを通じて、
安心・安全な街づくりを目指します



安全を祈願する「大わらじ」
(画：稗田 康司)

防犯・防災

- 月に1回の防犯パトロールを充実させていきます。
- 防災対策を強化し、こどもたちも参加できる防災訓練を拡大していきます。
- 防災講習会を充実させます。
- 連合まつり（防犯・防災フェスティバル）を継続開催します。

DX化 (デジタル化)

- SNS等を活用して、迅速に情報を届けます。
- SNSの活用を進めるための講習会開催を検討します。
- ホームページの内容を充実させます。

支え合い

- 困りごとを相談・解決できる地域を目指します。

見守り

- 配食や会食会等を通じて、高齢者の見守りを継続します。
- 主任児童委員や地域住民のつながりの中で地域のこどもをみんなで見守ります。

あらゆる世代が参加できる
こども
高齢者
障害者

下倉田へ！

- イベントに参加してもらうことで地元愛をはぐくみます。
- ボランティアの協力を得ながら地域サロン等の運営を行います。
- 地域の交流をはかります。

- お祭りや季節のイベントにより多くの方が参加できるよう工夫します。
- 今ある交流の場を充実させ、繋がりを強化します。

児童・生徒・学生との繋がり

交流の場

18 吉田矢部地区

笑顔と挨拶で紡ぐ安心のまち 吉田矢部

振り返り 第4期の振り返り

- * 地域の小学校・企業等の協力を得て、子どもから高齢者まで広く一緒になり健民体育祭（10月）、花火大会（11月）等を恒例行事として実施しています。そのほかランニングクリニックやモルック競技等も開催しました。
- * 町内会・自治会の個別行事として桜祭り（4月）、夏祭り（8月）、秋祭り（9月）、餅つき大会（12月）等を催し、町内会・自治会間の往来も盛んです。
- * 趣味の広場・次世代の子どもたちの育成の一助となるよう、地域の小学生を対象とした各種教室・高齢者向け麻雀教室など各町内会・自治会を横断した交流推進。
- * 地域の子どもたちと防犯について学び（研修）、防犯マップや防犯のぼりを製作。
- * 地域での活動アンケートを再度実施し、コロナ後の地区内の活動を把握し第5期計画の策定につなげました。

地域の活動



桜祭り



夏祭り



健民体育祭



モルック

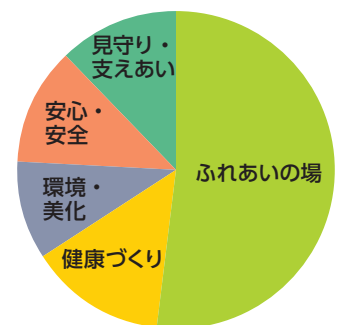
《アンケート集計》

要望と困りごと

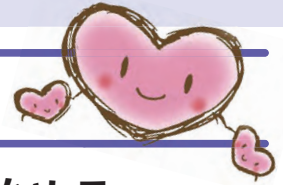
- ・災害時の協力体制づくり
- ・高齢者と子どもの見守り
- ・イベントを多くし親睦をはかる
- ・各自治会、町内会の連携行事開催
- ・活動担い手不足と負担軽減策

地域活動の現状

- ふれあいの場 52%
- 健康づくり 14%
- 環境・美化 10%
- 安心・安全 12%
- 見守り・支えあい 12%



第5期の目標



地域課題の解決へ 自分たちで出来る事から始める 私たちのハートプラン（地域福祉保健計画）

支えあいと助けあいのあるまち

- 高齢者への声掛け・見守り
- 子育て世帯が公園など遊んだり、交流できる環境づくり
- IT 活用で人材バンク構築（情報共有と、経験を生かす）
- NPO やボランティア活動との連携で町内会・自治会の活性化
- IT を活用して高齢者が情報を受け取れるしくみづくり

みんなのふれあう場のあるまち

- イベントカレンダーの作成（HP 掲載）
- 取組事例と問題解決のヒントの発信（ホームページ掲載）
- 地域をあげてみんなでまちや柏尾川清掃
- 地域内の施設紹介と連携（小中学校・保育園・企業・ケアプラザなど）
- 子ども食堂の開催で世代間の交流の場づくり

《地域の子どもの作品》



いつまでも元気で健やかに暮らせるまち

- 健民体育祭・花火大会・モルックなど継続して開催
- 健康づくりの場提供（健康体操等）
- 趣味を活かして仲間作りと外出の機会の創出
- 様々な人が参加できるスポーツの実施

安心・安全、人にやさしいまち

- 防災用バンダナを各戸で活用
- 街灯や防犯カメラの設置推進
- 災害時の要援護者の掌握
- ハザードマップの活用と紹介
- ドローンを活用し災害情報の共有
- 災害時の炊き出し訓練の実施

5年間の取り組み

- 1年目 恒例行事の推進と計画・運用を地域に広く紹介・アナウンスしていく
- 2年目 アンケートの集計結果を活かし、より具体的な取り組みの明確化
- 3年目 実施内容について協議（外部機関・企業・内部を巻き込みさらに進展させる）
- 4年目 3年間の成果と最終年へ向け目標を明確にしていく
- 5年目 地区社協とハートプランの認知度をあげて、町内会・自治会での困りごと解決



第4章 計画の進め方

1 策定の趣旨（目的）

ハートプランの推進の主体は、住民、団体、関係機関、事業者、行政など、戸塚区に関わるすべての人たちです。

分野を超えた幅広い主体が、ハートプランを通じて社会情勢や地域課題、当事者の声などを共有し、あわせて、当面の取組の方向性について指針を明らかにすることで、各々の役割に応じた取組を（ときには手を取り合うことで）効果的に進めることができます。

(1) すべての人が主役となるために

私たちの暮らす地域は、多様な人々により構成されています。年齢の違い、多様な性別の違い、障害の有無、国籍の違いなど、違う者同士が、地域を形づくっています。その中でただ一つだけ言えることは、誰もが大切な一人の人間であり、地域を形づくる主役であるということです。

誰もがその違いに関わらず認められ尊重されることは、よりよいまちづくりにおいて最も大切なポイントです。

ハートプランを通して、当事者の声を共有すること、お互いを知り合い、わかり合える機会を充実させていくことが求められています。

(2) 人口減少・超高齢社会への対応

戸塚区の人口は、2020年を起点とした推計では2025年をピークとして減少する見込みでしたが、減少のスピードは予測を上回り、2021年をピークにすでに減少傾向にあります。さらに、構成比では65歳以上人口の割合が高くなっていく一方、生産年齢人口（15~64歳）は減少していくと推定されています。こうした人口動態は、日々の生活や地域の営みにも様々な影響を与え、これまでに経験したことのない状況がやってくると言われています。

ハートプランを通して、地域を取り巻く状況の変化や具体的に起こりうる（起こっている）問題を共有し、幅広い主体が地域課題として捉え、それぞれの役割を果たしていくことが求められています。

(3) 複合化・複雑化した生活課題への対応

近年では、80代の親が、ひきこもり状態にある50代の子の生活を支えるといったいわゆる「8050問題」や、親の介護と育児などが同時進行となる「ダブルケア」、本来大人が担うことが想定されている家族の介護やケア、家事などをこどもが日常的に行う「ヤングケアラー」の問題など、複数の分野にまたがる「複合化・複雑化した生活課題」を抱える人たちの存在が浮き彫りになっています。

これらの事象の多くは、個人の努力などでは解決できないことばかりです。個人や世帯単位での生活課題も、その背景も含めた地域課題として捉え、個々を取り巻く環境に変化を与えていく必要があります。

ハートプランを通して、事象の理解、幅広い主体による地域課題としての共有、必要な人に必要な支援・情報が届く仕組みづくりが求められています。

(4) 様々な形で展開される“地域づくり”“つながりづくり”

一方で地域の中では、住民の思いから生まれた青少年の社会参加の場の創出や支えあいの取組、つながりづくりやまちづくりのための各種団体の取組など、インフォーマルな活動が無数に展開されています。（こうした一つひとつの取組は、ハートプランの理念に通ずるものでありながら、ハートプ

ランがなくても展開されるものとも言えます。)

ハートプランを通して、活動する地域や領域が異なるこれらの取組について、情報発信・情報共有する仕組みを充実させることで、「知り」、「つながり」、「つながった人が参考にする」、「手を取りあって協力する」などの広がりを生みだしていくことが求められています。

(5) 各地区の歴史的経緯や背景に合わせた地区別計画

ハートプランにおける区計画と地区別計画は、「上位計画 - 下位計画」という関係ではありません。それぞれの営みが連動し支え合う関係となることを目指します。区域で展開される公的サービスや、地域を限定しない福祉サービスも、対象者の生活のすべてを支えられるわけではありません。そのときに、より小さな生活圏域でのつながりなどが、セーフティーネットの網をきめ細かくすることができます。また、その逆も同様であり、地域のつながりだけでは解決できない事柄について、公的サービス等につながる仕組みづくりや、情報を持つ住民を増やしていく取組が区域で求められます。

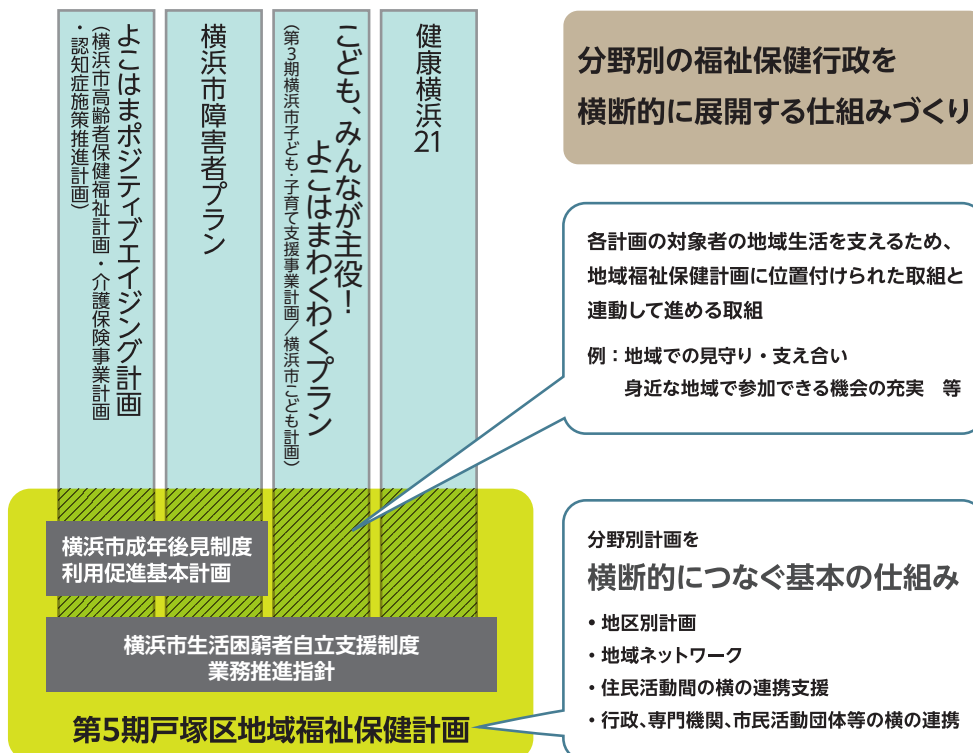
戸塚区内にある18の地区は、それぞれに異なる歴史や背景を積み重ねてきています。また、自治会町内会活動など、普段あまり“福祉保健活動”とは捉えていない活動についても、実はハートプランの理念に資するような活動が脈々と展開されています。

ハートプランの策定・推進を、身近な地域の歴史や取組について少し立ち止まって捉え返す機会とし、ひいては地域への愛着を醸成する機会にしていいただければと思います。

(6) 福祉保健の分野別計画をつなぐ

横浜市では、高齢者、障害者、子ども、健康といった福祉保健の分野ごとに、目指す姿や具体的な取組などをまとめた計画を策定しています。

ハートプランは、“地域”という視点で分野別計画を横断的につなぐことで、子どもから高齢者まで、年齢や障害の有無、性別や国籍の違いに関わらず、すべての人の地域生活を支えることを目指すものです。



2 第4期計画の振り返り

(1) 主な取組と成果

〈基本目標1：支えあいと助けあいのあるまち〉

- 地域内の福祉活動団体・ボランティア団体に限らず、地域のサークル・団体・企業等との連携により、地域活動を行うことができています。
- 民生委員・児童委員、主任児童委員の活動、みまもりネットの協力事業者、子育て連絡会、認知症カフェの情報交換等を通して、地域の助け合いの活動の広がりが見られます。
- 認知症に関する啓発事業、障害者週間シンポジウムでの当事者からの発信、学校等での福祉教育、障害者施設など関係機関による横のつながりを生かして、また書店との連携による啓発活動を広げ、地域の人への啓発を進めています。
- 子育てや介護をしている人同士のつながりを通して、課題やニーズに合わせた取組が推進されています。

〈基本目標2：みんながふれあう場のあるまち〉

- 高齢者サロン、子育てサロン、地域食堂やこども食堂など多様な形の地域活動団体の取組が広がっています。
- ボランティア入門講座や地域づくり大学校の開催等により、活動のきっかけを作り、地域活動をより身近に感じてもらうことで活動につながっています。
- 社会福祉法人施設や地区社協が話し合うことにより、多様な主体が地域課題や個別課題を共有することにつながっています。また、区内大学との連携した取組も進み、新たな人材の発掘にもつながっています。

〈基本目標3：安全・安心、人にやさしいまち〉

- 地域防災拠点訓練、マンション防災の取組（情報交換会等）、災害時要援護者支援説明会での実技演習の実施等を通して、災害時の助け合いの仕組みづくりが進められています。
- 日常生活の行動（ランニングやウォーキング、犬の散歩など）とむすびつけ、地域の見守りや防犯活動が広がりました。
- 権利擁護に関する講座、こどもの権利に関する広報や研修の開催、エンディングノートの配布を通して、一人ひとりの権利が守られ、自己決定するという環境づくりが進められています。
- 食品配布会や区内イベント等で幅広く、生活困窮者支援の制度や相談先の周知等を進めることができました。また、区内高校との連携を深め、福祉制度の周知及び新たな担い手として活動の一端を協働し、様々な関係機関との連携強化を図ることができています。

〈基本目標4：いつまでも元気で健やかに暮らせるまち〉

- 働き世代への健康づくりの機会の提供、大学との連携した取組の実施、子育て世代へ公園遊びの機

会をつくる等、様々な世代に向けた取組が行われ、健康づくりの機会が広がりました。

○介護予防ボランティア養成講座の開催や、保健活動推進員・青少年指導員・スポーツ推進委員・食生活等改善推進員（ヘルスメイト）等の活動を通して、地域での健康づくり活動が広がっています。

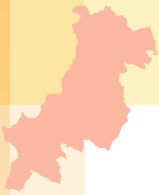
○在宅医療相談室や在宅療養連絡会との連携、医療機関同士の横のつながりの強化等、医療・保健・福祉の連携が進められています。

(2) 第5期計画への課題

- ・「支援する側 - 支援を受ける側」ではなく、「**お互いさま**」の関係づくり
- ・**多様性（個性）**について、関係者だけでなくより多くの人に伝えていく必要
- ・**様々な背景や価値観**を持つ人同士が、お互いのことを分かり合えるような取組
- ・**ヤングケアラー、不登校・ひきこもり（8050問題）、ごみ屋敷**といった事象への対応
- ・支援を必要としている人へ、**必要な支援が届く仕組み**づくり
- ・**子どもが安心して遊べる・過ごせる公園・場の存在**
- ・**障害のある人の孤立**、周囲からの**理解、関わり方**がわからない
- ・**学齢期**の土日の居場所、教育格差、**いじめ、発達障害**への理解
- ・**情報**が届かない、**つなぎ先**がわからない、橋渡しができない
- ・**学校**との連携
- ・**企業**との連携
- ・**当事者**に届いているのか
- ・支援につながっていない人や**子どもの声**が聴けていない
- ・地域活動に参加したい**外国人**が受入れられるために、受入れ側や支援者の理解や配慮が必要
- ・切れ目のない支援につながる当事者への情報提供や関係機関の連携
- ・**継続的な場づくり**のための人材確保
- ・**災害時要援護者**が発災時に取り残されないよう、**日ごろからの地域との関係**づくり
- ・様々な複合的課題を抱えた人への支援に関係機関の連携強化が必要
- ・**昼間に大人が地域にいない**

高齢化の進行や社会情勢の変化とともに、生活課題が複雑かつ複合的になっています。こうした課題に対応していくためには、お互いの立場を越え、お互いを理解し合い、手を取り合い、地域全体で力を合わせていく必要があります。

第5期は「すべての人・団体・法人がお互いを知りあい、認めあい、尊重しあい、これまでの枠を飛び越えて力を合わせる」ことが必要です。



3 推進体制

ハートプランを推進するのは、戸塚区に関わるすべての人・団体・法人（機関・事業者等）です。

それぞれの立場や役割などに応じて、「誰もが安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現」に向けて、「知る」「つながる」「組む」の3つのアクションに取り組んでいきましょう。



4 区計画と地区別計画の関係

区計画と地区別計画は、それぞれの営みの中で連動しながら支え合い、補い合う関係です。

区計画にとって地区別計画は、取組の中身をよりきめ細やかにし、より効果的なものにしてくれる存在です。公的なセーフティーネットも、連綿と続く地域での様々な活動やつながりがあってはじめて、その網の目を細かくすることができるのです。

一方、地区別計画にとって区計画は、共通する課題や情勢に応じた取組として、参考となる存在です。各地区の取組だけでは解決が難しい課題などについて、適切に支援やサービスにつながり、解決が図れるよう区域での仕組みを整えていきます。

区計画と地区別計画の関係を生かしていくにあたっては、区役所・区社協・地域ケアプラザの職員で構成される各地区の地域連携チームがその役割を担っていきます。専門機関として把握している情報を共有して地域へ提供したり、住民が感じている地域課題を把握して区計画の営みの中で解決を図れるよう関係各所へつなぐなどの動きをしていきます。

5 区役所・区社協・地域ケアプラザの役割

区役所、区社協、地域ケアプラザが、専門機関としてそれぞれ福祉保健活動の中心を担いながら、計画の事務局として様々な推進主体の連携強化・つながりの促進を図っていきます。

◆ 区役所

区役所は、地域福祉保健の総合的な第一線の機関として、区域全体を俯瞰しつつ下支えしていく役割を担います。また、福祉保健に関わる部署のみならずすべての部署が、福祉保健課題に対応するまちづくり・つながりづくりのために連携して取組を進めます。

- 地域の状況やニーズ、個別の支援を通じて把握した地域課題や潜在的な課題を、地域住民や関係機関、事業者と共有し、課題解決に向けて連携・協働しながら取組を進めます。
- 地域において福祉保健への関心や理解が深まり、人と人とがつながることで、地域全体で支え合えるよう、支援します。
- 地域の中に存在するあらゆる主体が、地域の力として活躍し役割を果たしていけるよう仕組みづくりや関係づくりを進めていきます。

◆ 区社協（区社会福祉協議会）

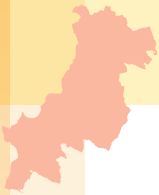
区社協は「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなで作ります」という活動理念のもと、地域住民や様々な団体・施設・関係機関等とともに福祉のまちづくりを進めます。

- 権利擁護・食支援などの個別サービス事業や戸塚区社協ふれあい助成金を通じて、困りごとを抱えている住民の支援や地域の福祉活動の推進に取り組みます。
- こどもから大人まですべての人を対象に、福祉教育やボランティア講座等を開催することで、福祉に関する理解・啓発や福祉活動の担い手の裾野を広げます。
- 共同募金や善意銀行等の業務を通して、地域から寄付金品等をお預かりして、福祉施設や福祉活動団体等に配分を行い、地域福祉の推進に生かします。

◆ 地域ケアプラザ

地域ケアプラザは、地域の身近な福祉保健活動の拠点として、地域支援の中核的な役割を担います。具体的には、次のような役割を果たします。

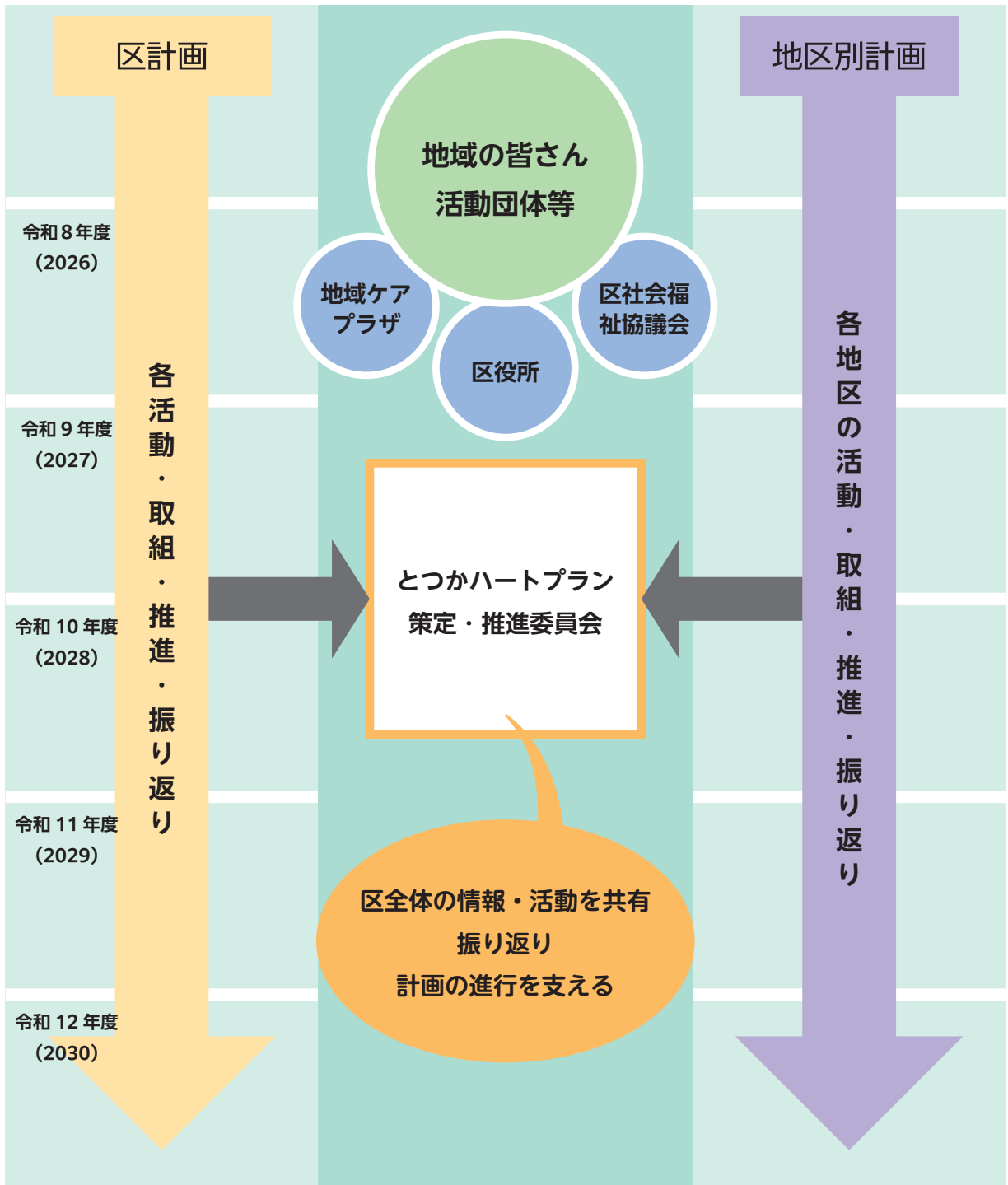
- 世代や分野を問わず、様々な相談を受け止めることで地域の困りごとや住民の声を把握し、各職種の専門性を生かしながら支援を行います。
- 自主事業の実施や福祉保健活動団体への活動の場の提供により、地域住民との顔の見える関係づくりやネットワークづくり、活動の担い手発掘を進めます。
- 構築した関係やネットワークを生かし、地域住民や団体と連携しながら地域の課題解決に取り組むことで、地域の中で見守り、支え合う仕組みづくりを進めます。



6 第5期計画の推進と振り返り

推進のイメージ

第5期計画は、みんなでつくって、みんなで取り組み、みんなで振り返ることが基本となります。『「戸塚スタイル」をまちぐるみで!』を合言葉に、「知る」、「つながる」、「組む」の3つのアクションを、それぞれ「おもいあい」と「枠にとらわれない」という2つの視点をキーワードに取り組みます。



7 振り返りのための視点

第5期計画を推進するうえで大切なのは、結果や成果を出すことだけではありません。より多くの人主体的に参加し、取り組んでいく、その過程にも大きな意味があります。毎年度、振り返りを行い地域の皆さんと事務局、ハートプラン策定・推進委員の皆さんと推進の状況を共有して、次年度の取組に反映させていきます。

そのために「5年後に目指すまちの姿」と「5年間で進める3つのアクション」を軸にして、ハートプラン策定・推進委員の構成団体である、区役所や区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、関係機関の皆さんや自治会町内会をはじめとした地域の活動団体の人も含め、みんなで振り返りを行います。地域でのハートプラン推進の状況も把握しながら、戸塚区全体でハートプランを推進します。

視点1

5年後に目指すまちの姿

- ① おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまち
- ② その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまち
- ③ 困っている人に気づき支えつなげることのできるまち
- ④ 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまち
- ⑤ 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまち
- ⑥ 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまち

視点2

5年間で進める3つのアクション

「おもいあい」「梓にとらわれない」をキーワードに
3つのアクション「知る」「つながる」「組む」を進める



みんなでつくって、みんなで取り組み、
みんなで振り返り、よりよい戸塚を目指して
推進していくよ！！

あ行

aqua フェスタ	22
いこいの家夢みん	28
医療機関情報交換会	49
インクルーシブスポーツ	16
ACP (人生会議)	34
エンディングノート	34
お家で避難	46
お茶の間楽交	22
踊場公園こどもログハウス	23

か行

介護予防・元気づくりステーション	23
ガイドボランティア (戸塚区移動情報センター)	34
キララの教室	18
ぐるーぷ・ちえのわ	42
グループホームでの暮らしの紹介	36
健康測定会	22
交流広場とつか	22
呼吸器生活向上委員会「こどもハッシン!—呼吸器生活向上 PROJECT—」	17
子育てサポート連絡会 (要保護児童対策地域協議会)	30
こども家庭センター	41
こどもの意見表明権	30
こどもの居場所	29
こまちカフェ・こよりどうカフェ	42
コミュニティ研究部会によるイベント	16
こらぼ会	43

さ行

災害時要援護者支援事業	47
災害に備えた備蓄	48
自治会町内会	24
SHIP	19
社会を明るくする運動	34
障害者週間シンポジウム～とつかで暮らす～	16
生活困窮者自立支援制度	29
生活に困りごとを抱えている人への支援	31
成年後見制度	35
そらいるテラス	34

た行

地域×企業 防災デイ	47
チームオレンジ	28

地域ケア会議	16
地域防災拠点	48
中途障害者地域活動センター とつかわかば	37
つながるフェスタ	28
とつかお結びプロジェクト	40
戸塚区子育て連絡会	40
戸塚区災害医療連絡会議	49
戸塚区地域子育て支援拠点とつとの芽・とつとの芽サテライト	35
戸塚区地域自立支援協議会	37
戸塚区地域ネットワーク見守り事業「みまもりネット」	28
戸塚区福祉保健活動拠点「フレンズ戸塚」	35
とつか区民活動センター	17
戸塚区ランニングパトロール	47
戸塚区わんわんパトロール隊員	47
とつか公園あそび隊	23
戸塚高校定時制×地域活動	40
戸塚ものづくり自慢展	40

な行

認知症サポーター養成講座	28
--------------	----

は行

PPK（ピンピンコロリ）大作戦	22
フードバンク浜っ子南	29
福祉教育	16
福祉施設と地域の連携	47
ふれあい広場よつば	42
防災イベント	47
ボランティアのいろは	22

ま行

マイ・タイムライン	46
マンション防災活動への支援	46
「未来へのおくりもの」プロジェクト	43
民生委員・児童委員、主任児童委員	29
もしも手帳	34

や行

ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ	23
よこはま南部ユースプラザ	31
夜サロン	22

参考1 計画の策定経過

第5期とつかハートプランができるまで



令和5年度

- 6月～7月 区民意識調査
- 7月 令和5年度第1回策定・推進委員会
第5期計画策定に向けて大切にしていきたい内容を意見交換
- 1月 地区情報共有連絡会
地区別にグループワークを行い、第5期に向け目指していきたいことなどを共有
- 3月 令和5年度第2回策定・推進委員会
第5期計画骨子作成に向けた意見交換「話そう、これからの戸塚」



令和6年度

- 5月 令和6年度第1回検討部会
日頃から学齢期の子どもたちと接点の多い「青少年指導員」「スポーツ推進委員」が策定・推進委員のメンバーに加入!
- 7月 令和6年度第1回策定・推進委員会
素案作成に向けた意見交換を実施
- 8月 令和6年度第2回検討部会
- 9月 地区別計画策定説明会
第5期地区別計画策定に向けて地区別のグループワークを実施
策定に向けたスケジュールを確認
- 11月 戸塚ふれあい区民まつり
「今日からできそうなこと」についてアンケートを実施
令和6年度第3回検討部会
- 12月 臨時策定・推進委員会
ヒアリング内容、策定・推進委員からの意見や地域関係機関の情報を共有
当事者、支援者の声をふまえた新たな取組やアイデアについて意見交換
- 2月 令和6年度第4回検討部会
- 3月 令和6年度第2回策定・推進委員会
素案作成に向けた意見交換

骨子完成



21の団体や区内で活躍されている人たちにヒアリングを実施

「検討部会」
策定・推進委員の中から選出された委員と事務局が議論の整理を一緒に行いました。



令和7年度

- 5月～6月 素案に対する意見募集
- 7月 令和7年度第1回検討部会
令和7年度第1回策定・推進委員会
意見募集の結果を共有し、原案に向けた意見交換
- 10月 令和7年度第2回検討部会
- 11月 令和7年度第3回検討部会
令和7年度第2回策定・推進委員会（原案確定）
- 3月 令和7年度第3回策定・推進委員会
第5期計画の推進に向けた意見交換

素案完成

区内18地区で第4期の振り返り第5期地区別計画を作成

第5期とつかハートプラン 完成



第5期とつかハートプラン 開始

参考2 意見募集の概要

素案の内容について、令和7年5月20日から6月20日まで意見募集を実施しました。

【実施結果】

(1) 提出件数：24の個人・団体より延べ136件の意見が寄せられました。

5年後に目指すまちの姿	意見数
1 おたがいの違いをわかりあい認めあい尊重しあえるまちになっている	15
2 その人らしいつながりの中でいきいきと暮らせるまちになっている	30
3 困っている人に気づき支えつなげることのできるまちになっている	24
4 誰もが安心して暮らせる仕組みや場が充実したまちになっている	24
5 戸塚区に関わるすべての人・団体・法人が力をあわせるまちになっている	16
6 防災・防犯・健康危機管理についてみんなで備えるまちになっている	6
7 全体	21
合 計	136

(2) 第5期計画推進に向けての意見（一部抜粋）

- とつかハートプランの取組は、豊かな地域社会を作っていく上でとても重要であると思う。多様性を認め合いながら、それぞれの居場所をつくる。誰もが、かけがえのない人間として輝いて生きていけるよう、この取組を遂行して欲しい。近年は、地域社会の関係性が希薄であるが、人との繋がりが生活を豊かにし、安心、安全な社会を形成していくことを伝えていきたい。
- 第3期と第4期で人との交流、顔の見える関係づくり、人を支える仕組みづくりが取り組まれ、第5期においてお互いを尊重し助けあえる枠にとらわれない関係づくりが出来ると誰もが安心して暮らせると思いました。
- ハートプランの推進にあたり、連合町内会、地区社協が中心になるかと思うが、法人（地元企業、事業者、商店街等）の方に関わってもらうにあたり、地区別のハートプランの場に毎回参加して頂くのはハードルが高いかと思しますので、法人の意見を聞きながらハートプランに参画してもらいやすくする仕組みづくりが必要なのではと感じます。
- 素案ではすばらしいアイデアが書かれています。実現する場所が課題です。
地区センター、図書館の整備、増設が必要です。図書館では様々な講習会を開くことを期待します。明治学院大学や横浜薬科大学などの協力も得て、教養講座を行うことなども豊かな人生の実現に役に立つでしょう。音楽活動をする公共の施設が少ないです。気軽に安く使える音楽室も作ってほしいです。

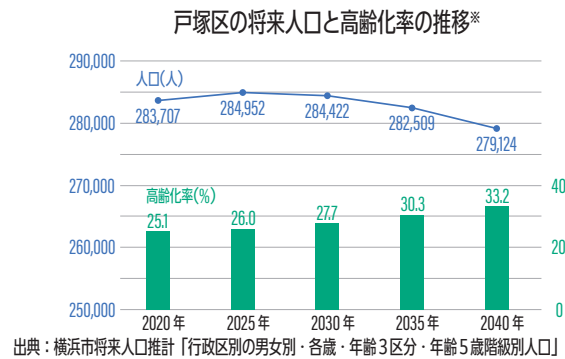
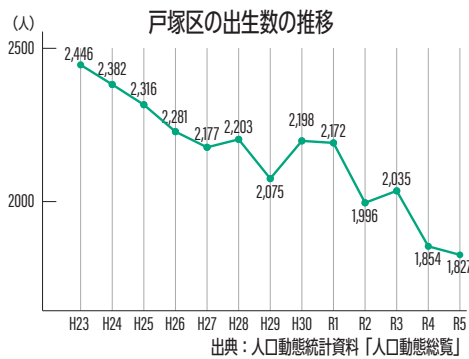
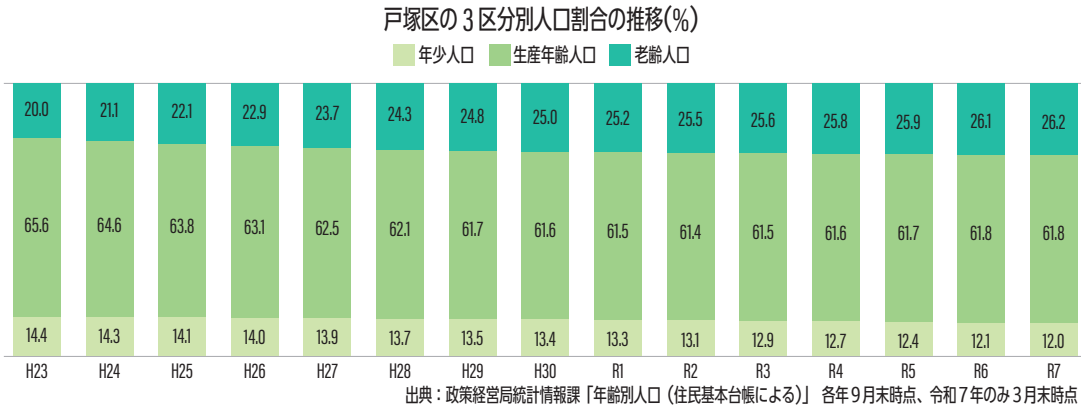
(3) いただいたご意見への対応

分 類		件数
修正・追加	「5年後に目指すまちの姿」の「みんなの意見」に追加したもの	9
参考	取組事例への記載内容や計画推進の参考としたもの	127
	合 計	136

参考3 統計データから見た戸塚区

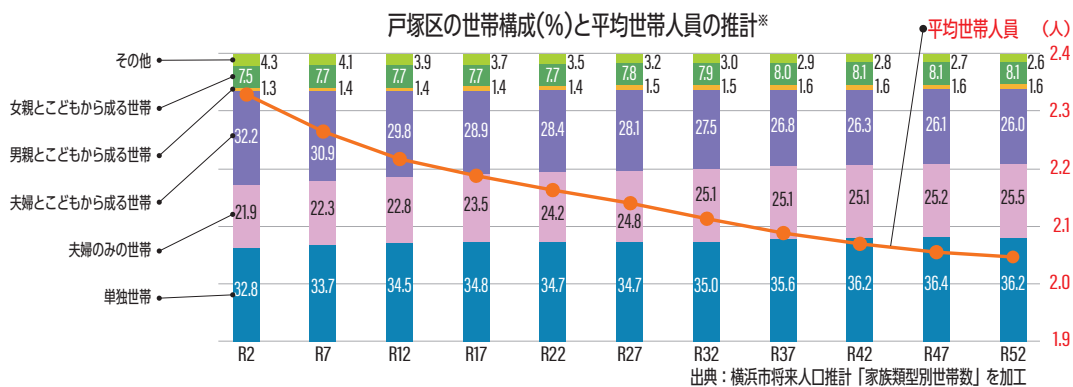
■ 人口割合の推移と将来人口 ■

令和7年から減少すると見込まれていた戸塚区の人口は見込みより早く令和4年から減少傾向にあります。その中において出生数、年少人口は年々減少し、一方で高齢人口が増加しており、今後も少子高齢化がより進んでいくことが見込まれています。



■ 世帯構成 ■

世帯規模は縮小化しています。従来は家族で行っていた子育てや介護は、公的なサービスだけでなく、地域全体で支えていく必要性が高まっています。

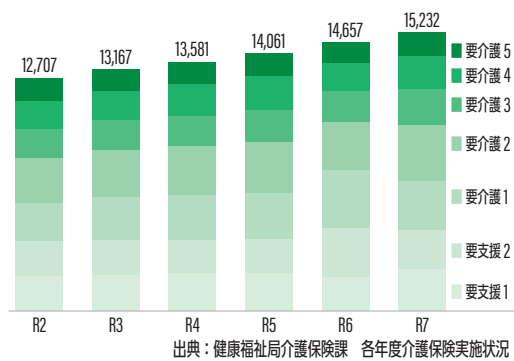


* 横浜市では、令和2(2020)年国勢調査の結果を基準人口として、2070年までの将来人口・世帯数の推計の結果を令和6(2024)年に公表しており、その結果を活用しています。

■ 要介護認定者数 ■

高齢者人口の増加に伴い、要介護・要支援認定者数も増加しています。

高齢者を支える仕組みづくりに加えて、健康づくりや介護予防の取組を進めていく必要があります。

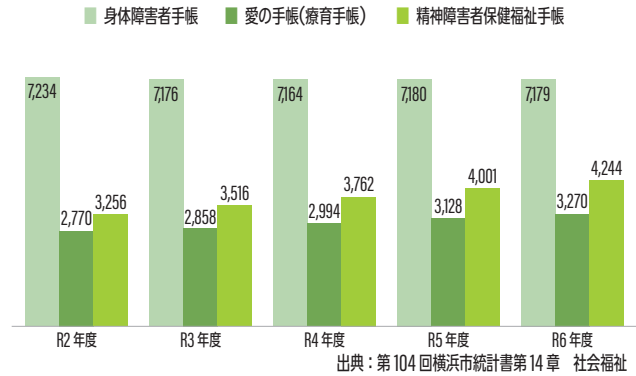


■ 障害者手帳所持者数 ■

障害のある人の手帳は、障害の種類によって身体・知的・精神の3種類に分かれています。

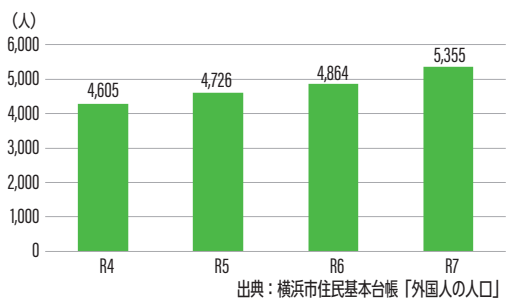
知的障害の手帳（愛の手帳）・精神障害者保健福祉手帳の所持者が増加しています。

障害者が安心して暮らせる地域づくりが必要です。



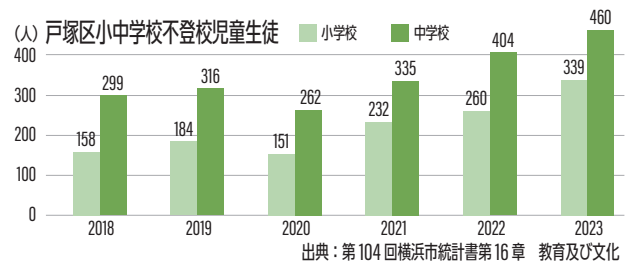
■ 外国人人口 ■

近年、外国人人口は増加しています。在住外国人は言葉の壁などの理由から困りごとを抱えやすい状況があります。誰もが安全・安心に暮らすことができる地域づくりには多文化共生の視点も必要になってきています。



■ 不登校児童生徒数 ■

戸塚区内の小中学校において、年度内に30日以上登校しなかった児童生徒数（ただし、「病気」や「経済的理由」、「新型コロナウイルスの感染回避」による者を除く）は年々増加しています。



本項目のグラフ内における年号(和・西暦)は出典元のデータに合わせて表記しています。

参考4 とつかハートプラン策定・推進委員会

【とつかハートプラン策定・推進委員会】

第5期とつかハートプランの取組状況の確認や今後の方向性に関して、区計画に関係する機関の代表者と意見交換を行い、福祉保健を一体的に推進します。

委員名簿

(敬称略) ◎座長

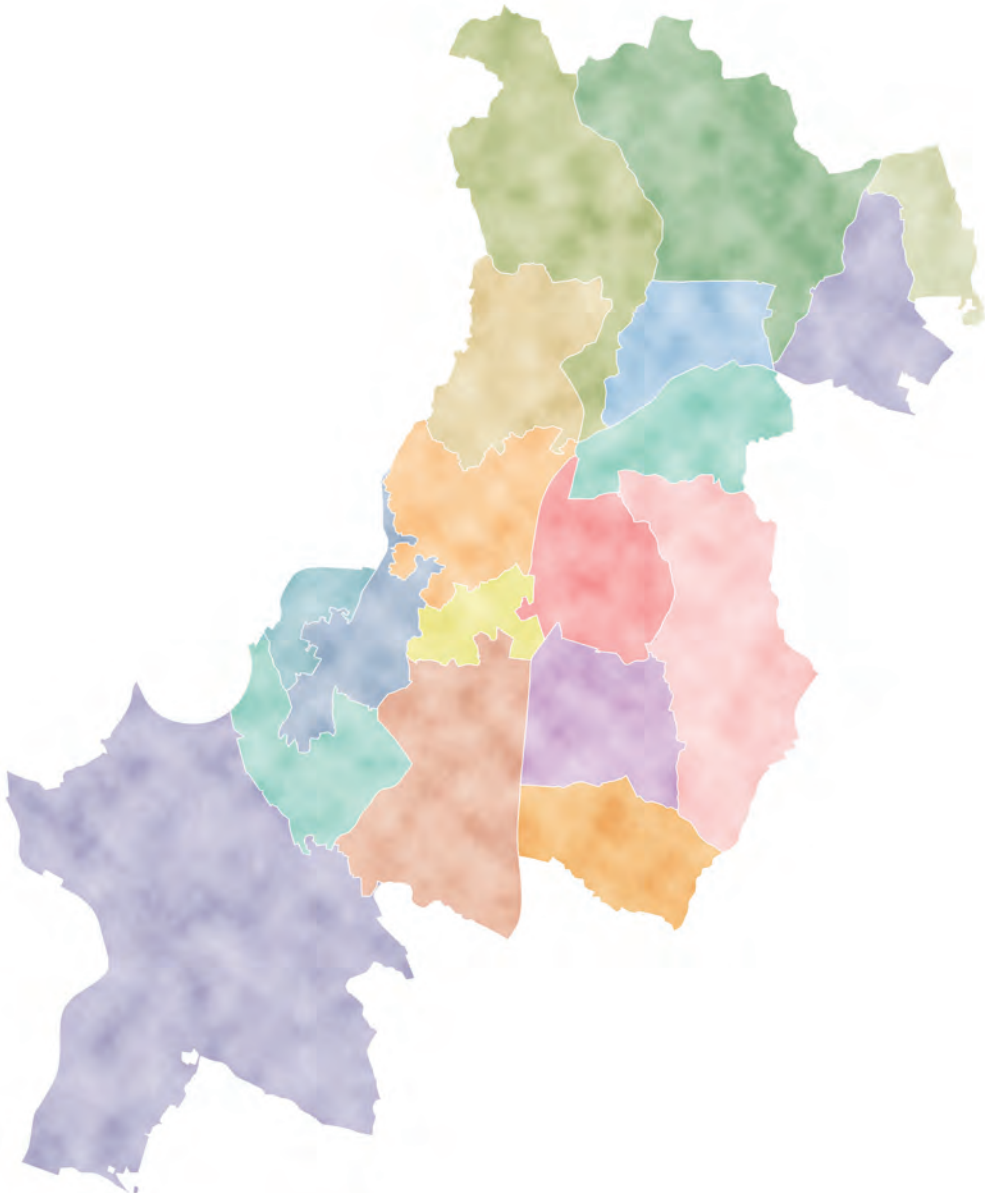
氏名	団体・組織名称
石井 徹 (令和7年12月から)	戸塚区民生委員児童委員協議会 会長 (汲沢地区民生委員児童委員協議会 会長)
川邊 正子 (令和7年11月まで)	戸塚区民生委員児童委員協議会 会長 (大正東地区民生委員児童委員協議会 会長)
上田 桂子	戸塚区社会福祉協議会ボランティア部会 代表 (小田急すみれサロン 代表)
江橋 志津栄	戸塚区保健活動推進委員会 副会長 (柏尾地区保健活動推進委員会 会長)
小倉 徹	戸塚区社会福祉協議会専門機関部会 部会長 (特別養護老人ホーム 松みどりホーム 施設長)
金山 保	戸塚区青少年指導員協議会 会長 (汲沢地区青少年指導員協議会 会長)
◎菊池 賢児	戸塚区連合町内会自治会連絡会 会長 (踊場地区連合町内会 会長)
栗田 智則 (令和7年7月から)	戸塚区中学校長会 会長 (横浜市戸塚中学校 校長)
小佐野 和人 (令和7年6月まで)	戸塚区中学校長会 会長 (横浜市豊田中学校 校長)
栗田 優	戸塚区スポーツ推進委員連絡協議会 会長 (戸塚第一地区スポーツ推進委員連絡協議会 会長)
後藤 喜彦	公益財団法人横浜市スポーツ協会 戸塚スポーツセンター所長
近内 靖子	戸塚区主任児童委員連絡会 代表 (大正東地区主任児童委員)
佐々木 ゆかり	戸塚区地域ケアプラザ連絡会 (汲沢地域ケアプラザ 所長)
添田 守男	株式会社タウンニュース社横浜南支社 支社長
田中 秋人	戸塚区小学校長会 会長 (横浜市立舞岡小学校 校長)
寺尾 正彦 (令和7年7月から)	社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会 会長
西村 邦夫 (令和7年6月まで)	社会福祉法人横浜市戸塚区社会福祉協議会 会長
中瀬 明德	戸塚区地域自立支援協議会 (東戸塚地域活動ホームひかり 施設長)
福本 雅美	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽 施設長
三木 英之	戸塚区医師会 会長 (とつか西口整形外科 院長)
緑川 斉	戸塚区福祉保健センター長
山田 純子	戸塚区社会福祉協議会市民活動推進分科会 代表 (東戸塚地区配食サービスの会「にこにこネットワーク」)
依田 浩美	とつか区民活動センター長
米山 かおる	戸塚区食生活等改善推進委員会 会長
藁科 文男	戸塚区社会福祉協議会地区社協分科会 代表 (戸塚第一地区社会福祉協議会 会長)

令和7年度に委嘱した委員を掲載

参考5 関係機関

関係機関一覧

	名称	電話番号	FAX番号
ケアプラザ	上矢部地域ケアプラザ	045-811-2442	045-811-2499
	東戸塚地域ケアプラザ	045-826-0925	045-824-8615
	上倉田地域ケアプラザ	045-865-5700	045-865-5711
	汲沢地域ケアプラザ	045-861-1727	045-861-3428
	平戸地域ケアプラザ	045-825-3462	045-825-3464
	原宿地域ケアプラザ	045-854-2291	045-854-2299
	舞岡柏尾地域ケアプラザ	045-827-0371	045-827-0375
	南戸塚地域ケアプラザ	045-865-5960	045-860-0554
	下倉田地域ケアプラザ	045-866-2020	045-860-0200
	名瀬地域ケアプラザ	045-815-2011	045-815-2014
	深谷俣野地域ケアプラザ	045-851-0121	045-851-0122
区社協	戸塚区社会福祉協議会	045-866-8434	045-862-5890
	あんしんセンター	045-869-3139	
	とつかボランティアセンター	045-866-8483	
	戸塚区移動情報センター	045-862-5091	
区役所	総務課	045-866-8305	045-881-0241
	区政推進課	045-866-8321	045-862-3054
	地域振興課	045-866-8411	045-864-1933
	福祉保健課	045-866-8418	045-865-3963
	高齢・障害支援課	045-866-8429	045-881-1755
	こども家庭支援課	045-866-8466	045-866-8473
	生活支援課	045-866-8431	045-866-2683
関係機関	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽	045-820-2885	045-825-6885
	戸塚区地域子育て支援拠点 とつとの芽 サテライト	045-410-7010	045-410-7010
	戸塚区基幹相談支援センター（東戸塚地域活動ホーム ひかり）	045-828-2821	045-825-3199
	戸塚区生活支援センター	045-350-5292	045-390-0850
	とつか区民活動センター	045-825-6773	045-825-6774



第5期とつかハートプラン（戸塚区地域福祉保健計画）

事務局・お問合せ先



横浜市戸塚区役所 福祉保健課 事業企画担当

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17

TEL 045-866-8424

FAX 045-865-3963

Eメール: to-tihukuho@city.yokohama.lg.jp



社会福祉法人 横浜市戸塚区社会福祉協議会

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町167-25

TEL 045-866-8434

FAX 045-862-5890

Eメール: info@totsukashakyo.com

ほら、
よこはまは
あったかい

令和8(2026)年4月発行

第5期とつかハートプラン 🔍

